

アーツカウンシル・ネットワーク年鑑 2023

2024年3月
アーツカウンシル・ネットワーク

目次

掲載団体所在地図	-----	4
掲載団体の令和4年度決算		
加盟団体・収入の部	-----	6
加盟団体・支出の部	-----	7
オブザーバー・収入の部	-----	8
オブザーバー・支出の部	-----	9
団体個票		
加盟団体		
アーツカウンシル東京（公益財団法人東京都歴史文化財団）	-----	12
神奈川県共生共創事業（公益財団法人神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課）	—	16
信州アーツカウンシル（一般財団法人長野県文化振興事業団）	-----	18
アーツカウンシルしずおか（公益財団法人静岡県文化財団）	-----	22
京都府文化生活部文化芸術課	-----	26
大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会（大阪アーツカウンシル）	—	28
おokayama文化芸術アソシエイツ（公益社団法人岡山県文化連盟）	-----	30
アーツ・コンソーシアム大分（公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団）	—	34
アーツカウンシルみやざき（公益財団法人宮崎県芸術文化協会）	-----	36
沖縄アーツカウンシル（公益財団法人沖縄県文化振興会）	-----	38
アーツカウンシルさいたま（公益財団法人さいたま市文化振興事業団）	-----	40
アーツコミッション・ヨコハマ（公益財団法人横浜市芸術文化振興財団）	—	42
公益財団法人川崎市文化財団	-----	46
アーツカウンシル新潟（公益財団法人新潟市芸術文化振興財団）	-----	48
浜松アーツ&クリエイション（公益財団法人浜松市文化振興財団）	-----	52
堺アーツカウンシル（堺市文化観光局文化国際部文化課）	-----	54
オブザーバー		
埼玉県県民生活部文化振興課	-----	58
公益財団法人三重県文化振興事業団	-----	59
鳥取藝住実行委員会	-----	60
宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	-----	64
アーツカウンシル鹿児島設立準備機構	-----	66
川崎市	-----	70
アーツカウンシル金沢（公益財団法人金沢芸術創造財団）	-----	72
京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化芸術企画課	-----	74
公益財団法人広島市文化財団	-----	76

アートカウンシル・ネットワークについて

アートカウンシル・ネットワークは、文化芸術推進基本計画（平成30年3月6日閣議決定）を踏まえ設立されました。本ネットワークは、独立行政法人日本芸術文化振興会と全国各地のアートカウンシル機能（専門家による助言、審査、評価、調査研究等の機能）を有する「地域アートカウンシル」を加盟団体とする連携・交流ネットワークです。地域アートカウンシルの設置を検討している自治体等の団体や、地域アートカウンシル設置済みの自治体は、オブザーバーとして本ネットワークの活動に参加しています。それぞれの課題やノウハウを共有することで連携を促進し、地域における文化芸術の推進体制の構築、発展を図ることを目的としています。

アートカウンシル・ネットワーク年鑑について

多様化するアートカウンシル機能を持つ団体の取り組み等をまとめることで、各団体の実態や活動を可視化・発信していくことを目的として、作成しています。

掲載団体の令和4年度決算

掲載団体の令和4年度決算（加盟団体・収入の部） 単位：円

	団体概要		収入の部												
	創立年	事務局職員数	公的支援				民間支援・寄付		助成団体		事業収入		その他		収入合計(円)
			国	内訳	地方自治体	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)			
(独) 日本芸術文化振興会															
アーツカウンシル東京	2012	92	-	-	1,977,000,000	出捐金、負担金、補助金	-	-	-	-	2,000,000	-	10,000,000	-	1,989,000,000
(公財) 神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課	2018	8	0	0	75,000,000	県委託費（県申請の国庫補助金あり）	0	0	0	0	2,905,000	参加費	0	0	77,905,000
信州アーツカウンシル	2022	9	21,087,678	文化庁文化芸術創造拠点形成事業補助金	65,085,810	長野県文化振興基金	0	0	0	0	132,424	外部委員報酬、調査協力費等	3,823	手数料、預金利息	86,309,735
アーツカウンシルしずおか	2021	11	0	0	130,139,603	県補助金(130,139,603)	0	0	0	0	97,566	研修事業(97,566)	2,096,297	雑収入(1,004,297) 県社協委託(1,092,000)	132,333,466
京都府文化生活部文化芸術課	2017	6	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
大阪アーツカウンシル (大阪府市文化振興会議 アーツカウンシル部会)	2013	4	0	0	5,309,097	大阪府：2,496,039円 大阪市：2,813,058円	0	0	0	0	0	0	0	0	5,309,097
おかやま文化芸術アソシエイツ	2017	5	0	0	16,133,000	県負担金(6,235,000) 県共催分担(9,898,000)	-	-	-	-	-	-	-	-	16,133,000
アーツ・コンソーシアム大分	2016	1	-	-	360,035	財団基金取崩金	-	-	-	-	-	-	-	-	360,035
アーツカウンシルみやざき	2019	2	4,978,000	文化庁創造拠点形成事業	11,979,620	県委託(11,979,620)	0	0	0	0	0	0	0	0	16,957,620
沖縄アーツカウンシル	2012	8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アーツカウンシルさいたま	2022	7	-	-	38,223,000	市負担金	-	-	-	-	-	-	-	-	38,223,000
アーツコミッション・ヨコハマ	2007	3	0	0	36,900,000	市補助金(36,900,000)	50,000	寄付金(50,000)	2,897,330	財団自主財源(2,897,330)	0	0	214,960	-	40,062,290
(公財) 川崎市文化財団	1985	6	-	-	1,500,000	市補助金	-	-	-	-	-	-	-	-	-
アーツカウンシル新潟	2016	7	0	0	28,125,931	市補助金(28,125,931)	1,177,319	WAON(1,177,319)	0	0	3,159,580	芸術振 AC-net(3,145,060) 自主財源充当 県コロナ委託(14,520)	11,671,646	雑収益(22,000) 自主財源充当(11,649,646)	44,134,476
浜松アーツ&クリエイション	2018	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
堺アーツカウンシル	2021	4	2,522,000	文化庁補助金(2,522,000)	-	-	527,000	クラウドファンディング(527,000)	-	-	-	-	-	-	3,049,000

掲載団体の令和4年度決算（加盟団体・支出の部） 単位：円

	支出の部													備考	
	助成事業 (採択件数)		調査研究事業		制作事業		運営事業		他機関との連携事業		事務局運営 管理費 (人件費含む)	その他			支出合計 (円)
	件数	件数	件数	件数	件数	件数	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)						
(独) 日本芸術文化振興会															
アーツカウンシル東京	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1,961,000,000	事業費	1,961,000,000	
(公財) 神奈川芸術文化財団 社会連携ポータル課	0	0件	490,000	20件	14,750,000	4件	25,185,000	シニアダンス、シニア劇団3 劇団 (25,185,000)	0	0	26,980,000	10,500,000	広報費 (9,000,000) 会場使用料 (1,500,000)	77,905,000	収支ともに神奈川県共生共 創事業の決算を記載
信州アーツカウンシル	20,236,978	21件	0	0件	23,770,499	4件	0	0	0	0	42,089,016	213,242	財団管理費支出(繰越 積立)、消費税	86,309,735	
アーツカウンシルしずおか	41,072,189	31件	2,000,000	1件	14,834,159	6件	0	0	0	0	72,233,255	2,193,863	繰越金 (2,193,863)	132,333,466	
京都府文化生活部文化芸術課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
大阪アーツカウンシル (大阪府市文化振興会議 アーツカウンシル部会)	0	0件	1,205,270	2件	0	0件	0	-	0	0	4,103,827	0	0	5,309,097	・事務局職員数…事務局専 任ではなく、他の業務も担 当している大阪府職員2名及 び大阪市職員1名が事務局ス タッフを兼任している ・支出には大阪府・大阪市 職員の人件費は計上なし
おかやま文化芸術アソシエイツ	1,550,000	13件	6,010,000	108件	6,055,000	9件	-	-	-	-	2,518,000	-	-	16,133,000	
アーツ・コンソーシアム大分	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	360,035	-	-	360,035	
アーツカウンシルみやざき	7,000,000	29件	0	0件	0	0件	0	0	0	0	9,957,620	0	0	16,957,620	
沖縄アーツカウンシル	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシルさいたま	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38,223,000	
アーツコミッション・ヨコハマ	7,721,042	5件	0	0件	0	0件	6,502,034	-	0	0	25,839,214	0	0	40,062,290	
(公財) 川崎市文化財団	1,500,000	5件	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	収支ともに、公募型事業委 託に係る委託料のみ記載
アーツカウンシル新潟	1,985,000	6件	2,006,492	29件	240,672	4件	-	県コロナ受託(事務局運営管 理費の人件費を含む)	0	0	37,843,993	2,058,319	芸文振 AC-net (20,58,319)	44,134,476	
浜松アーツ&クリエイション	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
堺アーツカウンシル	15,912,000	33件	-	-	-	-	-	-	-	-	22,924,000	-	-	38,836,000	

掲載団体の令和4年度決算（オブザーバー・収入の部） 単位：円

団体概要		収入の部														
		創立年	事務局職員数	公的支援				民間支援・寄付		助成団体		事業収入		その他		収入合計(円)
				国		地方自治体		内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)			
内訳	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)									
埼玉県県民生活部文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財)三重県文化振興事業団 (三重県総合文化センター)	1994	73	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14,238,000	基本財産運用益 (14,238,000)	14,238,000	
鳥取藝住実行委員会	2016	3	-	-	-	-	156,400	寄付金 (156,400)	8,035,000	中国5県休眠預 金等活用コン ソーシアム (8,035,000)	-	-	58,226	自主財源充当 (58,226)	8,249,626	
宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル鹿児島設立準備機構	2021	12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
川崎市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル金沢	2022	4	0	0	8,400,000	市受託費 (8,400,000)	0	0	0	0	0	0	0	0	8,400,000	
京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化芸術企画課	-	約70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財)広島市文化財団 アーツカウンシル広島準備チーム	-	2	0	0	4,593,586	市受託料 (4,593,586)	0	0	0	0	0	0	0	0	4,593,586	

掲載団体の令和4年度決算（オブザーバー・支出の部） 単位：円

	支出の部													備考	
	助成事業 (採択件数)		調査研究事業		制作事業		運営事業		他機関との連携事業		事務局運営管理 費 (人件費含む)	その他			支出合計 (円)
	件数	件数	件数	件数	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)	内訳(額)							
埼玉県県民生活部文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財)三重県文化振興事業団 (三重県総合文化センター)	2,748,014	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2,748,014	
鳥取藝住実行委員会	-	-	988,759	23件	128,550	8件	-	-	-	-	769,154	-	-	1,886,463	
宮崎県総合政策部みやざき文化振興課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル鹿児島設立準備機構	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
川崎市	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
アーツカウンシル金沢	840,000	28件	311,600	9件	2,439,000	3件	156,000	運営会議開催費	0	0	4,653,400	0	0	8,400,000	
京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化芸術企画課	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
(公財)広島市文化財団 アーツカウンシル広島準備チーム	0	0件	170,658	1件	0	0件	1,755,252	ウェブサイト構築 (1,755,252円)	0	0	2,667,676	0	0	4,593,586	事務局職員のうち1名は兼務のため、当該職員分の人件費は含まない。

AC
NET

团体个票

加盟团体

組織形態

公益財団法人東京都歴史文化財団内に「アーツカウンシル東京」を設置

構成員

令和5年度（12月時点）
 機構長：青柳 正規
 職員：92名

所在地

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-1-28
 九段ファーストプレイス5階・8階

連絡先

アーツカウンシル東京
 TEL 03-6256-8430 / FAX 03-6256-8828

担当者

企画部企画課企画係
 黒澤 実里・藤嶋 明季

ロゴ



自己紹介

アーツカウンシル東京は、新たな芸術文化創造の基盤整備をはじめ、東京の独自性・多様性を追求したプログラムの展開、多様な芸術文化活動を支える人材育成や国際的な芸術文化交流の推進等に取組んでいる。

沿革

2006年

- ・東京都において、政策提言を行う知事の附属機関として「東京芸術文化評議会」を設置

2008年～

- ・公益財団法人東京都歴史文化財団内に東京文化発信プロジェクト室を設置
- ・《東京文化発信プロジェクト》を開始
- ・《東京アートポイント計画》を開始
- ・《ネットワーク事業》を開始

2012年

- ・4月「アーツカウンシル東京準備機構」を設置
- ・11月 公益財団法人東京都歴史文化財団内に「アーツカウンシル東京」を設置

2015年

- ・「東京文化発信プロジェクト室」と「アーツカウンシル東京」が事業を再編し、組織統合

2022年

- ・「公益財団法人東京都歴史文化財団事務局」と「アーツカウンシル東京」を財団本部として一体化し、企画戦略機能を「アーツカウンシル東京」に移管

2023年

- ・事業拡大に伴い、「活動支援部」を新設し、3部体制とする

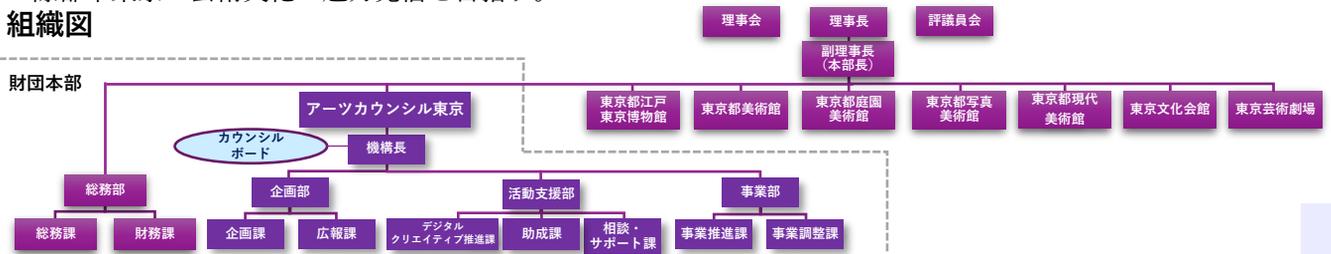
ミッション/基本方針

- ①芸術団体や民間団体、NPO等と協力し、東京における芸術文化創造のさらなる促進や東京の魅力向上を図る。
- ②国際都市東京にふさわしい個性豊かな芸術文化創造や、創造性に満ちた潤いのある地域社会の構築に貢献する。
- ③芸術文化の自主性と創造性を尊重しつつ、専門的・長期的な視点にたち、新たな芸術文化創造の仕組み・環境を整える。

ビジョン/取組みの柱

- ①戦略的取組の推進
 これまで蓄積した専門的知見に基づき、調査、分析を行い、財団全体を視野に入れた企画調整機能を活用しながら「東京文化戦略2030」に即した事業に戦略的に取り組んでいく。
- ②芸術文化への支援
 世界に発信していく創造活動や、地域の文化伝統芸能の振興、様々な課題に取り組む芸術活動を助成する。
- ③芸術文化の創造と東京の魅力発信
 都内各地での文化創造拠点の形成、青少年等が良質な芸術文化に触れる機会を提供していくことにより、多くの人が芸術文化の創造に主体的に関わる環境を整える。
- ④人材の育成
 未来を見据えた、東京の芸術文化の牽引する多様な人材を育成する。財団全体の人材育成事業を体系化し、当機構・各文化施設において効果的に展開する。
- ⑤ネットワークの形成
 国内外の芸術文化団体や文化施設・機関等とのネットワークを構築し、様々な文化政策における課題の共有や協働の在り方の検討を通して、国内外で都市東京のプレゼンスを高める。
 また、東京における様々なアーティストや多彩な東京の創造活動をネットワークを通じて紹介することで、国際都市東京の芸術文化の魅力発信を目指す。

組織図



令和5年度の回顧と展望

令和5年度は、既存事業に加え、主に次の4つの新規事業を実施した。

- ①都内で活動する様々なアーティストや芸術文化の担い手の持続的な活動をサポートし、新たな活動につなげる場として「東京芸術文化相談サポートセンター（アートノト）」を開設した。助成金等に関する相談窓口、アーティスト支援情報の提供、講座事業による芸術文化の担い手の人材育成の3つの機能を有する。
 - ②海外の先端的なフェスティバルや文化施設、芸術文化関係者が集うプラットフォームへ、有望な若手アートマネジメント人材を派遣する「アートマネジメント人材等海外派遣プログラム」を実施した。海外のディレクターやプロデューサーとのコンタクトポイントを創出し、東京の芸術文化を担う人材の将来的な活動の拡がりにつなげることを目指す。
 - ③アート市場での活躍を希望する美術・映像分野の若手アーティストを支援するプログラム、「Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP)」を開始した。活躍を期待される若手アーティストの発信の場としてショーケースを開催し、世界の芸術文化関係者へとつなぐ場を提供していく。
 - ④民間等の空き物件を活用し、アトリエ等の確保が難しい若手アーティストに利用しやすい料金で提供することで、継続的な創作活動を支援する取組みとして「START Boxササハタハツ」（ササハタハツ＝笹塚駅・幡ヶ谷駅・初台駅周辺エリア）と「START Boxお台場」を開設した。
- そのほか、既存事業についてもデジタルテクノロジーを活用した事業展開や助成事業の拡充等に取り組んだ。

芸術文化支援事業（助成・活動支援）

多様な芸術活動等を支援するため、それぞれの目的に応じた助成プログラムを実施。また、芸術文化活動に関する相談窓口や講座事業等による情報の提供や、制作スペースやプレゼンテーションの場の提供等、活動を継続し発展させるための多角的な支援を行う。

■東京芸術文化創造発信助成

（令和5年度 助成予定総額：197,146,000円【内訳】 本体191,469,000円・サポート費5,677,000円）

[助成の趣旨・目的]

東京における多様な創造活動や、国際的な創造活動・発信活動を助成。若手からベテランまでキャリアごとに助成のポイントを設け、特に、若手・中堅を重点的に支援。

[対象分野] 音楽、演劇、舞踊、美術・映像、伝統芸能、複合（核となる分野を特定できない芸術活動）

[評価体制] アーツカウンシル東京職員

<カテゴリーⅠ 単年助成>

[助成件数] 申請件数：638件、採択件数：132件

[助成事業対象期間] 第1期：令和5年7月1日～令和6年6月30日／第2期：令和6年1月1日～12月31日

<カテゴリーⅡ 長期助成>

[助成件数] 申請件数：32件、採択件数：1件

[助成事業対象期間] 令和5年7月1日～令和7年6月30日、または令和5年7月1日～令和8年6月30日

<カテゴリーⅢ 芸術創造環境の向上に資する事業>

[助成件数] 申請件数：（長期助成）20件、採択件数：2件

（単年助成）27件、採択件数：7件

[助成事業対象期間]（長期助成）令和5年7月1日～令和7年6月30日または令和5年7月1日～令和8年6月30日

（単年助成）第1期：令和5年7月1日～令和6年6月30日／第2期：令和6年1月1日～12月31日

■芸術文化による社会支援助成（令和5年度 助成予定総額：28,820,000円）

[助成の趣旨・目的]

さまざまな社会環境にある人が共に参加し、個性を尊重し合いながら創造性を発揮することのできる芸術活動や、芸術文化の特性を活かし社会や都市のさまざまな課題に取り組む活動を支援。

[対象分野] 芸術の分野は問わない。

[助成件数] 申請件数：80件、採択件数：21件

[助成事業対象期間] 第1期：令和5年7月1日～令和6年6月30日／第2期：令和6年1月1日～12月31日

[評価体制] アーツカウンシル東京職員

■地域芸術文化活動応援助成 ※令和5年度より実施

[助成の趣旨・目的]

地域の芸術文化に誰もが触れ参加できるような環境づくり、芸術文化を通じた地域の活性化や地域振興を目的として、都内の各地域の特色ある文化の醸成・発展を促進する芸術文化活動や、各地域の文化財や文化資源を未来に向けて継承し、その魅力を地域内外に広く発信する取組を支援。

[対象分野] 芸術の分野は問わない。

（助成対象となる事業）無形民俗文化財活用事業、有形文化財（建造物）・歴史的建造物等活用事業、地域文化資源活用事業、地域の文化魅力づくり事業 ※町会・商店会が主催する一般的な祭りやイベントは対象外

[助成件数] ※令和5年度は現在実施中

[助成事業対象期間] 第1期：令和5年4月1日～令和6年3月31日／第2期：令和5年10月1日～令和6年8月31日／第3期：令和6年3月1日～令和7年2月28日

[評価体制] アーツカウンシル東京職員

■スタートアップ助成（令和4年度 交付決定額：97,549,000円）

※令和5年度は現在実施中のため、以下は令和4年度データ。

[助成の趣旨・目的]

東京の芸術シーンで活動を展開していこうとする新人芸術家や新進の芸術団体による、新たな芸術活動へのチャレンジを支援。

[対象分野] 音楽、演劇、舞踊、美術・映像、伝統芸能、複合（核となる分野を特定できない芸術活動）

[助成件数] 申請件数：600件、採択件数：157件

[助成事業対象期間] 第1回：令和4年7月1日～令和5年3月31日／第2回：令和4年10月1日～令和5年6月30日／
第3回：令和5年1月1日～令和5年9月30日／第4回：令和5年4月1日～令和5年12月31日

[評価体制] アーツカウンシル東京職員

■伝統芸能体験活動助成（令和5年度 助成予定総額：10,000,000円）

[助成の趣旨・目的]

伝統芸能のさまざまなジャンルにおいて初めての人でも入り易く、かつ継続的に実技の体験ができる事業を支援。

[対象分野]

日本の伝統芸能（音楽・演劇・舞踊）

（助成対象となる種目）箏曲・地歌、尺八、長唄、各種浄瑠璃、邦楽囃子、雅楽、能楽、日本舞踊等

[助成件数] 申請件数：26件、採択件数：14件

[助成事業対象期間] 令和5年9月1日～令和6年8月31日

[評価体制] アーツカウンシル東京職員

■ライフウィズアート助成（令和5年度 助成予定総額：36,445,000円）

[助成の趣旨・目的]

芸術文化の多様な楽しみ方を提案し、都民が芸術文化に親しむ機会を創出する取組、基盤整備を助成する。本助成を通じ、芸術文化を日常の中に根付かせ、一層都民に身近なものとするとともに、アーティストの支援にもつなげていくことを目指す。

[対象分野] 視覚芸術（ビジュアルアート）全般 ※異分野との協働も可

[助成件数] 申請件数：35件、採択件数：7件

[助成事業対象期間] 令和5年9月1日～令和6年8月31日

[評価体制] 外部有識者等で構成される審査会

■芸術文化魅力創出助成

（令和5年度 助成予定総額：546,228,000円【内訳】 本体499,990,000円・サポート費46,238,000円）

[助成の趣旨・目的]

より多くのアーティストやスタッフの支援につなげるため、複数の団体や多くのアーティストが参加する持続力・波及力のある革新的な創造活動、フェスティバルやアートプロジェクトを対象とし、東京の芸術文化の魅力向上を目指す。

[対象分野]

音楽・演劇・舞踊・美術・写真・文学・メディア芸術（映像・映画、マンガ、アニメ、ゲームなど）・伝統芸能・芸能・生活文化（茶道、華道、書道、食文化など）・ファッション・建築・特定のジャンルにとらわれない芸術活動（複合）等

[助成件数] 申請件数：314件（第1期：163件、第2期：151件）、採択件数：70件（第1期：42件、第2期：28件）

[助成事業対象期間] 第1期 令和5年7月16日～令和6年7月15日／第2期 令和5年12月16日～令和6年12月15日

[評価体制] 外部有識者で構成される審査会

■東京ライブ・ステージ応援助成（令和5年度 助成予定総額：299,760,000円）

[助成の趣旨・目的]

活力ある芸術文化・エンターテインメント環境をとりもどすため、コロナ禍から回復しつつある中小の団体による舞台芸術（演劇、舞踊、音楽等）活動を支援。

[対象分野]

演劇、舞踊・舞踏、音楽（クラシック、ポップスなどライブ全般）、伝統芸能、その他複合的な舞台芸術活動

[助成件数] 申請件数：687件（第1期：431件、第2期：256件）、採択件数：322件（第1期：194件、第2期：128件）

[助成事業対象期間] 第1期 令和5年8月1日～令和6年7月31日／第2期 令和5年12月20日～令和6年12月19日

[評価体制] 外部有識者で構成される審査会

■東京芸術文化相談サポートセンター「アートノト」

- ・キャパシティビルディング講座
- ・ハラスメント防止講座
- ・ビジネススキル入門講座
- ・特別企画 会計・税務講座「インボイス制度」
- ・特別企画 座談会「アーティストの持続的な活動を目指して」
- ・特別企画 芸術文化団体の持続的な活動支援講座

■[CCBT]アート・インキュベーション・プログラム

- Tokyo Artist Accelerator Program (TAAP)
- START Box
- ・ササハタハツ
- ・お台場

芸術文化創造・発信事業（参加・体験型プログラム）

芸術文化団体やアートNPO等と協力して実施する事業。都内各地での文化創造拠点の形成や、子供・青少年等への創造体験の機会の提供により、多くの人々が芸術文化の創造に主体的に関わる環境を整えるとともに、フェスティバルの開催等を通じて、新たな東京文化を創造し、世界に向けて発信する。

※令和5年度の芸術文化創造・発信事業は以下のとおり
<フェスティバルや参加・体験型プログラムの開催>

◇フェスティバル型

- 神楽坂まち舞台・大江戸めぐり
- 伝承のたまてばこ ～多摩伝統文化フェスティバル～
- 東京大茶会
- Shibuya StreetDance Week
- 東京芸術祭
- 六本木アートナイト

◇参加・体験プログラム

- 大人のための伝統文化・芸能体験事業
- 子供のための伝統文化・芸能体験事業
- キッズ伝統芸能体験
- パフォーマンスキッズ・トーキョー

<文化創造拠点の形成（東京アートポイント計画）>

- HAPPY TURN / 神津島
- ファンタジア！ファンタジア！一生き方がかたちになったまちー
- Artist Collective Fuchu [ACF]
- ACKT（アクト／アートセンタークニタチ）
- 多摩の未来の地勢図 Cleaving Art Meeting

- めとてラボ
- KINO ミーティング
- カロクリサイクル
- Artpoint Meeting
- Tokyo Art Research Lab(TARL)

人材育成事業

未来を見据え、東京の芸術文化の現場を牽引する多様な人材を育成。

- タレンツ・トーキョー2023
- アートマネジメント人材等海外派遣プログラム
- アーツアカデミー（東京芸術劇場プロフェッショナル人材養成研修）

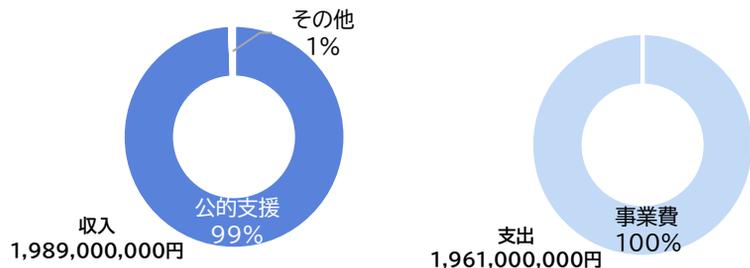
国際ネットワーク事業・企画戦略事業

海外の芸術文化団体や文化施設・機関等とのネットワークを構築し、共同プログラムの開発や芸術活動の発信力向上のきっかけ作りを行う。また、当財団全体を視野に入れた企画調整機能を活用しながら、新たな芸術文化の鑑賞や参加の機会創出を図る。

- アーツカウンシル・フォーラム
- クリエイティブ・ウェルビーイング・トーキョー
- ・だれもが文化でつながるサマーセッション2023
- ・TURN LAND プログラム

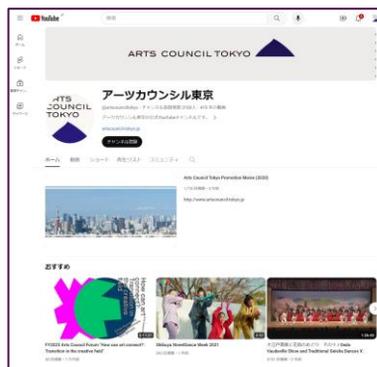
- TOKYOスマート・カルチャー・プロジェクト
- シビック・クリエイティブ・ベース東京[CCBT]の運営
- 区市町村連携事業
- 助成報告会

収支円グラフ（令和4年度決算）



情報発信

- ウェブサイト : <https://artscouncil-tokyo.jp/>
- Facebook : <https://www.facebook.com/artscounciltokyo>
- YouTube : @artscounciltokyo
- X (旧Twitter) : @artscouncilTYO



組織形態

神奈川県の事業を公益財団法人神奈川芸術文化財団が受託し、社会連携ポータル課が所轄。

構成員

社会連携ポータル課課長 駒井由理子
プログラムオフィサー (常勤)
社会連携ポータル課主査 千葉乃梨子
プログラムオフィサー
井尻有美 津内口淑香 小野寺里穂 横井貴子
広報担当 (常勤)
社会連携ポータル課主事 三浦翔子 吉田舞雪

所在地

神奈川県横浜市中区山下町3 - 1
神奈川県民ホール内

連絡先

公益財団法人神奈川芸術文化財団
社会連携ポータル課
電話 045-306-6811

担当者 千葉乃梨子

沿革

2018年～

神奈川県より共生共創事業を受託
(KAAT神奈川芸術劇場制作課地域・国際グループが担当)

2019年

KAAT神奈川芸術劇場に共生共創課を設置し、担当

2022年

財団本部に社会連携ポータル課を設置し、担当

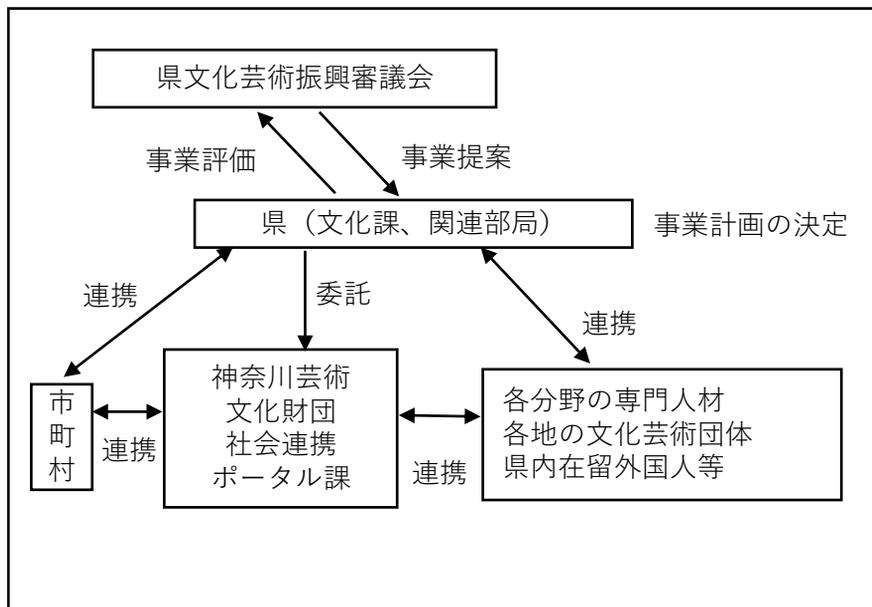
ロゴ



事業理念

神奈川県では、「ともに生きる社会かながわ」の実現に寄与するため、文化芸術の分野においても、「ともに生きる ともに創る」を目標に、年齢や障がいなどにかかわらず、子どもから大人まですべての人が、舞台芸術に参加し楽しめる「共生共創事業」を実施しています。

組織図



令和5年度の回顧と展望

令和5年度は、昨年度から継続して実施している事業が事業本体の連携先に限らず、県内の事業所等でワークショップ実施の機会を得るなど、県民参加の機会がより多く、対象を広くした事業を展開することができた。次年度は更に多くの方にご参加いただき、また多くの方に事業を知っていただけるよう、神奈川県内の未実施の地域での事業実施や参加形態の多様化、広報活動に力を入れていく。



左：「やまゆり園×劇団かかし座」ワークショップの様子 右：「世界のうたとあそぼう！」チラシ

制作事業

- ・神奈川県あそび歌プロジェクト「世界のうたとあそぼう！」体験型コンサート、ワークショップ
- ・やまゆり園×劇団かかし座「影絵であそぶ～季節の歌～」＜映像作品＞
- ・スプラウト×若鍋久美子「音の探検隊2023」（仮）＜映像作品＞
- ・「みんなのスマイル・コンサート」
- ・チャレンジ・オブ・ザ・シルバー ダンスワークショップ

運営事業

- ・横須賀シニア劇団運営
- ・小田原シニア劇団運営
- ・綾瀬シニア劇団運営
- ・シニアダンス企画「チャレンジ・オブ・ザ・シルバー」運営

調査研究事業

- ・神奈川県文化芸術活動団体事業補助金実施調査
- ・共生社会の実現又は未病改善への寄与が可能と思われるコンテンツについての現地調査

他機関との連携

行政機関

- ・神奈川県
- ・横須賀市 綾瀬市 小田原市
- ・その他県内市町村

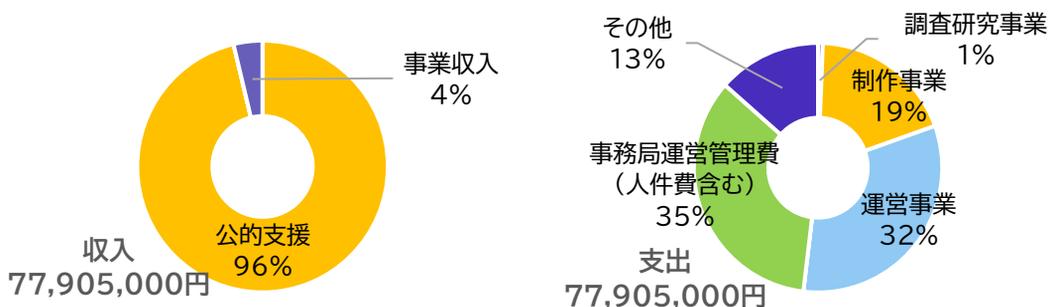
文化芸術団体

- ・株式会社風と音
- ・小田原芸術文化実行委員会
- ・有限会社アップタウンプロダクション
- ・有限会社劇団かかし座
- ・公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団

その他

- ・社会福祉法人かながわ共同会（津久井やまゆり園・厚木精華園）
- ・NPO法人スプラウト
- ・社会福祉法人同愛会（芹が谷やまゆり園）
- ・社会福祉法人聖母会（横浜市原宿地域ケアプラザ）

収支円グラフ



情報発信

- ・公式ホームページ <https://kyosei-kyoso.jp/>
- ・YouTube 共生共創事業、神奈川県公式「かなチャンTV」
- ・Twitter @kyosei_kyoso
- ・発行物 共生共創通信
- ・他 雑誌、Web有料広告、TV・ラジオ取材等



組織形態

一般財団法人長野県文化振興事業団内に運営主体となるアーツカウンシル推進室（現：推進局）を設置。長野県や大学、公的機関、民間団体、市町村等との連携により中間支援の体制を構築。

構成員

アーツカウンシル長	津村 卓（※）	
アーツカウンシル推進局長	峯村 高広	
＜専門スタッフ＞		
ゼネラルコーディネーター	野村 政之	
チーフコーディネーター	伊藤 羊子	
コーディネーター	佐久間 圭子（※）	
	藤澤 智徳	
	小野 佳奈	
＜事務スタッフ＞		
次長	宮本 隆希	
主事	保谷 有美	※非常勤

所在地

長野県長野市若里1-1-4 県立長野図書館1F

連絡先

TEL 026-223-2111
E-mail artsCouncil@naganobunka.or.jp



担当者

野村 政之（ゼネラルコーディネーター）

沿革

2015年度

・「文化振興元年」とし、長野県文化振興基金を創設

2016～2021年度

・基金を活用した長野県芸術監督団事業を実施

2018年度

・長野県文化芸術振興計画（第1次）に「文化芸術活動の支援を担う新たな仕組みとして専門人材による中間支援機能（長野県版アーツカウンシル）のあり方について検討を進める」ことを明記。

2019～2021年度

・アーツカウンシル設立に向けた有識者懇談会

2022年度

・（一財）長野県文化振興事業団内にアーツカウンシル推進室を設置（4/1）。
・信州アーツカウンシル・キックオフイベント開催（6/11）

2023年度

・アーツカウンシル推進局に名称変更（4/1）
・長野県文化芸術振興計画（第2次）に重点的施策として、信州アーツカウンシルによる各種活動について明記
・信州アーツカウンシル2023交流会開催（6/10）

ミッション

- 1 長野県全域において文化芸術活動の相続力・発信力を高める。
- 2 文化芸術活動のポテンシャルを社会の様々な領域に広げる。
- 3 長野県内の文化芸術活動が持続的に発展する環境を醸成する。

自己紹介

- 信州アーツカウンシルは、長野県内の文化芸術活動の担い手を支援しています。
- 長野県の自然豊かな風土や歴史文化、学びを大切にす精神などから育まれる、多様な地域文化や文化芸術の創造性を持続的に発展させていくことを目的として、令和4年に設立しました。
- 多様な主体がゆるやかに連携しながら、地域・県民主体で行う文化事業の助成、相談・助言等の寄り添い型支援を行っています。

＜信州アーツカウンシルの基軸事業＞

- 1 活動基盤強化プログラム
県内の文化芸術団体等の持続的な活動を支援
- 2 連携・協働プログラム
信州大学人文学部ほか、連携協働団体と協力した取組の実施
- 3 社会包摂（インクルーシブ）プログラム
障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生等の取組との協働

4 地域創造・交流プログラム

信州アーツカウンシル主催事業の実施
(NAGANO ORGANIC AIR、シンビズム)

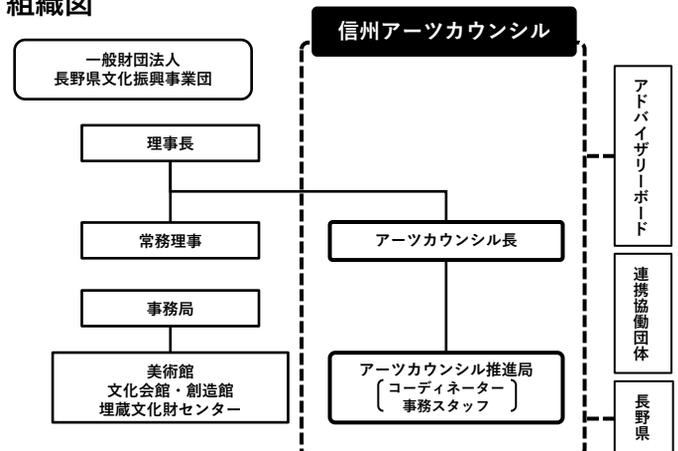
5 情報発信・認知度向上

広報宣伝活動、相談会 等

ビジョン

- 信州・長野県に永く受け継がれてきた、自然豊かな風土から紡がれる地域文化や、学びを大切にす精神から醸成される文化芸術の創造性を、未来の地域へ持続的に発展させていく。
- 広い県土に多様な地域性を有する信州の文化芸術を、長野県、公的機関、大学、市町村、民間団体などの多様な主体が連携し、地域や県民が主体となって行う文化芸術活動を支える環境づくりに取り組む。

組織図



令和5年度の回顧と展望

- 長野県文化芸術振興計画（第2次）の初年度及びアーツカウンシル始動2年目として、長野県文化振興基金・文化庁文化芸術拠点形成事業補助金を活用し、各事業を本格始動。
 - ① 活動基盤強化プログラム（助成事業）における助成金を拡充。
 - ・ 県内の多様な文化芸術活動の持続的な発展を支援し、文化芸術の力を地域に波及する取組を推進。
【助成団体数】：（令和4年度）21団体 ⇒ （令和5年度）37団体
 - ② 信州の多様な文化を多様な主体が支える共創体制の構築に向けた連携を強化し、県全体で取り組む必要のある課題に取り組む。
 - ・ 信州大学等との具体的な連携・協働プログラム（信州アーツ・クライメート・キャンプ事業）の展開。
 - ・ 民俗芸能等の保存・継承に向けた関係者等との体制構築・ヒアリング調査・ネットワーク形成。
 - ・ 他地域のアーツカウンシルとの連携・交流事業の実施。
 - ③ 地域創造・交流プログラムの県全体への波及・浸透。
 - ・ 「シンビズム5」展の県下4会場での開催。「創造的な学び」促進のための対話鑑賞事業の拡充。
県内学芸員のネットワーク形成と連携の強化。
 - ・ 「NAGANO ORGANIC AIR」未実施地域での展開。全県のAIR事業の情報集約・発信。
 - ④ 信州アーツカウンシルの情報発信の基盤整備・支援体制を強化
 - ・ 公式Webサイト開設（9/1～）、令和4年度活動報告（アニュアルレポート）の制作 など
- 令和6年度は、これまでの成果等を広く県民に共有する事業（信州AC2024パレード）を展開していく。
これまでの取組を評価・検証しながら、アーツカウンシルの体制や助成制度のあり方、資金調達のプラン等について、中長期的な視点で検討していく。

助成事業

令和5年度予算：35,000,000円

■「文化芸術活動の創造性を生かす環境づくり支援プログラム」

(1) 事業概要

長野県の文化芸術の持続的な発展に資する可能性があり、チャレンジ精神や創意工夫の見られる活動で、自らの問題意識に基づいて、社会における課題を設定し、様々な人や組織との連携・協働を行いながら取り組む活動を支援

(2) 対象者

長野県内に本部や主たる拠点が存在する文化芸術団体、NPO法人、中間支援団体、福祉団体等の団体やグループ（法人格の有無は問わない）

(3) 対象事業例

- ・ 地域で活動する文化芸術の担い手による運営向上、人材育成、活動持続化に資する取組
- ・ 文化芸術を媒介に、様々な分野の担い手が連携して地域の課題への対処を試みる取組
- ・ 文化芸術による新たな発想で地域の魅力や価値を高め、県内外に発信する取組
- ・ 障がい者福祉、高齢者福祉、多文化共生等の分野と協働し、社会包摂を推進する取組
- ・ 次世代を担う子どもたちが文化芸術を体験し、地域における学びの機会を創出する取組
- ・ 地域の歴史文化や自然、文化的資源の発掘・活用・継承に資する取組
- ・ 気候変動の課題を意識し、信州の自然と調和する循環型で文化的な暮らしの創造に資する取組

(4) 助成プログラムの種類

種類	想定する活動・支援	上限額、補助率	採択団体数
A 活動推進支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 地域における文化芸術活動の定着や新たな実施に取り組むもの ・ 収益性に馴染まないが他分野への波及が期待できる活動の立上げ支援 	500千円 10/10以内	27団体
B 活動基盤強化支援プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文化芸術活動の力を他の分野や他の地域に展開し、県内での新たな活力創出に取り組むもの ・ 定着や自走の可能性がある活動を寄り添い型で支援 	3,000千円 1/2以内 (一般管理費15%以内)	10団体

※いずれのプログラムも、最大3年の支援を予定（同一年度における併給不可）。

(5) 助成（活動）期間

交付決定日（4月）～令和6年2月29日

(6) 評価体制

信州アーツカウンシルが設置するアドバイザーリーボード委員（外部有識者）による評価

(7) 相談体制

信州アーツカウンシルの専門スタッフによる伴走支援



制作事業

(1) 連携・協働プログラム (予算額：5,000,000円)

県全体で取り組む課題に対し、多様な主体と協働・共創の連携体制を構築したプログラムを実施

① 信州アーツ・クライメート・キャンプ (Shinshu Arts-Climate Camp) 事業

【信州大学人文学部や環境課題に取り組む団体等との連携】

文化芸術の視点から、気候変動の課題を見つめ、県内外における様々な取組を知り、学び、共に考え、変化していくコモンスペースをつくるプロジェクト。

・「会議」の開催 (4回)

美術館やアート拠点等において、テーマ毎に学び・議論する場 (会議) の開催

・「総会」の開催 (1回)

これまでの取組を総括。信州アーツカウンシルとしての環境コミットメントの発表。今後の指針を共有する。



② 伝統文化の支援に向けた連携体制構築事業

【(公財)八十二文化財団や地域の民俗芸能保存・継承団体等との連携】

・支援体制構築に向けたネットワークづくり

・伝承文化の担い手交流会の実施



③ 他地域のアーツカウンシルとの連携事業

【アーツコミッション・ヨコハマ (ACY) との連携】

・相互交流事業の実施

(2) 社会包摂 (インクルーシブ) プログラム

○ 長野県障がい者芸術文化活動支援センター「ザワメキサポートセンター」(長野県社会福祉事業団) との連携

・連携定例会議 (毎月開催) による情報共有

・専門スタッフによる同センター事業に関する助言等の支援 など



(3) 地域創造・交流プログラム

① シンビズム (予算：18,928,000円)

県内各地の美術館・博物館の学芸員が、公立・民間等の所属の別なく集い、ネットワークを形成し、長野県ゆかりの作家を選定・美術展示「シンビズム」展の開催や対話を通じた作品鑑賞等の事業を実施。

■ 「シンビズム5 -信州ミュージアム・ネットワークが選んだ作家たち」展開催

<開催概要 (4会場)>

・ 山ノ内町立志賀高原ロマン美術館 : 7/1 (土) ~ 9/3 (日)

・ 丸山晚霞記念館 (東御市) : 8/5 (土) ~ 27 (日)

・ 小海町高原美術館 : 9/16 (土) ~ 11/12 (日)

・ 信州高遠美術館 (伊那市) : 12/3 (日) ~ 1/14 (日)

<出品作家 (11名)>

高見澤文雄 (絵画 サウンド他)、中村ヒカル (陶)、ムカイヤマ達也 (絵画・インスタレーション)、赤羽史亮 (絵画)、長門裕幸 (絵画)、疋田義明 (油彩)、丸山富之 (彫刻)、横山昌伸 (インスタレーション)、津金多朗 (陶立体造形、絵画)、丸山晋一 (写真)、持田敦子 (インスタレーション)



■ 対話鑑賞事業

・シンビズム展の開催にあわせ、対話を通じた作品鑑賞事業を県内の教育機関 (小・中学校) 等と連携して展開。

② NAGANO ORGANIC AIR (長野有機栽培アーティスト・イン・レジデンス) (予算：2,996,000円)

様々なジャンルで活躍するアーティストが、県内各地域に滞在し、創作活動を行うアーティスト・イン・レジデンス (AIR) の取組

■ NAGANO ORGANIC AIRの実施

・大鹿村：秦 雅則 (写真家)

・小谷村：(滞在アーティスト調整中)

・茅野市 (茅野市民館)：石川直樹 (写真家)、森下真樹 (ダンサー)

※その他、大町市や安曇野市でのAIR事業への支援等を実施。



■ ポータルサイトの運営

これまでのNAGANO ORGANIC AIR実施地域における取組や、県内のAIR事業の取組を集約・発信するポータルサイトの制作・運営

その他の事業

(1) 信州アーツカウンシル2023 交流会

- ・信州アーツカウンシル始動から1年間の活動を振り返り、これからの取組を紹介する交流会を開催
[日 時] 令和5年6月10日(土)
[場 所] ホクト文化ホール(長野県県民文化会館)



(2) 信州アーツカウンシルの取組紹介・関係人口の創出事業等

- ① 「信州で活動しませんか? アート・文化×移住定住・関係人口」
 - ・首都圏居住者等との関係人口創出のきっかけづくりのイベント開催
[日 時] 令和5年5月14日(日) 13:30~15:00、15:30~17:00
[会 場] 銀座NAGANO(東京都)
- ② 「北アルプスの麓で暮らし・働く大相談会2023」への参加
[日 時] 令和5年11月18日(土)
[場 所] 東京交通会館(東京都)
- ③ 「ART JOB FAIR 2024」への参加
[日 時] 令和6年1月27日(土)~28日(日) 10:00~17:00
[場 所] 東京ビル TOKIA 西側ガレリア



他機関との連携 (※上記事業での再掲含む)

<行政機関>

- ・長野県(県民文化部文化政策課、企画振興部広報・共創推進課、信州暮らし推進課、南信州地域振興局、北アルプス地域振興局)
- ・市町村(松本市文化観光部文化振興課、大田市総務部まちづくり交流課)
- ・沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課

<公的・民間団体等>

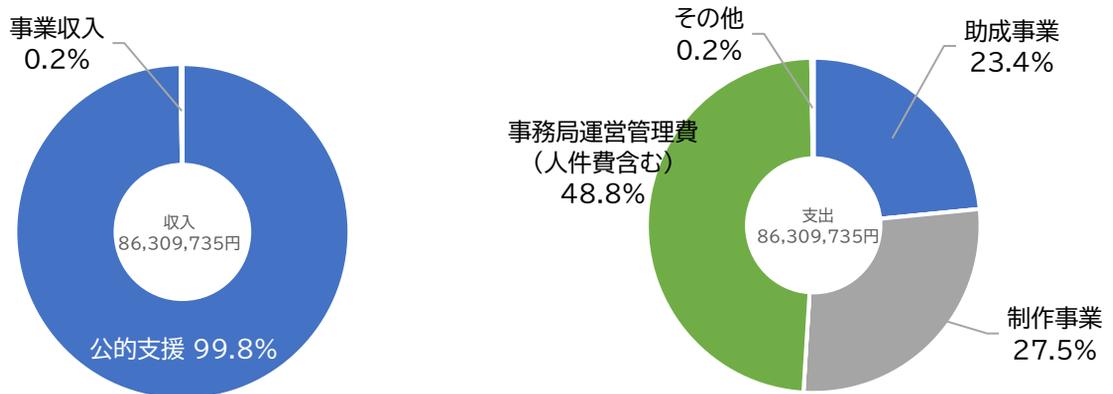
- ・(公財)八十二文化財団、ザワメキサポートセンター(長野県社会福祉事業団)、(公財)長野県みらい基金、南信州民俗芸能継承推進協議会、くらしふと信州、NPO法人A I T、NPO法人上田市民エネルギー

<教育機関>

- ・信州大学、清泉女学院大学、長野大学

など

収支円グラフ (令和4年度決算)



情報発信

● 信州アーツカウンシル全般

- ・Webサイト: <https://shinshu-artsCouncil.jp/>
- ・SNS (Facebook: shinshu.ac / X(旧Twitter): shinshu_ac / Instagram: shinshu_ac)
- ・メールマガジン配信
- ・発行物: 信州アーツカウンシル2023ガイドブック、令和4年度活動報告(アニュアルレポート)

● 信州アーツ・クライメート・キャンプ

- ・Webサイト: https://note.com/artsclimate_camp/
- ・SNS (Facebook: shinshuartsclimatecamp / Instagram: shinshu_artsclimate_camp)
- ・Podcast番組: https://note.com/artsclimate_camp/n/n179aa6aa6dd6 (「note」HP)
- ・発行物: 信州アーツ・クライメート・キャンプ (Shinshu Arts-Climate Camp) ドキュメントブック

● NAGANO ORGANIC AIR

- ・Webサイト: <https://noa.nagano.jp/>
- ・SNS (Facebook: naganoair2022 / X(旧Twitter): nagano_air2022 / Instagram: nagano_organic_air)

● シンビズム

- ・Webサイト: <https://shinbism.jp/>
- ・SNS (Facebook: shinbism)



組織形態

公益財団法人静岡県文化財団内に
「アーツカウンシルしずおか」として設置

構成員

(非常勤)
アーツカウンシル長 (副理事長) 加藤種男
(常勤)
アーツカウンシル課長 (参事) 川口智弘
課長代理 滝口信太郎
チーフプログラム・ディレクター 榎野展正
プログラム・ディレクター 北本麻理
プログラム・ディレクター 鈴木一郎太
プログラム・コーディネーター 立石沙織
アシスタント・コーディネーター 若菜ひとみ
チーフ・スタッフ 小松由貴子
スタッフ 船元 優
スタッフ 石川春佳

所在地

静岡市駿河区東静岡二丁目3番1号
グランシップ1F

連絡先

電話 054-204-0059
メール info@artscouncil-shizuoka.jp

担当者

榎野展正 (チーフプログラム・ディレクター)



アーツカウンシルしずおか
ARTS COUNCIL SHIZUOKA

沿革

2021年

- ・(公財) 静岡県文化財団内に設置 (1月)
- ・「文化芸術による地域振興プログラム」開始 (～現在)
- ・相談窓口の設置 (～現在)
- ・「マイクロ・アート・ワークショップ」開始 (～現在)
- ・「オンラインセミナー」、「オンライン寄合」実施
- ・「超老芸術」取材開始 (～現在)

2022年

- ・「文化芸術による地域経済活性化モデル形成のためのパレット事業」実施
- ・クリエイティブデータベース開設 (～現在)
- ・先進事例視察実施 (～現在)
- ・「クリエイティブ人材の副業意向調査」、「地場産業とクリエイティブ人材マッチングモデル事業」実施
- ・「アーツカウンシルしずおかアソシエイト」制度創設、委嘱
- ・全県移住促進組織「ふじのくにに住みかえる推進本部」への参画 (～現在)
- ・「クリエイティブ人材派遣制度」創設 (～現在)
- ・実践型講座(かきかたきかく)開催
- ・地域づくりフォーラム「クリエイティブと地域のイノベーション」開催

2023年

- ・実践型講座(きかくの場)開催
- ・「クリエイティブ人材空き家等活用モデルプログラム」実施
- ・「超老芸術展」開催
- ・「創造トークス」の開催

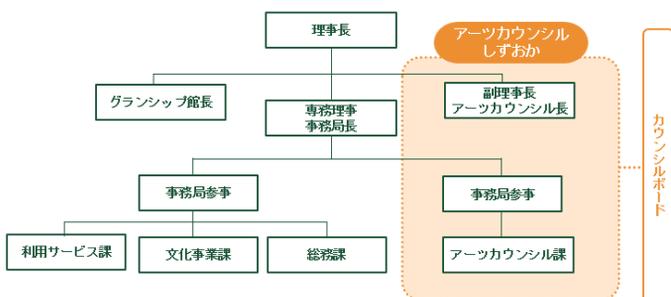
ミッション

住民主体の創造的活動を促進するプラットフォームとして、社会の様々な分野の担い手による地域の活性化や社会課題への対応を目指す創造的な取組を支援する。

ビジョン

“すべての県民が表現者(つくり手)”となることを目指し、誰もが有する創造力が活かされる道をひらき、社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる創造的な地域づくりに貢献する。

組織図



自己紹介

「視点をかえる 発想をひらく」をキャッチフレーズに、住民主体のアートプロジェクトの支援を中心として、物事の見方に変化を促し、発想を広げるお手伝いをする組織です。

“すべての県民が表現者(つくり手)”となることを目指して、誰もが持っている創造力が活かされる道をひらき、まちづくりや観光、福祉、教育など社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる、創造的な地域づくりに貢献します。

<アーツカウンシルしずおかの機能>

1 住民主体の創造活動の推進エンジン

住民主体のアートプロジェクトの活性化に向けた助言や助成等の支援を行うとともに、住民プロデューサーの発掘や、先導的な事業の試行等を行う。

2 多分野協働のプラットフォーム

クリエイティブ人材と企業や団体等とのマッチングやネットワークづくり、相談対応などのコーディネート業務を行う。

3 文化政策シンクタンク

地域資源・文化活動等の調査研究、自治体や文化団体等への助言・提言を行う。

令和5年度の回顧と展望

2023年静岡県が「東アジア文化都市」に選定されたことを受け、当アーツカウンシルの助成制度である「文化芸術による地域振興プログラム」を始め、12月までに実施されるすべてのアーツカウンシル事業を東アジア文化都市事業として位置づけ、アジア地域ひいては世界に向けて発信した。

助成事業の他にも、将来的な住民プロデューサー発掘事業である「マイクロ・アート・ワーケーション」を実施したほか、今年度新たに「クリエイティブ人材空き家等活用モデルプログラム」を立ち上げた。本事業をとおして、アーティストなどのクリエイティブ人材が、日常的に地域住民と交流できる環境を県内各地に創出し、創造的な地域づくりやクリエイティブ人材の関係人口の増加につなげることを目指す。

また、これまでアーツカウンシルしずおかにおいて高齢になってからもユニークな表現活動を続けている方々を、「超老芸術」として紹介してきたところ、東アジア文化都市の関連プログラムとして、超老芸術家の作品が一堂に会する展覧会「超老芸術展」を開催。静岡県内の高齢の出展者が自主的に在廊し作品解説をするなど、出展者自身のQOLの向上に繋げることができたほか、全国各地の高齢者の表現活動を紹介したことで、「超老芸術」の言葉の認知度が高まり、「老い」に対する否定的イメージを払拭する機会となった。

その他、アートと他分野（高齢者、コミュニティ政策、空き家）を連携させたセミナー「創造トークス」を開催。各分野における関係者からのアートプロジェクトに対する意見や提案を受け、行政等に対する提言につなげることを目的として実施した。

令和4年度より制度化した「クリエイティブ人材派遣制度」について、今年度は企業での社員研修においてクリエイティブ人材を派遣することで、企業に対するクリエイティブ人材の関わり方の事例づくりを進めることができた。

助成事業（令和5年度実施分）

令和5年度予算 42,000,000円

文化芸術による地域振興プログラム

・助成目的

文化芸術の力を活用して地域社会の活性化を目指す県民主体の創造的な活動を支援し、すべての県民が作り手となる地域社会の形成を促進

・対象分野

まちづくりや観光、国際交流、福祉、教育及び産業などの様々な分野と文化芸術が協働する取組

・事業区分・助成率・助成額・助成件数

地域クリエイティブ支援（助成対象経費の4分の3以内又は2分の1以内、上限500万円）

地域資源の活用や社会課題への対応を目指す先駆的事业を行うプログラム

※令和5年度採択件数 19件

地域はじまり支援（助成算定経費の10分の10以内、上限30万円）

先駆的事业の実施に向けて試行的に取り組むプログラム

※令和5年度採択件数 7件

・助成対象経費

報償費、制作費、委託費、使用料、運搬費、賃金・保険料、旅費、通信費、著作権料、広告・印刷費、消耗品費

・助成期間

交付決定通知で指定した期間（会計年度内で設定）

・評価体制及び助成制度の相談体制

アーツカウンシルしずおかPD、PC

制作事業（令和5年度実施分）

令和5年度予算17,050,000円

マイクロ・アート・ワーケーション

まちづくり団体等がホストとなり、約1週間、ワーケーションを行う

クリエイティブ人材と住民との交流をコーディネート

クリエイティブ人材が地域の魅力をWebサイトで発信、成果物は求めない

ホスト：13団体、クリエイティブ人材：37人

実施期間：2023年8月1日～11月12日



実践型講座「きかくの場」

アートプロジェクトの企画立案を通して、地域を見つめる細やかな視点を身に

つけ、県内でアートプロジェクトの担い手として活躍することを目的として開催

講師：小澤慶介（一般社団法人アート代表理事）

開催日：2023年6月25日、9月9日、12月10日



クリエイティブ人材派遣制度

クリエイティブ人材の活動領域を拡大し、関わる人々の創造性が発揮される地域づくりに寄与するため、社会の様々な分野においてイノベーションが生まれる創造的な取組に対し、クリエイティブ人材を派遣

・中島屋グランドホテルとの協働

「ローカル」を深堀る社員研修の実施や、静岡の伝統工芸を活用したものづくりに関する意見交換やWSの実施に際して、クリエイティブ人材を派遣。企業に対するクリエイティブ人材の関わり方の事例づくりを進める。

派遣先：中島屋グランドホテル

期間：令和5年4月～令和6年2月（予定）

派遣人数：5人



クリエイティブ人材空き家等活用モデルプログラム

新たな活用方法が模索される空き家等を題材に、クリエイティブ人材が独自の視点や手法でそれらを有効活用するためのアートプロジェクトの試行や提案を行う

・アートプロジェクトの試行を通じた空き家等の活用…2件

・クリエイティブ人材による空き家等活用を目指した企画提案…2件

上記モデルプログラムを事例として、各地域で生じる変化をもとに既存の空き家活用との差異を明らかにするとともに、その動きを波及・持続させる上での必要事項を検討するため「アートによる空き家活用ワーキンググループ」を設置し、全4回開催した。

「創造トークス」の開催

・高齢者による芸術表現やコミュニティ政策、空き家を使ったアートプロジェクト等に係るセミナーを開催

【超老芸術は「文化」だ！超高齢社会における文化芸術の可能性】

日時：2023年10月8日13：30～15：00

会場：グランシップ2階 映像ホール

ゲスト：福住廉（美術評論家）、上田假奈代（詩人、詩業家）、エドワード・M・ゴズ（美術評論家、キュレーター）

【コミュニティを創造する～どうする？どうなる!?コミュニティのニュースタイル～】

日時：2023年11月7日18：00～20：00

会場：妙祥寺（富士市）

ゲスト：牧野 篤（東京大学大学院教育学研究科教授）、宮城 潤（那覇市若狭公民館館長）

野嶋 京登（富塚協働センター職員）、久保田 瑛（NPO法人クリエイティブサポートレッツ職員）

【空き家の新しい価値を見出す・ひらく】

日時：2023年12月15日14：00～16：00

会場：森町文化会館 小ホール

ゲスト：羽原 康恵（取手アートプロジェクト包括ディレクター）、山田知弘（有限会社日の出企画）

超老芸術展の開催

これまで、高齢になってもなお、独自の創作を続ける高齢者による芸術表現を「超老芸術」と名づけ紹介。今回、静岡県内や全国の高齢芸術家（22組1,500点以上）の作品を一堂に集め展示したほか、メタバース上でも展開。

下記期中には榎野CPDによるギャラリートークも開催。

期間：10月3日～10月8日

来場者数：1,767人



調査研究事業

令和5年度予算 2,000,000円

令和3年度 「文化芸術による地域振興プログラム」伴走評価（一般財団法人CSOネットワークに委託）

令和4年度 クリエイティブ人材の副業に係る意向調査（合同会社うさぎ企画に委託）

令和5年度 アートによる空き家活用調査、文化に関する意識調査（予定）

その他の事業

相談窓口の運営

- ・アーツカウンシルしずおかPD、PCに加え、弁護士、税理士、中小企業診断士等が相談対応

アーツカウンシルしずおかアソシエイト

- ・まちづくりや観光、福祉、教育など、社会の様々な分野の識見に基づき、当該分野と文化芸術との連携等について意見・提言等を行う人をアソシエイトとして委嘱

超老芸術

- ・高齢になってからもユニークな表現活動をしている方々を「超老芸術」と名付け取材、紹介 ほか

他機関との連携

行政機関

- ・静岡県スポーツ・文化観光部文化局文化政策課（所管課）
- ・マイクロ・アート・ワーケーションのホスト
- ・クリエイティブ人材派遣制度（静岡県）
- ・審査会委員等（静岡県、静岡市）
- ・全県移住促進組織「ふじのくにに住みかえる推進本部」

企業等

- ・クリエイティブ人材派遣制度（中島屋ホテルズ）
- ・マイクロ・アート・ワーケーションのホスト
- ・空き家等活用に係るワーキンググループの設置
- ・障がい者アート応援プロジェクト
- ・アーツカウンシルしずおかアソシエイト委嘱

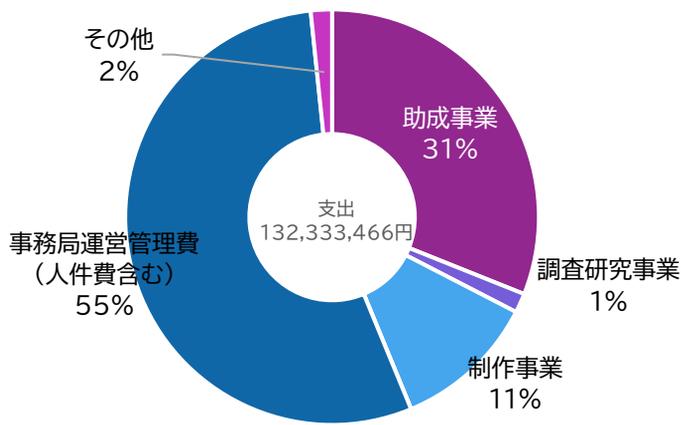
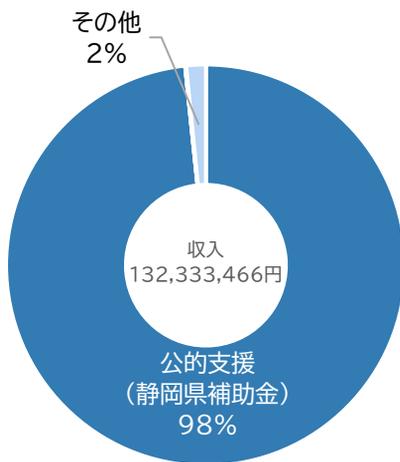
文化芸術団体

- ・マイクロ・アート・ワーケーションのホスト

その他

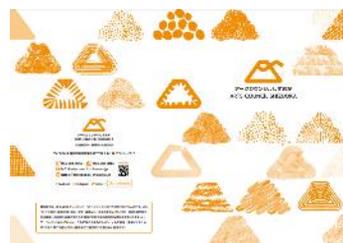
- ・静岡県社会福祉協議会（新たな地域福祉教育副読本作成）

収支円グラフ



情報発信

- ・ <https://artscouncil-shizuoka.jp>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/artshizuoka>
- ・ YouTube アーツカウンシルしずおか
- ・ Twitter @artshizuoka
- ・ Instagram @artshizuoka
- ・ 発行物
アーツカウンシルしずおか紹介リーフレット
地域振興プログラム紹介リーフレット
2022アニュアルレポート
無料相談窓口チラシ
超老芸術展チラシ ほか



組織形態

京都府本庁及び広域振興局に専門人材を配置

構成員

■本庁（常勤：任期付職員）
プログラムオフィサー 高見澤こずえ
プログラムコーディネーター 大賀由佳子

■広域振興局（非常勤：会計年度任用職員）
地域アートマネージャー（山城）西尾晶子
地域アートマネージャー（南丹）杉 愛
地域アートマネージャー（中丹）朝重龍太
地域アートマネージャー（丹後）甲斐少夜子

所在地

京都市上京区下立売通新町西入藪ノ内町

連絡先

電話：075-414-4279
メールアドレス
bungei@pref.kyoto.lg.jp



KYOTOHOOP

担当者

丸山奈津美（主幹兼地域文化振興係長）

沿革

2015年6月

文化スポーツ総務課に専門人材1名を採用

2016年4月

文化スポーツ総務課の専門人材1名を文化交流事業課に配置

2017年4月

中丹広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2018年6月

文化交流事業課が文化芸術課へ組織改編。引き続き、専門人材1名を配置

2019年1月

南丹広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2019年4月

山城広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2019年5月

丹後広域振興局に地域アートマネージャー1名配置

2021年6月

文化芸術課に、専門人材1名を追加配置

ミッション

専門人材の支援のもと、地域における文化活動が活発になることを目指します。

ビジョン

- ・誰もが文化に親しめる社会
- ・文化が活力を生み出す社会
- ・感性豊かで創造的な社会
- ・暮らしの中に多様な文化が息づく社会

自己紹介

文化力による京都の活性化のため、文化芸術課に、事業統括・企画立案や情報発信を行う2名の専門人材を任期付き職員として配置するとともに、府内地域における文化芸術活動を牽引し、かつ地域住民の自主的な文化活動を指導・助言できる専門性を備えた人材を地域アートマネージャー（会計年度任用職員）として各広域振興局に1名配置。文化芸術活動による個性豊かな地域づくりを推進する。

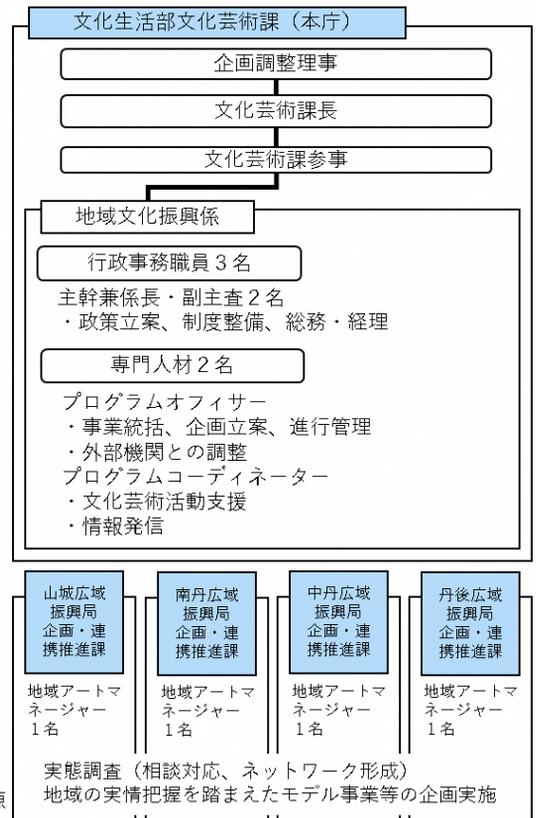


福知山市：「夜をあそぶ」をテーマに地域資源である福知山城を活用したアートイベント



丹後地域：「丹後ちりめん」などの地域資源を活用し、町の形を縫いつけていく大型テキストスタイル作品を制作した住民参加型アートプロジェクト

組織図



令和5年度の回顧と展望

令和5年度は、特に、地域での事業継続のため、「地域の能動性を引き出す」ことに留意して、地域における文化芸術の鑑賞・体験機会の創出を図るプログラムを企画、実施しました。具体的には、市町村に積極的な参加を促し、企画・運営を進める体制としました。事業企画にあたっては、住民自身が地域の魅力を自らの感性で切り取り自らの手で表現を行う要素を組み込む等、住民の能動性を引き出す工夫を行いました。また、地域外からアーティストを招聘するだけでなく、地域在住アーティストにも事業内で活躍する機会を提供することで、地域住民と地域アーティストの日常的な交流が生まれる仕掛けづくりを行いました。

令和6年度は、府専門人材のコーディネートの下、市町村自らが地域文化資源を活かして地域住民を巻き込んだ文化事業を継続的に実施できるような体制づくりを推進し、府内全域で誰もが文化芸術を鑑賞体験でき、文化芸術の力で、移住者を含めた地域の若い担い手が「住んで良かった」と思えるような地域づくりを目指していきます。

助成事業

文化力チャレンジ補助金（平成11年から実施）令和5年度予算 10,300,000円

・助成目的

京都府内各地域における文化力の向上とともに、地域の個性あふれる文化芸術活動を創出し、国内外へ発信することを支援する

・助成内容

対象経費の3分の2以内（京都市内は2分の1以内）、上限20万円

・助成件数

令和5年度採択件数 57件

制作事業

京都府地域文化創造促進事業 令和5年度予算 14,000,000円

- ・福知山市：「夜をあそぶ」をテーマに地域資源である福知山城を活用したアートイベント。竹一族の陰謀（竹灯籠師）、サミュエル・アンドレ（サウンドアーティスト）、上林比東三（流木アーティスト）が参加
- ・舞鶴市：地元アーティストやアートマネージャーとともに、地域主体のアートプロジェクトの可能性について考える人材育成プログラム。地元で活躍するアートマネジメント人材等である、浦岡雄介、寺島千絵、新井厚子、重本晋平が講師として参加
- ・宇治市：源氏物語「宇治十帖」をテーマにした写真ワークショップと市内各所での作品展示
講師として坪内淳仁（学芸員）、マルグリット・バジェ（KYOTOGRAPHIE）、吉田亮人（写真家）が参加
- ・丹後地域（宮津市、京丹後市、伊根町、与謝野町）：「丹後ちりめん」などの地域資源を活用し、町の形を縫いつけていく大型テキスタイル作品を制作した住民参加型アートプロジェクト。西尾美也（美術家）及び地域クリエイターとして、谷口実里、新井勝子、武田美貴が参加
- ・城陽市：山城地域に数多く存在する音楽ホールの上質な音響環境を活かして、子どもたちが手拍子や声をだすなど体全体で音を感じる参加型の「アスレチック型コンサート」。片岡祐介（打楽器奏者・即興演奏家）、地域で活動するアマチュアオーケストラ「和み交響楽団」が参加
- ・南丹市：元酒蔵での異分野融合のコンサートとセラミック楽器の展示、小学生対象の音づくりワークショップ
ヤニック・バジェ（指揮者、作曲家、演出家、打楽器奏者）、黒川徹（陶芸家）、橋本幸士（物理学者）が参加

その他の事業

文化を未来に伝える次世代育み事業 令和5年度予算 24,000,000円

・学校・アート・出会いプロジェクト（令和5年度：87事業）

学校等に芸術家を派遣し、各地域の特徴ある文化資源等を用いて子どもたちが様々な文化を体験

・地域文化施設プロジェクト（令和5年度：10事業）

文化施設等に委託し、地域文化のさらなる活性化に向け、子どもたちが伝統文化や地域の生活文化等を体験できる機会を提供。

文化芸術体験機会創出事業 令和5年度予算 50,000,000円

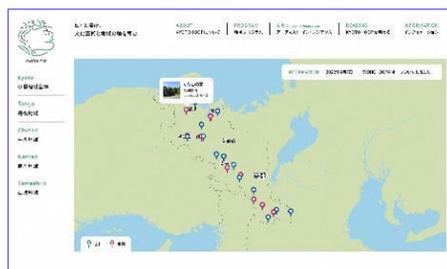
- ・若い世代が日本の伝統文化を学び、自国の文化が優れた価値を有していることを再認識することを目的に、京都府内の劇場において伝統文化の体験・鑑賞機会を創出。府内12の劇場に委託して実施

地域の文化芸術情報の発信（令和5年度）

- ・地域において文化芸術に関わる「ヒト・場所・コト」の情報を地域アートマネージャーが取材し記事を執筆
Webサイト「KYOTOHOOP」において、地図上にマッピングして発信

情報発信

- ・Webサイト「KYOTOHOOP」<https://kyotohoop.jp/>
- ・Facebook <https://www.facebook.com/kyotohoop/>
- ・Instagram @kyotohoop



WEBサイト『KYOTOHOOP』マッピングページ

組織形態

大阪府と大阪市が共同設置した諮問機関「大阪府市文化振興会議」の常設部会として設置。正式名称は「大阪府市文化振興会議アーツカウンシル部会」であり「大阪アーツカウンシル」と通称しています。

構成員 (令和5年度)

部会長 (統括責任者) : 宮崎 優也

部会委員: 尾崎雅久 北村智子 志村聖子 塚原悠也
長川勝勇 梶木典子 畑律江 原久子
広瀬依子 松尾美矢子 山納洋

アーツマネージャー:

井上美葉子 内田結花 小倉千裕 梶原千聖
久保田ひかり 中西真子 野添貴恵 花岡京子
廣川文 廣瀬凧里

所在地 (事務局)

〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16
大阪府咲洲庁舎37階大阪府府民文化部
文化・スポーツ室文化課内

連絡先 06-6210-9305 / info@osaka-artsCouncil.jp

ロゴ



担当者 宮崎 優也

沿革

2011年 当時の大阪市長が大阪市戦略会議において文化芸術団体への運営補助金の見直しを主張し、大阪独自のアーツカウンシルを設置する方針を示す。

2012年 大阪府市統合本部の都市魅力戦略会議にアーツカウンシルワーキンググループが設けられ具体的な制度のあり方が検討される。

2013年 大阪アーツカウンシル設置

2014年 「2015年度予算編成に向けて大阪アーツカウンシルからの提言」

2015年 芸術文化魅力育成プロジェクト (大阪府市共同事業)のサポート (~2017年)

2018年 「大阪の文化振興に関する提言」

2020年 「新型コロナウイルス感染症拡大に対する大阪の芸術文化への支援に関する提言」

2023年 「大阪の文化政策に対する提案」

ミッション・自己紹介

大阪の文化行政を推進するために、行政と一定の距離を置き、芸術文化の専門家による評価、審査等を行うことを目的としています。以下の機能を担い、その活動状況や結果を大阪府市文化振興会議に報告、提案し、同会議の審議を経て提言を行っています。

〈大阪アーツカウンシルの機能〉

① 評価・審査

(大阪府・大阪市の文化事業の検証、評価、助成事業の審査及び成果の調査)

② 調査

(情報の収集、分析、提供など。大阪の文化芸術に関する様々な事象について調査や研究を行うシンクタンク的な役割)

③ 企画

(新たな事業などの企画、立案および提言など。上記①②の活動から導き出された課題に対する講座や意見交換会の開催など)

大阪府と大阪市は、計画的に文化行政を実施するために「第5次大阪府文化振興計画」及び「第3次大阪市文化振興計画」で右記のビジョンを共有し、文化芸術の振興に取り組んでいます。

ビジョン

〈目指す将来像〉

「文化共創都市 大阪」~文化芸術が未来を切り拓く~

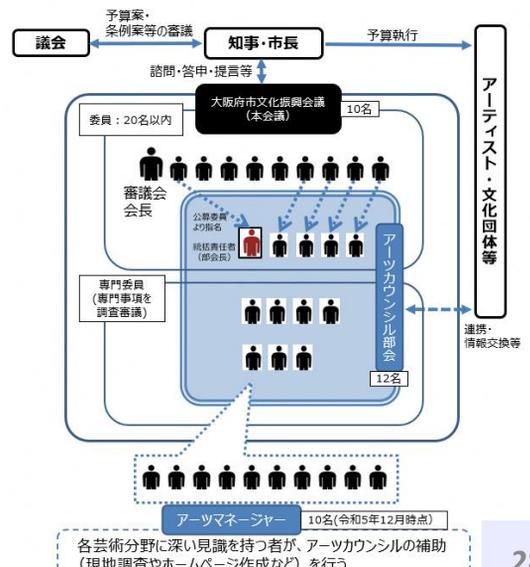
〈基本理念〉

- ・あらゆる人々が文化を享受できる都市
- ・大阪が誇る文化力を活用した魅力あふれる都市
- ・あらゆる人々が文化を通じていきいきと活動できる都市

〈施策の方向性〉

- ・文化にかかわる環境づくり
- ・文化が都市を変革する
- ・文化が社会を形成する

組織図



令和5年度の回顧と展望

- ・令和5年度も、日本では数少ない自治体の審議会形式のアーツカウンシルの一つとして、大阪府・大阪市の文化事業において自治体職員と現場の文化芸術関係者の間のコミュニケーションを促進し、両者の「架け橋」としての役割を担うべく活動してきました。
- ・大阪という地域において、文化芸術の担い手を支援し、文化力のさらなる向上に繋げるために、今後も文化芸術活動の現状と課題を正確に把握することが不可欠だと考えています。令和5年度までの実績を踏まえつつ、「評価・審査」を中心に「調査」や「企画」等を強化しながら、質を高めてまいります。

助成事業

- ・大阪アーツカウンシル自身では助成事業を実施しておらず、大阪府と大阪市が各自で行っている助成事業の採択審査・効果検証・制度設計への提言を行っています。

参考：大阪府「芸術文化振興補助金」	令和5年度予算額： 10,031千円
「輝け！子どもパフォーマー事業補助金」	令和5年度予算額： 4,800千円
大阪市「芸術活動振興事業助成金」	令和5年度予算額： 117,000千円

調査研究事業（令和5年度実施分）

- ・コロナ禍での文化芸術支援等の実態調査（調査結果については令和5年度末以降に公開予定）
- ・第6回大阪芸術文化交流シンポジウム「補助金・助成金のしくみ～文化芸術活動の価値をより理解してもらうには～」の開催
※大阪アーツカウンシルでは公開調査業務としてシンポジウムを実施しています。

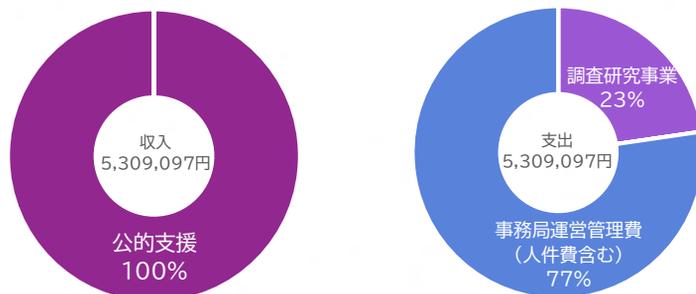
その他の活動（令和5年度実施分）

- ・大阪府文化課・大阪市文化課が所管する文化事業の検証、評価
- ・府内市町村文化行政主管課長会議（大阪府）における基調講演
- ・なにわの芸術応援募金（大阪市）の採択審査
- ・府庁本館活用・フェスパ次世代シアター事業（大阪府）の応募審査
- ・大阪市アーティストサポート窓口事業中間検証会（大阪市）の実施
- ・次世代育成型メセナ自販機（大阪府）の設置事業者審査

他機関との連携（令和5年度実施分）

- ・大阪公立大学「『EJ ART』人材育成プログラム Equity & Justice AOPで未来を開こう！」への講師派遣
- ・京都精華大学大学院フィールドワーク受け入れ
- ・大阪アーツカウンシル×大阪市アーティストサポート窓口〔なにそうだん〕共同企画
「アートキャリア講座〈18歳のための航海図～アートで生きていく・アートと生きていく～〉」
- ・ロームシアター京都「2023年度 舞台芸術プロデュース講座～演劇・ダンス編～」への講師派遣

収支円グラフ



情報発信

- ・ Web site <http://www.osaka-artsCouncil.jp>
- ・ Facebook @osakaartscouncil
- ・ X @OsakaArts

組織形態

公益社団法人岡山県文化連盟(平成17年設立)の機能強化としてスタート

構成員

プログラム・コーディネーター (非常勤) 金 孝妍
 エグゼクティブ・アドバイザー (非常勤) 大月ヒロ子
 プログラム・オフィサー (常勤、文化連盟主任兼務)
 高田佳奈
 文化連盟事務局長 兼務 (常勤) 中西 健
 文化連盟主任 兼務 (常勤) 劔持宏子
 ●アドバイザー (非常勤)
 朝倉由希、斎藤 努、杉浦幹男、森山知己
 ●WEB・システム担当 株式会社LogooDesign
 ●記録・アーカイブ担当 合同会社生活と表現
 ●映像、編集担当 ざっばうさぎ

所在地

岡山市北区天神町8-54 岡山県天神山文化プラザ3階

連絡先

電話 086-234-2626
 メールアドレス bunkaren@o-bunren.jp



担当者 高田佳奈

沿革

- 2015年**
 ・(公社)岡山県文化連盟設立10周年記念講演&リレートークにて、アーツカウンシル設置の方向性を示唆
- 2017年**
 ・キックオフシンポジウム開催
 ・おかやま文化芸術アソシエイツスタート(7/31)
 ・beyond2020認証申請受付開始(~2022年)
 ・文化芸術交流実験室、県内調査研究事業「ヒト・コト・場所」、アートマネジメント研修、NPO活動官民合同資金調達説明会&相談会、岡山県文化振興課所管の補助金審査等開始
- 2019年**
 ・文化パワーアップアクション助成事業審査開始
- 2020年**
 ・おかやま文化芸術活動相談窓口設置
 ・公式YouTube「OKAYAMA CULTURE V」開設
 ・県民文化祭「これがOKAYAMA!プログラム」企画運営開始
 ・みんなの文化活動応援事業受託(~2021年)
- 2021年**
 ・マイニングおかやまWEBサイト開設及び活用実践モデル事業助成開始
- 2022年**
 ・岡山県文化団体調査事業実施(継続中)
- 2023年**
 ・岡山県障害者文化芸術活動支援センターの専門家ネットワークに加盟

ミッション

文化芸術を軸として分野を横断する有機的なネットワークを形成し、文化芸術の中間支援機能を担う総合窓口として、県内で文化芸術活動に取り組む多様な主体の相互連携と自主的活動を促進し、豊かな地域社会の実現に努める。

ビジョン

- 県民が文化に親しむ環境づくり・文化が育まれる風土づくり
- 県民文化の継承・発展
- 未来を創り、拓いていく担い手育成
- 「文化の力」の充実と活用
- 文化ネットワークの形成

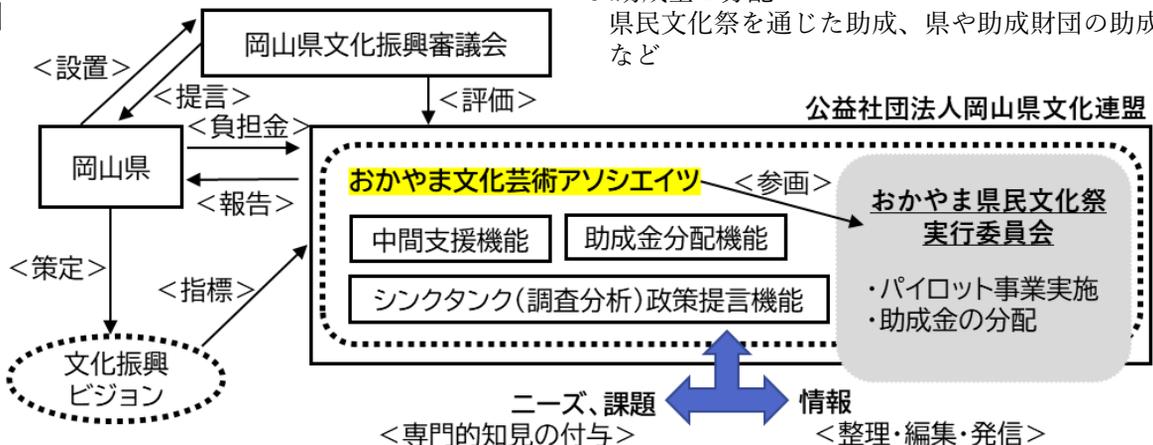
自己紹介

岡山県文化連盟が持つ既存のネットワークを生かして、私たち自身が生活するその地域の文化を構成する人や資源、歴史についてよく知り、地域の未来を見据えた新しい価値の創造と多様な主体の共生に寄与するための取組を続けています。

<おかやま文化芸術アソシエイツの機能>

- 中間支援機能
文化団体等の活動に対する相談対応、助言、伴走支援、パイロット事業、文化活動に係る研究会、勉強会、講演会などの実施
- シンクタンク機能(調査分析)・政策提言
県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査事業の実施
- 助成金の分配
県民文化祭を通じた助成、県や助成財団の助成金審査など

組織図



令和5年度の回顧と展望

令和5年度は、アソシエイツのスタート時から約6年間に渡りプログラム・コーディネーターとして様々な企画を牽引し、アソシエイツの礎を築いてくださった大月ヒロ子さんが第一線を退かれてエグゼクティブ・アドバイザーとなり、新たなプログラム・コーディネーターとしてアーティストの金孝妍（キムヒョヨン）さんが就任。新制アソシエイツがスタートしました。アソシエイツを象徴するパイロット事業「文化芸術交流実験室」vol.43から本格始動し、新たな視点で県内の調査研究活動にも積極的に取り組んでいます。また、今年度から県障害福祉課が直営で障害者芸術文化活動支援センターを始動したことを受け、アソシエイツが関係専門機関として登録され、障害者アートポータルサイト（岡山県HP）に掲載されました。相談内容の共有や人材の紹介など、少しずつではありますがアソシエイツの得意とするところを理解していただき、障害福祉課との関係性も深まっています。

次に、岡山県文化振興基本条例に基づき県の文化振興施策の方針を定める「おかやま文化振興ビジョン」が策定から5年を迎え、令和5年3月に改定されました。「2023改定版おかやま文化振興ビジョン」にも、相談対応や創造活動への支援・コーディネートなど、県内の文化芸術活動に関する総合的な中間支援機能を担うアソシエイツの役割が明記されています。令和6年度には、県の総合計画である現行の「第3次晴れの国おかやま生き生きプラン」も最終年度を迎えることから、県の重点戦略や施策においても引き続きアソシエイツの重要性が認められ、より一層存在感を示せるよう、県文化振興課と密に連携するとともに文化振興審議会の適切な評価を受けながら、よりよい運営に努めていきたいと思っております。さらに、既存の文化事業全般（県、文化連盟、アソシエイツ、天神山文化プラザ（指定管理施設））について、現在、文化振興課とともに評価と見直しを進めています。それぞれの果たすべき役割を再定義した上で、文化芸術が人々にとって心を豊かにし、暮らしに潤いを与えるとともに、地域に活力をもたらす、郷土への愛着心と誇りを育てる力となり得るよう、多様な主体とのネットワークづくりや資源の発掘、調査研究、可視化などに努めます。

助成事業

おかやま県民文化祭共催 文化パワーアップアクション助成事業（文化連盟では平成27年度より実施）

令和5年度予算 助成額150万円

・助成目的

文化・芸術を生かした地域的・社会的課題への対応を通じ、新たな価値の創造を目指す事業で、以下のいずれかにあてはまる事業に助成

①ジュニア育成支援事業：子どもたちの文化活動を支援する活動

②文化団体育成強化事業：団体のレベルアップを図る活動

③地域文化創造支援事業：文化を切り口に地域を元気にする活動

・対象分野

②・・・音楽、美術、生活文化、舞台芸術、建築、工芸、デザイン、ファッション、写真、文芸・文学、映像、歴史、伝統芸能、文化財、食など

①、③・・・上記に加え、教育、福祉、地域活性化、国際交流、都市計画など

・対象者

②・・・岡山県内で文化・芸術活動を行う団体

①、③・・・主たる分野が文化・芸術でなくとも、文化・芸術をひとつの切り口として新たな価値を創造する活動を行おうとする団体

※いずれも任意団体、法人化していないNPOや実行委員会も可。個人での活動は対象外

・内容（助成事業費）・・・上限20万円（助成対象経費の1/2）

会場費、出演費・謝金、文芸・音楽費、舞台費、旅費交通費、印刷宣伝費、通信運搬費、催事保険料、記録費、消耗品費など

・助成件数・・・合計10団体程度、令和5年度採択件数14件（①2件、②4件、③8件）

・助成期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月15日

・評価体制・・・有識者による選考委員会

・相談体制・・・おかやま文化芸術アソシエイツ プログラム・オフィサーなど

マイニングおかやま 活用実践モデル事業助成（令和3年度より実施）

令和5年度予算 128万円

・助成目的

岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げていただくためのプラットフォーム「マイニングおかやま」を活用し、おかやま文化芸術活動相談窓口寄せられた相談の中から、公益性が高く文化芸術の社会的価値を具現化するに相応しい事業をモデル事業として採択し助成

・対象分野

音楽、美術、生活文化、舞台芸術、建築、工芸、デザイン、ファッション、写真、文芸・文学、映像、歴史、伝統芸能、文化財、食など

・内容（助成事業費）・・・会場費、出演費・謝金、文芸・音楽費、舞台費、旅費交通費、印刷宣伝費、通信運搬費、催事保険料、記録費、消耗品費など

・助成件数・・・令和5年度採択件数1件（令和6年2月現在）

・助成期間・・・令和5年4月1日～令和6年3月31日

・評価体制・相談体制・・・おかやま文化芸術アソシエイツ プログラム・オフィサーなど

制作事業

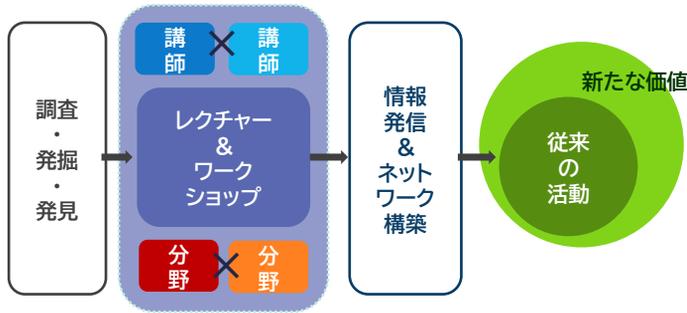
令和5年度予算 946万円

文化芸術交流実験室（平成29年度より実施）



・これまでにvol.45まで実施

- ・調査研究事業の過程で得られる新たな情報や人材データをもとにして、文化・芸術と他分野との連携による新たな取り組みの提案と、ソーシャルインクルージョンの視点に基づくレクチャーとワークショップを定期的に開催し、県内の人材や文化資源の領域横断を誘発する出会いの場の創出とネットワーク構築を目指す



文化芸術交流実験室vol.9



「訪問実験室！文化芸術が生まれてくる現場」(令和2年度より実施)

- ・公式YouTubeチャンネルOKAYAMA CULTURE Vで公開。これまでに6本をリリース
- ・コロナ禍で対面での実験室開催が難しい状況を受けて生まれた映像配信による取り組み。文化芸術が日々生み出される場所と、そこで創作や生活をしている表現者に会いに出かけ、日頃私たちが足を踏み入れることのないプライベートな現場をレポート

おかやま県民文化祭 **これがOKAYAMA！プログラム** (令和元年度より実施)

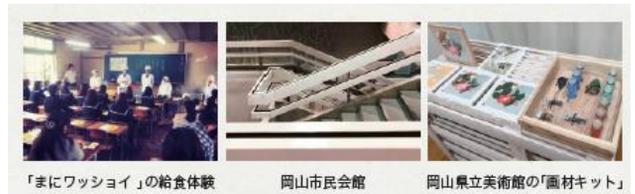
- ・おかやま県民文化祭の象徴的事業として、毎年地域（備前、備中、美作）とテーマを変えながら、地域の文化芸術資源を活用し展開する事業や新たな価値を発見し楽しみ方を提案する事業を企画運営している。

調査研究事業

令和5年度予算 316万円

ヒト・コト・場所 (平成29年度～)

- ・県内の文化芸術資源を発掘、再評価、活用するための調査研究
- ・プログラム・コーディネーターとともに、県内のちょっと気になるヒト・コト・場所を訪ね、コラム形式でWEBにて不定期掲載



「まにワッショイ」の給食体験 岡山市市民会館 岡山県立美術館の「画材キット」

公式YouTube OKAYAMA CULTURE V (令和2年度～)

- ・おかやまの文化芸術の“楽しい”を紹介する映像コンテンツのプラットフォームアソシエイツで作成する様々な映像コンテンツのほか、県内で活躍する多様な主体の文化芸術活動の様子を随時公開している。
- ・コンテンツ数51 (令和6年2月現在)



マイニングおかやま (令和3年度～)

- ・岡山県を拠点に活動するアーティストを地域の貴重な文化資源として可視化し、アーティスト活動の活性化に繋げていただくためのプラットフォーム。次の3つのコンテンツからなる。

①文化芸術マイニングリレー

好きからはじまるリレー形式のインタビュー。紹介者は自らがマイナー(miner/採掘者)となり、今、自分の中で一番紹介したいと思う岡山県ゆかりの文化芸術関係者をジェム (gem/宝石) として紹介していく。

②クリエーション再遊記

アーカイブされた作品と人に再び目を向ける。県内の文化施設が作成し保管している、展覧会図録や展示映像、舞台写真やポスター、チラシなどを見逃し配信のイメージで再掲していく。現在は岡山県天神山文化プラザの主催事業である天ブラセレクション第1回展から第100回記念展までの図録を公開。

③文化・芸術・芸事名鑑

県内で文化芸術活動をする方なら誰でも登録できるデータベース。個人のみならず団体も登録可。登録数193件 (令和6年2月現在)



その他の事業

アートマネジメント研修 (平成29年度より実施)

令和5年度予算 16万円

- ・ これまでに12回実施
- ・ 地域の文化芸術を支える側の人材育成を目的として文化関係公益法人や文化施設等の職員を対象とした情報交換会に付随して年2回実施。
- ・ 対面とオンラインのハイブリッドで実施し、一般の参加も可能

おかやま文化芸術活動相談窓口 (文化連盟では従前より実施)

令和5年度予算 36万円

- ・ 文化芸術活動を行う個人、団体を対象とした専門の相談窓口。
電話、FAX、メール、問合せフォームで受付
- ・ 令和5年度相談件数 (令和6年2月現在) 75件



他機関との連携

<行政機関等>

・ NPO活動官民合同資金調達説明会&相談会 (文化連盟として平成28年度より実施)

行政、福祉、共同募金、NPOセンター、コミュニティ財団など、官民合同、分野横断で年間3回程度実施

・ 岡山県障害者文化芸術活動支援センターの専門家ネットワーク (令和5年度より実施)

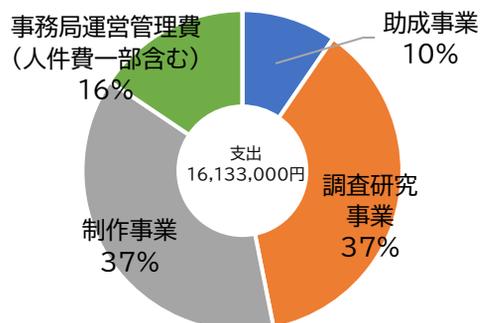
岡山県障害福祉課が設置する障害者文化芸術活動支援センターの協力専門機関としてネットワークに参加。障害者アートポータルサイトに障害のある人の文化芸術活動に関する相談先として掲載

<公益財団等>

・ 県内文化関係公益法人等情報交換会 (文化連盟として平成21年度より実施)

地域の文化力の向上を目的として、文化関係公益法人や文化施設等の職員による情報交換会を年2回実施

収支円グラフ (令和4年度決算額) 文化連盟予算のうち、アソシエイツ事業に係るものを計上しています。



情報発信

- ・ <https://o-bunren.jp/associates/>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/o.bun.ren/>
- ・ YouTube OKAYAMA CULTURE V
- ・ Twitter @o_bunren
- ・ Instagram @okayamabunka

発行物

- ・ おかやま文化芸術アソシエイツ調査研究事業「文化芸術交流実験室」報告書
- ・ おかやま県民文化祭 これがOKAYAMA! プログラム冊子



組織形態

公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団内に設置

構成員

アドバイザー（非常勤） 三浦宏樹

所在地

大分市高砂町2番33号
iichiko総合文化センター内
公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団

連絡先

電話 097-533-4011
メールアドレス miura@emo.or.jp

担当者

三浦宏樹

沿革

2016年

- 大分県芸術文化スポーツ振興財団（以下、当財団）内に事務局を設置（6月）
- 「平成28年度アーツ・コンソーシアム大分構築計画実績報告書～創造県おおいたの推進体制構築に向けて～」発行（3月）

2017年

- 「平成29年度アーツ・コンソーシアム大分構築計画実績報告書～クリエイティブな文化と評価～」発行（3月）

2018年

- 「平成30年度アーツ・コンソーシアム大分構築計画実績報告書 文化と評価ハンドブック」発行（3月）

2019年～

- 当財団（県立総合文化センター、県立美術館）事業のファンドレイジングに際して事業評価を担当
- 混浴温泉世界実行委員会事業（別府市内を会場とする芸術祭事業）など、大分県関連のアートプロジェクトの事業評価を担当（当財団の予算とは別枠）
- アーツカウンシル・ネットワーク 初代幹事（2019～2021年度）

ミッション 評価機能で「創造県おおいた」を推進

- 芸術文化の持つ創造性を教育・産業・福祉など様々な分野の社会的・経済的課題への対応に活用し、地域活性化を図る県政策「創造県おおいた」の推進を、事業評価機能の面から下支えする。

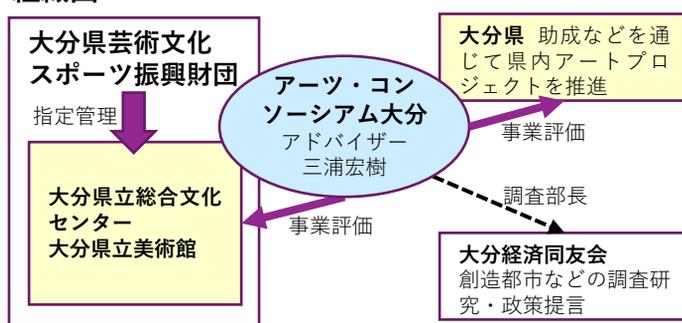
ビジョン 「創造県おおいた」の実現

- 宇佐・国東を中心とする神仏習合、大友宗麟時代の南蛮文化など、異文化を積極的に受け入れる進取の気風に富んだ歴史的土壌の上に立ち、一人ひとりが創造的であるとともに、互いの価値を認め合うさらに幅広い共生風土の醸成と、産業や文化などさまざまな分野で常に活力の溢れる社会を実現する。

自己紹介

- アーツ・コンソーシアム大分は、大分県長期総合計画の柱の一つである「創造県おおいた」政策の推進体制を構築すべく、2016年6月に、大分県、大分県立芸術文化短期大学、（公財）大分県芸術文化スポーツ振興財団（以下、当財団）の3者からなるコンソーシアム（共同事業体）型の組織として発足（事務局を当財団内に設置）。
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック以降をみすえ、サステナブル（持続可能）な芸術文化体制の確立を図ることを目的に、2016～2018年度にかけて、芸術文化振興施策の調査・研究、アートプロジェクトの評価方法の調査・研究、アートマネジメント人材の育成に関する取り組みを実施。その成果は、3か年の報告書（特に3年目に発行された「文化と評価ハンドブック」）にまとめられている。
- 2019年度からは、アーツ・コンソーシアム大分事務局長であった三浦宏樹（現・大分経済同友会 調査部長）を当財団のアドバイザーとする体制に移行して、財団が指定管理を行う県立総合文化センター・県立美術館の主催事業や、県内アートプロジェクトの事業評価をサポートする仕組みを構築。
- なお、アドバイザーが所属する大分経済同友会は2010年度より、大分県内における創造都市実現やカルチャーツーリズム（文化観光）推進をめざした活動を行っている。アドバイザーは当時から同会に所属して、当該テーマに関する調査提言活動を継続。

組織図



令和5年度の回顧と展望

- 令和5年度は、大分県芸術文化スポーツ振興財団が採択を受けた「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」などの評価をサポートするとともに、「混浴温泉世界実行委員会 事業報告書」の事業評価パートの執筆を担当した。
- また、大分経済同友会は、クリエイティブ大分委員会が中心となって、提言「創造立県の継承と発展に向けて～人口減少下における大分の活路～」を取りまとめ、10月27日に佐藤樹一郎大分県知事に提出した。この提言では、①大分県版創造都市ネットワークの設立、②ユネスコ創造都市ネットワーク年次総会の誘致、③アート観光を強力に推進、④ガストロノミーアワードを創設、⑤大分空港を活かしたテックツーリズムへの挑戦を提唱している。

調査研究事業：「情報発信」欄参照

- 「アート・コンソーシアム大分構築計画実績報告書」を作成

その他の事業（事業評価）：「情報発信」欄参照

- 大分県芸術文化スポーツ振興財団が採択を受けた「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」などの評価をサポート（2018年度～）
- 「混浴温泉世界実行委員会 事業報告書」の事業評価パートを担当（2016年度～）
- 竹田市の芸術祭事業「TAKETA ART CULTURE」の事業評価を担当（2016～2018年度）

他機関との連携

行政

- 大分県関連のアートプロジェクトの事業評価を担当（大分県 企画振興部 芸術文化スポーツ振興課）
- 「大分サステナブル・ガストロノミー推進協議会」事務局メンバーに就任（大分県 中部振興局）
- 『若者の県内就職促進のためのWEBマガジン「オオイタカタテ！」編成会議』委員に就任（大分県 商工観光労働部 雇用労働政策課）
- 「混浴温泉世界実行委員会」実行委員に就任（別府市）
- 「大分市文化・芸術振興計画推進委員会」委員に就任（大分市）
- 「臼杵食文化創造都市推進協議会」アドバイザーに就任（臼杵市）

企業

- 大分経済同友会 調査部長として、大分県内における創造都市実現を目的とする同会クリエイティブ大分委員会の活動などをサポート

文化芸術団体

- NPO法人BEPPU PROJECT（混浴温泉世界実行委員会 事務局）と連携して、バランス・スコアカードによる事業評価・戦略経営支援システムを構築し、定量・定性面での事業効果の把握と事業改善を継続

その他

- 上記の委員会活動などを通じて、大分県立芸術文化短期大学をはじめとする大学とのネットワークを継続

収支円グラフ



情報発信

- 「アート・コンソーシアム大分構築計画実績報告書」（大分県サイト掲載）
<https://www.pref.oita.jp/soshiki/10940/artconsortium1.html>
- 大分県芸術文化スポーツ振興財団が採択を受けた「地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業」などの評価（日本芸術文化振興会サイト掲載）
<https://gekijo-ongakudo.ntj.jac.go.jp/hyouka/>
- 「混浴温泉世界実行委員会 事業報告書」事業評価パート（BEPPU PROJECTサイト掲載）
<https://www.beppuproject.com/press>
- 国内外の創造都市や芸術祭に関する視察報告書・提言書（大分経済同友会サイト掲載）
<https://www.oita-doyukai.jp/>
- 日本政策投資銀行編『アートの創造性が地域をひらく 「創造県おおいた」の先進的戦略』（ダイヤモンド社）

組織形態

公益財団法人宮崎県芸術文化協会内に設置。

構成員（令和5年度）

プログラムディレクター（常勤） 山森達也
プログラムオフィサー（常勤） 中山真紀

所在地

〒880-0804 宮崎県宮崎市宮田町3番46号
県庁9号館3階

連絡先

メール：info@miyazakigeibun.jp
電話：0985-38-1150
FAX：0985-31-2782

担当者

中山真紀

ロゴ



沿革

2019年

- ・公益財団法人宮崎県芸術文化協会内に設置。杉浦幹男PD（非常勤）と山森達也PO（常勤）の2人体制でスタート
- ・令和元年度文化庁「障害者による文化芸術活動推進事業」採択事業として「天鈿女命育成講座」を実施

2020年

- ・宮崎県「新型コロナウイルス感染拡大防止対策モデル事業」を実施
- ・令和2年度文化庁「障害者等による文化芸術活動推進事業」採択事業として「Reverse Outreaches」を実施

2021年

- ・任期満了により杉浦PDが退任。新PDに山森が着任し、新プログラムオフィサーとして中山真紀を採用
- ・文化庁創造拠点形成事業として「短歌みやざき事業」を実施
- ・「ひなたにこたつ」実施

2022年

- ・宮崎県より新規事業「ひなたの文化活動推進事業」を受託し、助成事業とパイロット事業を実施

2023年

- ・アーツカウンシル・ネットワークミーティングin宮崎開催。県からの委託で「みんなート2023」を実施

ミッション

- ・文化芸術のよろず相談所

ビジョン

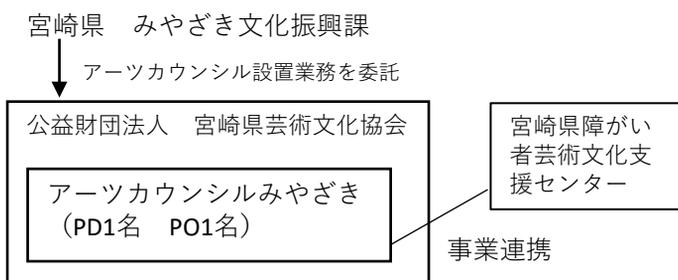
- ・社会包摂は文化芸術の最先端である

自己紹介

みやざきの新しいゆたかさは、人々の創造性（Creativity）に基づく、自由で自発的な取り組みによる文化芸術活動であり、それが他分野へ相互に刺激を与えあう、社会の触媒としてアーツカウンシルみやざきは機能する。

1. 文化が暮らしの中に息づき、あらゆる人々が文化に親しむために、SDGsに基づく、全ての人を取りこぼさない、他分野への連携によるネットワークを形成する
2. 文化を担う人材が育ち、交流し、連携し合うために、文化芸術に携わる人材育成を行い、これらの人材を県内外に発信し、これらの人材と、文化事業に対する支援を行う
3. 文化の力で地域の個性と魅力を発信し、発展するために、文化多元主義に基づき、県内のそれぞれの独立した文化と歴史を尊重し、それを文化政策に反映していくための、シンクタンク業務を行う

組織図



令和5年度の回顧と展望

令和5年度はアーツカウンシルみやざきとしては最大規模の事業「みやざきみんなート2023」を開催し、2日間で5207人の来場者があった。また、今年で3年目になる短歌みやざき事業では、俳優の星野真里さんをゲスト歌人に招いた「星野真里と、旅する短歌」を開催した。両事業はともに全国的な反響が大きかったが、アーツカウンシルみやざきがイベント事業がメインとして捉えられてしまった面も否めない。アーツカウンシルとしての通常業務としては相談件数が200程度となり、昨年対比で見ると減少傾向にある。これは長いコロナ禍が終わり、自主的に事業が行われているために減少したと思われる。

令和6年度は文化庁の創造拠点形成事業が終わり、県予算のみで運営される初の年度となる。イベント事業は現在予定がないため、県内各地とのネットワークの強化、アート人材の育成に力を入れたいと考えている。アーツカウンシルが文化芸術を支える中間支援であるならば、現場の人材だけではなく、文化芸術のファンを育てていくことも重要な業務であると考えている。芸術系の大学、専門学校もない宮崎県では、教育機関に代わるような文化芸術のラボラトリーが必要であり、当面はアーツカウンシルみやざきが担うべきだと考えている。

助成事業（総予算）900万円

- ・助成目的：宮崎県内の芸術文化振興のため
- ・対象分野：文化芸術活動全般
- ・内容（助成事業費）900万円
- ・助成件数：29件
- ・助成期間：4月1日から翌年3月31日まで
- ・評価体制：PD、POによる内部評価
- ・相談体制：PD、POの2名



制作事業

特になし

調査研究事業

特になし

その他の事業

特になし

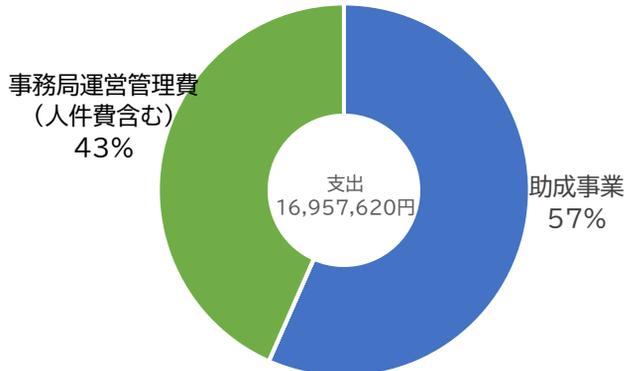
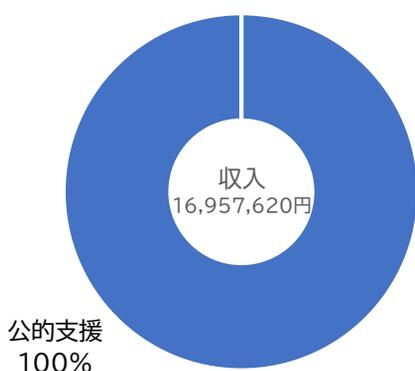
他機関との連携

行政機関

- ・宮崎県障がい者芸術文化支援センター



収支円グラフ（令和4年度決算額）



情報発信

- ・ <https://www.miyazakigeibun.jp/artscouncil-miyazaki/>
- ・ Facebook <https://www.facebook.com/artsmiyazaki/>
- ・ YouTube アーツカウンシルみやざき
- ・ Twitter @tegearts
- ・ Instagram @artsmiyazaki

組織形態

公益財団法人沖縄県文化振興会内に「沖縄版アーツカウンシル機能」を導入し、沖縄県の委託事業として、県内の文化芸術団体に支援を行う。

構成員

(令和5年度)

チーフプログラムオフィサー(非常勤)：上地里佳
 プログラムオフィサー(非常勤)：小川恵祐、喜舎場梓、具志幸大、橋口知佳子、真栄城桃子、八巻真哉
 沖縄県文化振興会 文化専門員(常勤)：奥間恵

所在地

〒901-0152 沖縄県那覇市宇小禄1831-1
 沖縄産業支援センター6階605

連絡先

電話：098-987-0926 メール：info-oac@okicul-pr.jp

担当者

小川恵祐



沿革

1993年

財団法人沖縄県文化振興会設立

2012年

公益財団法人沖縄県文化振興会へ名称変更。沖縄県の組織改革により文化観光スポーツ部が創設される。

2012～2017年

文化振興の主要事業として、一括交付金を活用した「沖縄文化活性化・創造発信支援事業」を実施。

2017～2022年

「沖縄文化芸術を支える環境形成推進事業」を実施。

2022年～

「沖縄文化芸術の創造発信支援事業」を開始。令和8(2026)年度までの継続を予定している。

ミッション

沖縄県の多様で豊かな文化芸術を次代に引き継ぐとともに、県民が身近に文化芸術に親しめる環境を創出し、文化芸術活動者に活動の場を提供することで、本県の文化資源等を活用した文化芸術活動の持続的発展を図る。

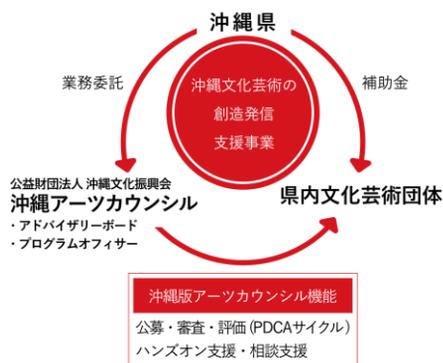
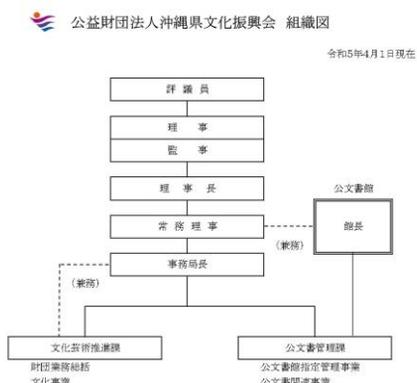
ビジョン

かつて琉球の時代に人と文化の架け橋となった先人の万国津梁(ばんこくしんりょう)の精神を受け継ぎながら、守り育ててきた文化芸術を次代に引き継ぐとともに、これからの時代にふさわしい新たな文化芸術を創造していくこと

自己紹介

沖縄アーツカウンシルは、文化芸術分野の専門家で構成されるアドバイザーボードを設置し、寄り添い型のハンズオン支援を行うプログラムオフィサーを配置しています。アドバイザーボードは、事業の選定及び評価・検証、プログラムオフィサーはハンズオン支援や相談業務のほか、県内の文化芸術の活動状況を踏まえた助成制度の構築を行っています。

組織図



令和5年度の回顧と展望

補助金事業については、総額4,114万円の交付予算額で公募を実施し、計45件の応募の中から計21件を採択し支援しました。採択事業のジャンルは琉球芸能、音楽、演劇、美術工芸、食文化など多岐にわたっています。また那覇市をはじめ都市部のものだけでなく、石垣市、宮古島市、今帰仁村、沖縄市、南城市など、全県的な広がりのおかげで地域ごとの多様な文化資源から立ち上がってくるユニークな事業が取り組まれました。

制作事業については、文化芸術の担い手不足の課題に取り組むことを目的に「オキナワ担い手未来」を始動し、県内から公募した10人の受講生とともに各分野の専門家と学び合う全9回の講座シリーズを実施しました。さら県内のアーティストやクリエイター約30人にヒアリングを行い、沖縄の文化芸術の現状やニーズをリサーチするとともに、ウェブサイトや那覇市、宮古島市、石垣市3カ所で行ったトークイベントをとおして、文化芸術の課題や展望を見据えたさまざまな声を可視化し合うような場を創出することを試みました。

助成事業

【事業名】沖縄文化芸術の創造発信支援事業

【目的】本県の多様で豊かな地域の伝統芸能や文化芸術といった文化資源を活用した文化芸術活動の持続的発展を図ることを目的とする

【対象事業】

区分1：文化芸術団体等の組織力向上・基盤強化に資する取り組み

区分2：文化芸術を次代に引き継ぐ新たな創造発信を伴う取り組み

区分3：文化芸術を通じて地域の諸課題解決や活性化の促進等に寄与する取り組み

【補助対象、補助上限金額】

①団体：上限500万円

②団体（スタートアップ支援枠）：上限100万円

③個人事業主：上限100万円

【採択件数】

令和5年度採択件数：21件

【補助期間】

①団体：交付決定日～令和6年2月29日

②団体（スタートアップ支援枠）：交付決定日～令和6年2月29日

③個人事業主：交付決定日～令和5年12月31日

【評価、審査体制】

文化振興会による要件及び資格審査の上、文化振興会が設置するアドバイザリーボードにより実施。

アドバイザリーボードは、応募書類の書面審査及び

応募者プレゼンテーションを踏まえて合議審査を行う。

審査結果を踏まえ、文化振興会が補助対象となる事業を採択する。

【相談体制】

沖縄アーツカウンシル プログラムオフィサー



制作事業

- ・ぶんかとほじょきんそうだん会（毎月20日開催）
- ・オキナワ担い手未来－アーツプロジェクトを実践する人たちを育てる－（2023年7月22日～11月11日、隔週全9回の講座シリーズ）
- ・Okinawa Arts Meeting（2023年11月23日、県内アーティストによるトークイベント）
- ・先島文化ミーティング（2023年12月16～17日、宮古島、石垣島でのトークイベント）



他機関との連携

行政機関 沖縄県文化観光スポーツ部文化振興課（所管課）

情報発信

- ・公式ホームページ <https://www.okicul-pr.jp/oac/>
- ・「沖縄県文化芸術名鑑」 <https://db.shimacul.okinawa/>
- ・Facebook <https://www.facebook.com/okinawa.arts/>
- ・Instagram @oki_arts_council

発行物

- ・沖縄アーツカウンシル メールニュース（電子発行）
- ・令和5年度沖縄文化芸術の創造発信支援事業採択事業一覧
- ・支援事例集（平成30年度～令和4年度）



組織形態

公益財団法人さいたま市文化振興事業団内にアーツカウンシル課として事務局設置

構成員

機構長（常勤）	小野瀬 淑子
プログラムディレクター（非常勤）	森 隆一郎
プログラムオフィサー（非常勤）	三浦 匡史
プログラムオフィサー（常勤）	屋宜 初音
プログラムコーディネーター（常勤）	伊藤 崇
	米本 大樹
	佐藤 安里紗

所在地・連絡先

埼玉県さいたま市南区根岸1-7-1 4階
アーツカウンシルさいたま
電話 048-767-5350
FAX 048-767-5351
メールアドレス artsCouncil@saitama-culture.jp

ロゴ



沿革

2022年

- ・（公財）さいたま市文化振興事業団内にアーツカウンシル課を設置（準備期間4/1～9/30）
- ・アーツカウンシルさいたま開設（10/1～）

2023年

- ・さいたま文化芸術都市創造助成金の交付を開始

助成事業（令和5年度）

- ・さいたま文化芸術都市創造助成金
市民への文化芸術の創造支援・普及支援を目的として、文化芸術団体等を対象に助成金を交付

制作事業（令和5年度）

- ・市民サポーター事業
国際芸術祭の運営等に参加するサポーターを支援
- ・公募プロデューサー事業
公募選出したプロデューサーへの活躍の場を提供
- ・さいたま市の魅力発信事業
さいたま市の魅力ある文化資源を広く内外に紹介

調査研究事業（令和5年度）

- ・研究アソシエイト
外部から公募し研修を経た研究員による研究報告

その他の事業（令和5年度）

- ・相談窓口事業
文化芸術に関する情報提供、マッチング等

自己紹介

さいたま市では、市民が暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会を増やし、市民生活の多様な場面で創造活動が行われる環境を整備するとともに、文化芸術を通じて将来のさいたま市の姿を考えることを目的に「アーツカウンシルさいたま」を創設しました。

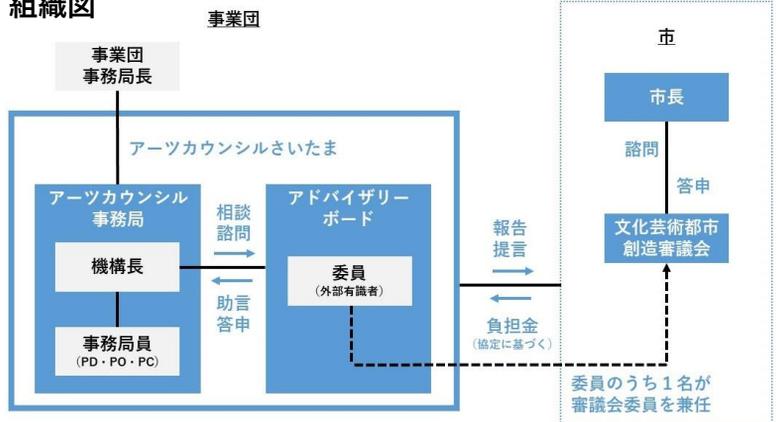
ビジョン

あらゆる人に、文化芸術を創造・享受する機会を提供し、心豊かに生活できるまちを創出する

ミッション

- 市民が暮らしの中で文化芸術と触れ合う機会を増やします
- 文化芸術の新たな創造環境を創出します
- 文化芸術を通じて、将来のさいたま市を考えます

組織図



令和5年度の回顧と展望

助成事業としては、さいたま市から受け継いだ補助金の審査体制をアーツカウンシルさいたまPD/POによる審査へと変更し、伴走支援を実施。また、さいたま国際芸術祭2023実行委員会と協働し、市民プロジェクトや公募プログラムの制作支援を実施。**制作事業**としては、芸術祭に関わる市民サポーターのミーティングを定期的な開催。公募プロデューサー事業「さいたまで表現をつくる」では、市内の民間施設と連携して滞在制作・試演を実施。また、さいたま市の魅力発信事業では、東京藝術大学と協働し「空想するさいたま」と題してデジタル作品の制作とキュレーションプランを考えるワークショップを開催し、審査を経て優秀作には奨励金を支給。**調査研究事業**としては、PD/POと共に研究活動を行う研究アソシエイトを公募。令和5年度は研究テーマを定めるためのディスカッションや公開研究会を実施。**その他の事業**としては、相談窓口を随時開設し、多様な相談に対応。

AC
NET

組織形態

公益財団法人横浜市芸術文化振興財団内の事業の一つとして実施。
(横浜市にぎわいスポーツ文化局補助事業)

構成員

プログラム・オフィサー(常勤) 2名
スタッフ 2名(うちアルバイト1名)
(ほか財団担当理事1名)

所在地

横浜市中区山下町2 産業貿易センタービル1階

連絡先

電話 045-221-0212
メールアドレス acy@yaf.or.jp

担当者

杉崎・小原(プログラムオフィサー)



沿革

- 2007年
 - ・(公財)横浜市芸術文化振興財団の事業として開始
 - ・相談窓口「ACYラウンジ」の設置(相談窓口は～現在)
- 2008年
 - ・助成3制度開始(芸術活動支援、アーティスト支援、事務所開設支援)
- 2009年
 - ・「関内外OPEN!」開始(～現在)
- 2010年
 - ・芸術不動産リノベーション助成開始(～2016年)
- 2013年
 - ・WEBマガジン「創造都市横浜」サイトの開設
- 2014年
 - ・ドックヤードガーデン活用事業開始
- 2016年
 - ・クリエイティブ・チルドレンフェロシップ助成開始
 - ・クリエイティブ・インクルージョン活動助成開始
- 2017年
 - ・「横浜市クリエイターデータベース」開始(～現在)
- 2018年
 - ・「WE BRAND YOKOHAMA」のスタート
- 2019年
 - ・ヨコハマ創造産業振興助成開始(～2021年)
- 2020年
 - ・U39アーティスト・フェロシップ助成
 - ・「ハマの大喜利」開始
 - ・文化芸術創造都市横浜・臨時相談センター(YES!)の設置(～2021)
- 2021年
 - ・ミナトノアート開始(～現在)
- 2022年
 - ・ACY15周年記念事業実施

ミッション

市民とともに、アートの力を活かすことにより横浜の魅力を高め、心豊かで活力に満ちた市民生活の実現を目指します。(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団の使命より)

ビジョン

市民の参加や協働のアート活動により新たな出会いの機会と場が生まれ「創発する都市」横浜が世界に拓かれます。

(公益財団法人横浜市芸術文化振興財団のビジョンより)

自己紹介

アーツコミッション・ヨコハマ(ACY)は、公益財団法人横浜市芸術文化振興財団が運営する芸術やデザインにおける社会連携、地域連携を進めるプログラムです。芸術やデザインを軸に横浜各地で共創、協働を生み出す中間支援プログラムとして、専門人材や地域住民とのネットワークを築き、横浜の環境・歴史・文化を読み解き、芸術やデザインを市民の身近にすることで、人を惹きつける新たな価値を創造しています。

<アーツコミッション・ヨコハマの機能>

- 1: 相談窓口
- 2: 助成支援
- 3: ネットワーキング
- 4: 調査・研究
- 5: プロモーション
- 6: 企画・実施
- 7: その他

組織図

【横浜市にぎわいスポーツ文化局】

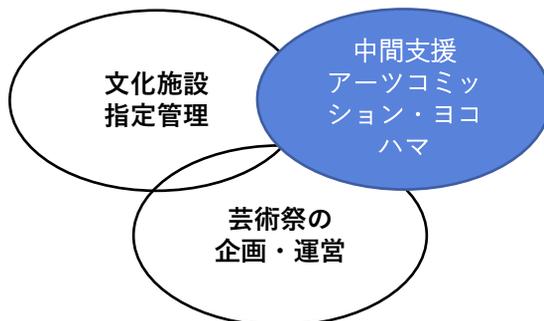
- ・文化振興課
- ・創造都市推進課 等

予算
方針



提案
実施
報告

【公益財団法人横浜市芸術文化振興財団】



令和5年度の回顧と展望

令和5年度は、キャッチコピーを「まちからアートがはじまり、アートからまちがはじまる」と新しく設定し、横浜都心臨海部から、郊外、また横浜市外へ活動の幅を広げました。

2016年度から続けてきたアーティストのキャリア形成を支援するアーティスト・フェローシップ助成では、大きく内容を発展させ、横浜各地での短期滞在を必須としました。日々新しい表現を追求し創造活動にはげむアーティストが、地域住民に身近なコミュニティ拠点や劇場、アトリエ等で調査、創作、発表などを行っています。

また、新たに「令和の横浜使節団」を立ち上げ、社会と芸術文化を横断した事業を生み出す多様な人材の発掘、育成を目指したプログラムとして実施。横浜から新潟などを訪れ、アートやデザイン、まちづくりに関係する人々のネットワークを構築しました。

あわせて、信州アーツカウンシルとの「地域アーツカウンシルにおける本格的な2地域間交流」を全国ではじめて開催。他都市の先端事例を学ぶと同時に、当該地域同士を相互プロモーションし、双方がつながる各地の担い手の交流を促進することで、あらたな発想が生まれることを期待しています。

設立初期から続く相談では、アーティストやクリエイターのみならず、企業や行政からの相談もあります。これまではデザインの相談が多かったのですが、今年は少しずつアートに取り組んでいく企業からの相談も増え、その支援に力を入れています。具体的には、まちづくりにつながる壁画の設置や、若手アーティスト支援のコンペに関するもの、放送事業者が現代アーティストを紹介する映像コンテンツをつくる際の制作協力などを行いました。アーティストの活躍の場を広げる協働が進んでいます。

助成事業

令和5年度予算 5,000,000円

■ACYアーティスト・フェローシップ助成

・助成目的

アーティストの創作、発表によるキャリア形成を支援するもので、活動の一環として横浜各地への短期滞在を必須とした。本プログラムを通じて、アーティストは、必要な資金やネットワーク、新しい表現や活動の場所の獲得し、自身のキャリアアップを目指し、ACYは横浜各地において人を惹きつける新たな価値創造を目指し、地域の文化の多層化と複合化に取り組んだ。

- ・対象分野：美術、舞台芸術の分野において活動するアーティスト個人
- ・助成事業費：各1,000,000円
- ・助成件数：5件（<https://acy.yafjp.org/grants/2023/81233/#adopted>）
- ・対象期間：2023年6月1日～2024年2月29日
- ・評価体制：外部審査員5名
- ・相談体制：プログラム・オフィサー
- ・支援内容：相談・情報提供や人材の紹介/滞在拠点における活動の支援/広報協力



山岡瑞子 展示の様子



坂本夏海 ワークショップの様子



加藤立 滞在制作の様子



ユニ・ホン・シャープ ワークショップの様子

運営事業

■ 関内外OPEN!15

2009年から続く取り組みで、クリエイター等のネットワーキングをしつつ市民が気軽にアートやデザインを楽しむことができるイベント。開催15回目のテーマは「創造自由貿易港」。「モノとお金の交換」ではなく、「創造性と創造性の交換」を試みる多様なプログラムを展開した。

日時：2023年10月14日（土）、15日（日）10:00～17:00

会場：旧第一銀行横浜支店、関内駅周辺の拠点



「ビジネスパーソンとクリエイターのPower Brunch」の様子



「あなただからこのコーヒーミュージック」の様子

■ ミナトノアート2023

地域で活躍するディレクターやアーティストらと実行委員会を組み、ギャラリー、ショップ、商業施設等と連携して行うまちなかのアートイベント。横浜都心部の複数会場で実施している。令和5年度は「ART IN LIFE」をコンセプトに、生活に身近な場所やテーマでアートにふれる機会を増やすことを目的とし、アートイベントやギャラリー巡りを実施した。

日時：2023年10月21日（土）～11月5日（日）

会場：横浜駅、元町・中華街駅、石川町駅周辺等のエリア



「ミナトナフォト」の様子



「ヨコハマ西口アートプロジェクト2023」の様子

■ 令和の横浜使節団

「まちづくり」「デザイン」「ものづくり」「食文化」等をテーマにした視察交流体験プログラム。「ヒト」「コト」「ハコ（場所・街）」をリアルな訪問・交流の中で学び、感じ取る。プログラムでは現地で活躍する様々なジャンルのプレーヤーとの学び、交流の場を設定した。

日時：2023年8月31日（木）～9月1日（金）【訪問先：新潟】

2024年3月1日（金）～3月2日（土）【訪問先：長野】



新潟訪問の様子



新潟訪問の様子

■ ACYフォーラム

ACYが目指す人と場を紹介し、創造性を軸に横浜の地域の未来を議論するフォーラム。令和5年度は「子どもの居場所・学び場と文化芸術のまちでの交点」をテーマに、横浜、長野、金沢、東京の実践者を紹介。これから文化芸術が子どもの居場所・学び場づくりにどのように寄与できるかを考える機会とした。

日時：2024年2月2日（金）15:00～17:00

会場：BUKATSUDO HALL

連携事業

■ヨルノヨ・アートプログラム「水の町プロムナード」

横浜都心臨海部で開催されたイルミネーションイベント「夜にあらわれる光の横浜〈ヨルノヨ2023〉」の一環として、クリエイティブ・ライト・ヨコハマ実行委員会と共催。横浜ならではの雰囲気味わえるまちなかの建物、広場、通りを舞台に、美術、アニメーション、音楽、ダンスのプログラムを実施した。

日時：2023年12月8日（金）～17日（日）

会場：水町通り、象の鼻パーク、象の鼻テラス等



水の町プロムナード「ヨルは子どもでみなハシャグ」の様子

他機関との連携

<行政機関>

- 横浜市にぎわいスポーツ文化局 創造都市推進課（所管局）

<企業>

- 放送事業の文化芸術支援事業の実証実験に制作協力
- 若手アーティストコンペの審査やメンターとして協力
- まちづくりに寄与する壁画の制作に協力など

<事業協力>

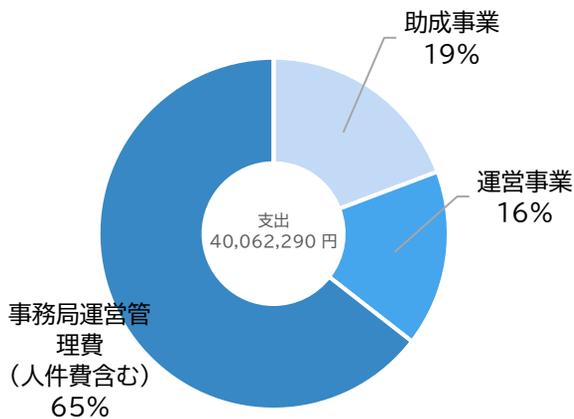
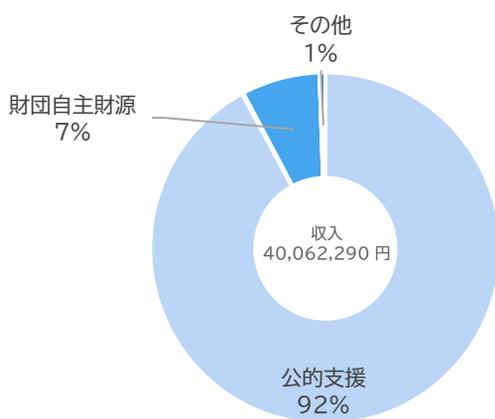
- 信州アーツカウンシル

「旅する信州アーツカウンシル／インターローカルセッション with アーツコミッション・ヨコハマ 文化の多様性と暮らしのゆたかさは関係がある～地域の循環を見つめ直すアートの営み from NAGANO」

日時：2023年2月1日（木）18:30～19:50

会場：BUKATSUDO HALL

収支円グラフ



情報発信

- ・アーツコミッション・ヨコハマ サイト <https://acy.yafjp.org/>
- ・横浜市クリエイターデータベース <https://acy.yafjp.org/creatorsdatabase>
- ・Facebook <https://www.facebook.com/creative.city.yokohama>
- ・X @ACY_YKHM
- ・note https://note.com/arts_c_yokohama
- ・WEBマガジン「創造都市横浜」（更新停止） <https://yokohama-sozokaiwai.jp/>



組織形態

公益財団法人川崎市文化財団の事業として、パラアート推進公募型事業委託等を実施。

なお、中間支援の取組として、パラアート推進事業に加え、音楽分野に特化した情報発信事業等も実施。

構成員

事業課 6名

(うち課長1名、パラアート担当2名、「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局3名)

所在地

神奈川県川崎市幸区大宮町1310

ミュージアム川崎セントラルタワー5階

連絡先

(公財)川崎市文化財団 事業課

■パラアート推進事業担当

TEL. 044-272-7366 メール para-art@kbz.or.jp

■「音楽のまち・かわさき」推進協議会事務局

TEL. 044-544-9641

メール kawasaki@ongakunomachi.jp

ロゴ



沿革

1985年

設立

2004年

市民団体「音楽のまち・かわさき」推進協議会 発足

2012年

公益財団法人へ移行

2017年～

川崎市より「パラアート推進モデル事業」を受託

2018年～

「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局機能を川崎市文化財団に統合

2019年～

「パラアート推進事業」を自主事業として実施

2020年～2021年

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「川崎市文化芸術活動応援事業(会場使用料等助成)」を受託

2024年

「音楽のまち・かわさき」推進協議会発足20周年
川崎市市制100周年

ミッション

パラアート事業では「障がいのある・なしに関わらず親しめる芸術文化活動=パラアート」と捉え、パラアートの活性化につながる中間支援を行っていくことで、誰もが文化芸術に携わることができ、文化芸術に親しみ、楽しめる環境づくりを推進します。

ビジョン

市の掲げる「かわさきパラムーブメント※」の方針に基づき、「誰もが芸術文化活動に親しんでいるまち」に寄与することを目指します。

※「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を図れるまち」の実現を目指す取組。

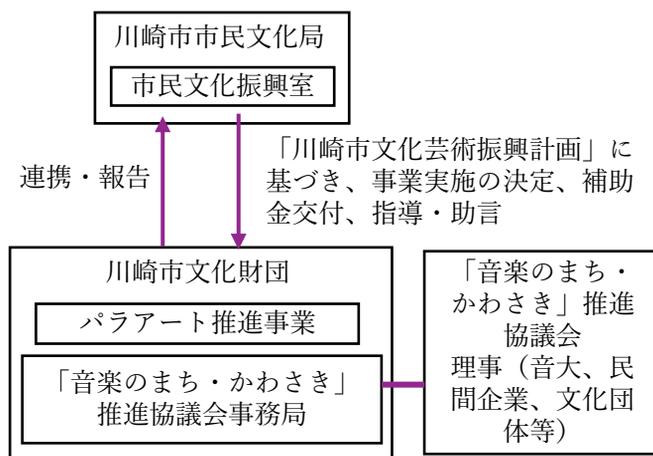
自己紹介

公益財団法人川崎市文化財団は、(1)文化芸術の創造及び発信、(2)文化芸術活動の支援及び協働、(3)文化芸術施設の管理運営 (4)その他必要な事業を目的として事業活動を行っています。

パラアート推進事業は、川崎市が進める多様性と社会的包摂に向けた「かわさきパラムーブメント」の一環として、公募型事業委託や他団体との連携によるパラアートの普及啓発、作品展覧会の開催を行うほか、専用ホームページやSNSを活用した情報発信、交流会等の開催によるネットワークの構築、相談窓口の運営、調査研究等に取り組んでいます。

また、川崎市文化財団は「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局として、団体・個人・事業者等のネットワークや広報、コーディネートなどの支援を通じて、多様な主体が協働して取り組む「音楽のまちづくり」のプラットフォーム機能を有しています。

組織図



令和5年度の回顧と展望

パラアート推進事業においては、コロナ禍が明けて「公募型事業委託」の新規応募団体が増加しました。SDGsの機運の高まりにより企業や商業施設から、障がいのある方の絵画展示やステージ発表等についての相談も増加しています。こうした「社会包摂を目指し活動する団体や企業」と「障がいのある当事者」を効果的につなぐためにも、中間支援の役割を果たせるよう、引き続き認知度向上を目指して参ります。

「音楽のまち・かわさき」推進の事業では、TV、ラジオなどのマスメディア連携による情報発信やオウンドメディアによる情報提供等により市内の音楽活動を支援しています。令和5年時点の音楽イベント件数はコロナ前の水準まで回復していないものの、令和6年度においては川崎市市制100周年の機運が市民の文化芸術活動に大きな後押しとなると考えています。引き続き、市内音楽活動のプラットフォームとして情報面での支援を行います。

助成事業

パラアート推進公募型事業委託 ※団体の自主活動への補助・助成金ではなく、委託方式。

- ・委託目的：パラアートの観点から地域社会における課題を捉え、解決に取り組み、パラアートの推進に寄与する事業を発掘し、さらに事業の成果をモデル事例として広く発信する。
- ・内容：スタートアップ事業…1事業につき委託料上限15万円、3件
ステップアップ事業…1事業につき委託料上限40万円、3件
- ・評価体制：審査委員会を設置（構成員…当財団、市民活動支援団体、障害福祉団体、行政、学識者）



吃音のある学生たちによる音楽団「コンアニマ」映画上映&ライブ



本格的な打楽器を手に即興を楽しむ「プチリズムフェス」



こども文化センターと近隣放課後等デイサービスの合同音楽鑑賞会

制作事業

- ・作者に障がいがあるか・ないかに関わらず、作品のありのままの魅力を感じてもらうことを目指すパラアート展覧会「Colorsかわさき展」の開催 等

調査研究事業

- ・アーツカウンシルネットワーク参加
- ・各種研修への参加

Colorsかわさき展→
(出展約150名、福祉施設等38団体)



その他の事業

- ・関連団体の交流促進、活動の活性化等を目指す交流会や勉強会の開催（プラットフォーム形成）
- ・相談支援事業として、常時相談窓口を設置

他機関との連携

行政機関…健康福祉局障害者社会参加・就労支援課等

教育機関…特別支援学校、音楽大学等

企業…地元メディアや企業と連携した情報発信、商業施設と連携した絵画展等

文化芸術団体…神奈川県障がい者芸術文化活動支援センターとの情報交換 等

その他…NPO法人川崎市障害福祉施設事業協会、川崎市観光協会、川崎市商工会議所 等

情報発信

■パラアート推進事業

市内パラアート情報サイト

<https://kbz.or.jp/paraartnet/>

Facebook

<https://www.facebook.com/kawaparanet/>

X (旧Twitter) @kbunkazaidan

Instagram @paraartnet

■「音楽のまち・かわさき」

公式サイト <https://www.ongakunomachi.jp/>

Facebook [kawasaki.muton](#) YouTube [ongakunomachi](#)

Twitter @ongakunomachi LINE @muton

Instagram @kawasakimuton note onmachi_kawasaki

情報誌「ミュージックプチマガジン」（隔月刊3万部）

テレビ神奈川・かわさきFMでの提供番組の放送



組織形態

公益財団法人新潟市芸術文化振興財団内にアーツカウンシル部として設置

構成員

チーフプログラムオフィサー（常勤） 高橋郁乃
 プログラムオフィサー（常勤） 大浦亜子
 中西享
 根木一子

所在地

新潟市中央区西堀前通六番町894番地1
 西堀六番館ビル5階

連絡先

電話 025-378-4690

メールアドレス

artscouncil@niigata.email.ne.jp

担当者

高橋郁乃（チーフプログラムオフィサー）



沿革

2016年

- ・9月26日 設立
- ・文化芸術活動に関する相談窓口の設置
- ・トークイベント「語りの場」開催(~現在)

2017年

- ・beyond2020認証申請受付(~2022年)
- ・財団から助成事業の運用を引継ぐ
- ・文化芸術基盤整備促進支援事業開始(~2023年)
- ・新潟市と協働した社会包摂事業の開始(~現在)

2018年

- ・「にいがた BUNKA WAON」の発行開始

2019年

- ・文化芸術活動の助成金相談会開始

2020年

- ・文化芸術団体ステップアップ助成金の開始
- ・新型コロナウイルス感染症拡大に対する調査および提言

2022年

- ・テーマ別プロジェクト助成の開始

2023年

- ・助成制度を整理/統合し「文化芸術活動に関する支援事業」として開始(~現在)
- ・トークセッション「にいがた」を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」の開催
- ・外部団体との協力事業の展開

ミッション

新潟市民の文化芸術活動の活性化を図るとともに、持続的な文化創造交流都市の推進体制を構築する。

自己紹介

「新潟」の文化と文化芸術の力で市民の誰もが輝けるまちをめざして、新潟市をはじめとする多様な主体と連携しながら、文化芸術団体を多角的に支援する体制で活動しています。

<アーツカウンシル新潟の機能>

1. 市民の文化芸術活動の支援

文化芸術活動に対するアドバイスや相談、マッチングなどの活動支援。
 今後の助成事業に関する検討。

2. 調査・研究

新潟市の文化芸術活動に関するシンクタンク機能（文化芸術関連調査、政策研究、人材育成、啓蒙など）

3. 情報発信

調査・研究結果、各種助成、アーツカウンシル新潟支援事業などの一体的な情報発信

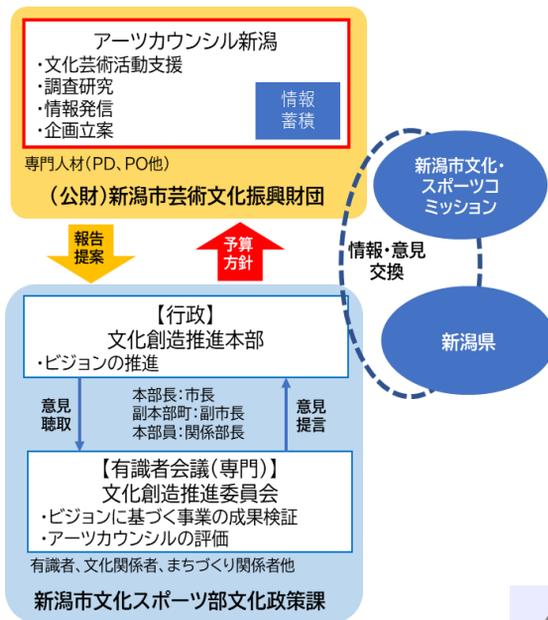
4. 企画・立案

新潟市及び新潟市関連機関の文化芸術事業に対する、助言や提案、企画運営支援。
 支援や調査・研究に基づく政策提言など

ビジョン

1. 社会包摂の実現に貢献する、あらゆる市民が主体の文化芸術活動の活性化
2. 新潟文化の形成、発信による北東アジアの文化交流拠点都市の形成
3. 文化芸術の多面的利活用による文化創造交流都市・新潟の基盤強化とブランド発信
4. 持続的・自律的なアーツカウンシル組織の確立

組織図



令和5年度回顧と展望

令和5年度は、従来から課題であった「市民の文化芸術活動把握とリーチ」を重点的に取り組みました。

初めての試みとして、トークセッション「“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」を開催しました。文化芸術への関心・興味を醸成するだけではなく、新潟市の将来に思いを馳せていただくことをめざし、新潟市の文化政策に関するビジョン「新潟市文化創造都市ビジョン」のパブリックコメント期間に合わせて実施しました。トークセッションは、アーツカウンシル新潟の助成制度で支援した団体の代表の方や新潟の文化を先導する方々にファシリテーターをお願いし（ゲストファシリテーター）、「にいがた」と「ぶんか」について参加者と一緒にざっくばらんに想いを出し合う会としました。これにより、文化に関心がある方々や、新潟市を文化で魅力的なまちにしたいと考えている方々とアーツカウンシル新潟が交流する機会を設けることができました。

また今年度は、外部組織との連携を積極的に行いました。これにより、アーツカウンシル新潟単独では開催ができないものの、新潟市の文化特徴や理解醸成を促すために貴重なきっかけとなる事業を協力開催することができました。

新潟市の文化政策に関するビジョン「新潟市文化創造都市ビジョン」が来年度から新たになることを受け、設立時に作成した「アーツカウンシル新潟中長期計画」を見直し、新ビジョンや「“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」等の内容をふまえながら、新たな中長期計画を作成します。

助成事業（令和5年度実施分）

令和5年度予算 5,000,000円

※新潟市とイオン株式会社の「包括連携協定」によりご当地WAON「にいがた BUNKA WAON」を発行。利用金額の一部がイオンから新潟市芸術文化振興財団へ寄付され、助成事業に充当。

文化芸術活動に関する支援事業

・助成目的

「より豊かな地域社会の実現」をめざして、中長期的な視点から、新潟市内で行われる文化芸術プロジェクト（事業）や、市内で活動する文化芸術団体の運営等を軸として、文化芸術活動に対する支援事業を展開。

令和5年度からは、市民が新たに挑戦する文化芸術活動にも対象を広げて支援事業を実施。

・対象分野

文学や音楽、美術、演劇、舞踊などの「芸術」のほか、メディア芸術、伝統芸能、デザイン、工芸、生活文化、歴史文化、食文化、などを含む、幅広い分野の文化芸術活動

・事業区分・助成率・助成額・助成件数

新プロジェクトへのチャレンジ助成（対象経費の2/3以内・上限10万円 ※助成率は2回目1/2、3回目1/3）

初めて文化芸術活動に取り組む団体や、活動実績のある団体が新たに挑戦するプロジェクト（事業）で、特定の人や団体だけでなく、広く市民に開かれた取り組み

※令和5年度採択件数 3件

テーマ別プロジェクト助成（対象経費の2/3以内・上限50万円 ※助成率は2回目1/2、3回目1/3）

「地域文化の魅力創造・発信する取り組み」「文化芸術で子ども・青少年を育成する取り組み」「文化芸術と他分野とが連携する取り組み」の3つのテーマに該当する取り組み

※令和5年度採択件数 5件

団体助成（対象経費の2/3以内・上限20万円 ※助成率は2回目1/2、3回目1/3）

団体が抱えている課題や新たな枠組みへのチャレンジに対する取り組み、活動の乏しい団体の新たな活動への取り組み、個人による新たな文化芸術団体の設立

※令和5年度採択件数 2件

・助成対象経費

報償費、旅費、消耗品費、印刷製本費、役務費、委託料、使用料及び賃借料、その他理事長が必要と認める経費

・助成期間

交付決定日～令和6年2月29日（年間4回公募）

・評価体制および相談体制

アーツカウンシル新潟PO

文化芸術基盤整備促進支援事業（令和5年度で終了）

市内の文化芸術団体が将来に向けて継続して活動していくための取り組み、多くの市民が文化芸術に触れることのできる環境づくり、文化芸術を活用した地域の課題解決や魅力の発信や豊かな市民生活の実現を図る取り組みを支援。

・助成率・助成額・助成件数

対象経費の2/3以内（2年目は1/2、3年目は1/3）、上限100万円

令和5年度採択件数 1件

制作事業（令和5年度実施分）

令和5年度予算 68,770円

トークイベント「語りの場」

年間4回程度の開催。

市民が新たな視点や価値観と出会い、知り（学び）、自らの活動を広げていくことで、魅力あふれる活動が、まちに根付いていくことをめざしている。

〈令和5年度語りの場テーマ・ゲスト〉

「会社員と演劇人、どうやって両立する？」

ゲスト：中村ノブアキ（JACROW代表・脚本家・演出家）

日時：2023年10月20日19:00～20:30

会場：アーツカウンシル新潟大会議室
オンライン

協力：りゅーとぴあ事業企画部



「振付家の役割、その多様性」

ゲスト：チョン・ヨンドゥ（振付家・ダンサー）

池ヶ谷奏（振付家・ダンサー）

通訳：韓ヨルム

日時：2023年11月4日16:00～18:00

会場：りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 練習室4
オンライン

協力：NPO法人ジャパン・コンテンポラリーダンス
・ネットワーク



「障がいのある人の表現活動調査 これまでとこれから」

ゲスト：前山裕司（新潟市美術館 特任館長）

小林誉尚（社会福祉法人とよさか福祉会 クローバー）

吉川遼郁（新潟市 文化スポーツ部 文化政策課）

日時：2024年3月6日18:00～19:30

会場：新潟市芸術創造村・国際青少年センター（ゆいぽーと）
1階工房・ギャラリー

※展覧会「あふれる思い ふれる気持ち 2023」会場内
オンライン

協力：新潟市



トークセッション「“にいがた”を“ぶんか”で〇〇する作戦会議」

アーツカウンシル新潟設立以降、初めての座談会を開催。

ゲストファシリテーターを迎え、参加者とともに新潟の文化や新潟のまちに対する期待、可能性について考えるトークセッション。

新潟の将来を身近に感じ、文化芸術の機能・効果への理解・関心が醸成されることを期待している。

※令和6年度から令和13年度までを対象期間とする新たな文化ビジョンの検討を新潟市が進めており、ビジョン素案に対する意見募集の実施期間中に合わせて開催。

日時：2023年11月2日19:00～20:00

2023年11月3日14:00～15:00

ゲストファシリテーター：

2日 迫一成(hickory03travelers代表、上古町の百年長屋SAN館長)

3日 榎本広樹(りゅーとぴあ事業企画部長)

富永広紀(りゅーとぴあ広報営業課長)

会場：み～つ待合室 by SAN（新潟三越跡地バス）

協力：み～つ、りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館 事業企画部



調査研究事業（令和5年度実施分）

新潟市内中学校鑑賞教室実施にむけたメニュー作成

市内中学校音楽科教諭より、来年度の中学校鑑賞教室実施に向けた相談をきっかけに対応。

りゅーとぴあ 新潟市民芸術文化会館が実施しているアウトリーチ活動および登録アーティスト制度をベースに、りゅーとぴあとともに検討・作成。

他機関との連携（令和5年度実施分）

〈行政機関〉

新潟市文化スポーツ部文化政策課（所管課）

アーツカウンシル・ネットワークに関する運営業務（日本芸術文化振興会委託）

〈企業〉

イオン株式会社

※新潟市とイオン株式会社の「包括連携協定」による。ご当地WAON「にいがた BUNKA WAON」の利用金額の一部がイオンから、新潟市芸術文化振興財団へ寄付される。

〈文化芸術団体〉

文化芸術基盤整備促進支援事業による支援団体

新潟県音楽療法士協会/新潟市農村文化協議会/にいがたユニバーサルまち歩き

〈事業協力〉

・NPO法人 ジャパン・コンテンポラリーダンス・ネットワーク

「Choreographers 2023 次代の振付家によるダンス作品上演&トーク」新潟公演

－新潟公演開催に合わせて、語りの場「振付家の役割、その多様性」を開催

－公演周知等、開催に向けた事業協力を実施

・一般社団法人DRIFTERS INTERNATIONAL

「障害のある人と考える舞台芸術表現と鑑賞のための講座～入門編～」上映会新潟会場

－新潟での上映会について、りゅーとびあ事業企画部とともに開催に向けた事業協力を実施

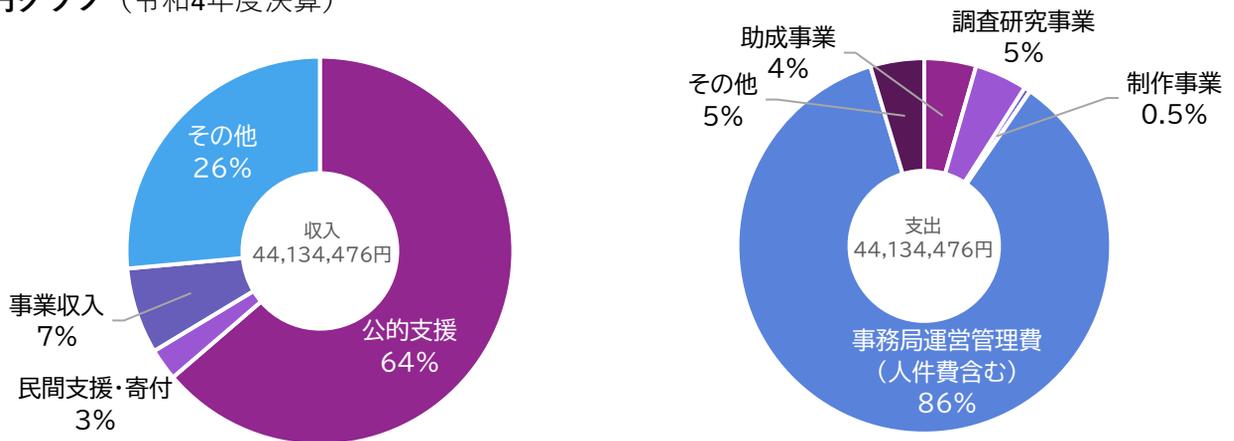
・新潟市視覚障害者福祉協会

「視覚障害者のための美術鑑賞」

－基盤助成採択団体「にいがたユニバーサルまち歩き」メンバーから、視覚障害者向けの美術鑑賞講座実施の相談をきっかけに対応

－新潟市美術館館長の紹介、コレクション展の展示作品の解説・野外彫刻の触察の実施をフォロー

収支円グラフ（令和4年度決算）



情報発信

ウェブサイト: <https://artscouncil-niigata.jp/>

Facebook: <https://www.facebook.com/arts.niigata/>

YouTube アーツカウンシル新潟

Twitter @arts_niigata

Instagram @arts.niigata

発行物

『基盤助成取り組みレポート』（平成29年度～令和元年度）

『公立文化施設におけるダンスを用いたプログラムに対する多角的な評価 ガイドラインについての提案』

（（公財）セゾン文化財団令和2年度 次世代の芸術創造を活性化する研究成）

組織形態

公益財団法人浜松市文化振興財団内に『浜松アーツ & クリエイション』として設置

構成員

- 島田 篤志 (常勤)
- 中村 和也 (常勤)
- 大谷 和正 (常勤)
- 縣 美勇士 (非常勤)
- 矢川 理乃 (非常勤)

所在地

〒430-7790
静岡県浜松市中央区板屋町111-1

連絡先

浜松アーツ&クリエイション
Tel 053-451-1158
Mail aandc@hcf.or.jp

担当者

中村 和也



浜松アーツ&クリエイション
Hamamatsu Arts & Creation

沿革

2018年

浜松市が、浜松版アーツカウンシルとして（公財）浜松市文化振興財団内に設置
市内活動団体等を中心に150件のヒアリングを実施

2019年

創造都市推進事業補助金の事務局・伴走支援の開始
補助金事業の一事業がグッドデザインアワードを受賞

2020年

事務所移転
浜松医療センターと協働でコロナ禍における文化芸術活動についての支援事業の実施
News Letter Vol.1発行（季刊誌）

2022年

メールマガジンVol.1発行（月一）

2023年

過去5年間のヒアリング461件の分析
アーティストと企業の協働方法について調査を開始

ミッション

創造的な活動を行う市民活動団体等を支援することにより、市民の暮らしの質や豊かさを高め、環境・教育・福祉などの問題解決を図る「創造都市・浜松」の発展を目指す。

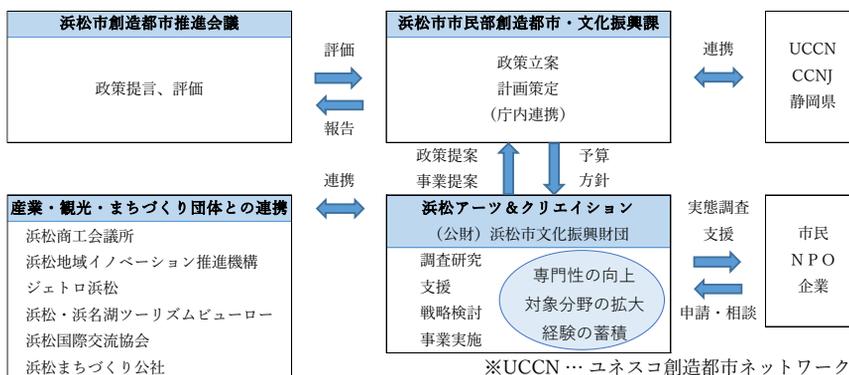
ビジョン

- 市民が文化の担い手の主体となる仕組みづくり
- 市民、市民団体、企業等が創造的な活動を行うことができる土壌づくり
- 文化の多様性を活力としたまちづくり
- 新しい価値観の創出
- 文化芸術による社会的・経済的課題の解決

自己紹介

浜松アーツ&クリエイションは、アーティスト・クリエイターの支援・発掘から、助成制度、伴走支援、調査研究、情報発信等を通し、既存の概念にとらわれない市民の「創造的な活動」を活性化し、そこから生まれる様々な効果を都市の発展に結び付けていきます。

組織図



※UCCN … ユネスコ創造都市ネットワーク

CCNJ … 創造都市ネットワーク日本

令和5年度の回顧と展望

設立からこれまでは、市民活動のヒアリング調査を重点的に取り組み、活動者の声を聞き、顔が見える関係性の構築を行ってまいりました。また、これらから得た課題を抽出し、支援事業につなげるとともに、補助金伴走支援などを通じて、活動しやすい基盤づくりを行い、市民活動の可視化や主体性が高まる取り組みをしています。

これまでのヒアリングを通じて郷土を大切にしたい心や社会貢献的（利他的）な想いを持ち活動する多くの個人や団体が存在することが明らかになりました。今後はこれらの活動者を成長サイクルに導くパイロット事業など、目に見えるアクションを起こし、社会に活動の価値が伝わり他者や他地域に創造的な活動が派生するきっかけづくりを行いたいと考えています。次年度以降は、これまでの事業と並走し、ジャンル間の出会いや相互理解、ジャンルを超えた交流の促進など「つながる交流の機会づくり」にチャレンジしていきます。

助成事業（令和5年度実施分）

● 助成目的

浜松市では、地域固有の文化や資源を活かした創造的な活動が活発に行われ、その活動が市民の暮らしの質を高めていく都市「創造都市」の取り組みを推進しています。本補助金は、「創造都市・浜松」の推進に寄与する、市民活動団体やアーティスト、企業等が企画・実施する創造的な取り組みに対し、その経費を一部補助することで、それらの取り組みがより活発化し、継続して市内で行われるようになることを目的としています。

● 対象分野

創造都市の実現に資する事業

● 助成対象経費

賃金、報償費、旅費、委託料、使用料、需用費、役務費、備品等経費（要理由書）

● 助成件数

令和5年度採択件数15件

● 助成期間

令和5年7月1日～令和6年2月15日

● 評価体制及び相談体制

審査委員による評価

浜松アーツ&クリエイション及びアドバイザーによる伴走支援

制作事業（令和5年度実施分）

文化芸術活動ビルドアップ講座「次の一步を考えよう！」

文化芸術活動をされている方が抱えている課題である「計画性」「連携」「賃金」「広報」について複合的に課題解決に取り組む。講師から課題解決のヒントをいただき、自身の企画案をビルドアップしていく。

全5回講座。最終回で受講生企画案を発表する。

コーディネーター：清宮 陵一（NPO法人トッピングイースト理事長）

講師：米澤 浩祐、橋本 成美、根木 龍一、古川 陽介、冠 那菜奈、川村 庸子、芹沢 高志

他機関との連携

〈行政機関〉

浜松市市民部 創造都市・文化振興課（所管課）

浜松市教育委員会

〈企業〉

浜松いわた信用金庫（SDGs推進部・地域貢献課）

株式会社天竜浜名湖鉄道

常盤工業株式会社

有限会社春華堂

〈その他〉

静岡文化芸術大学

浜松NPOネットワークセンター

はままつ起業家カフェ

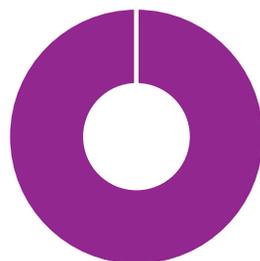
浜松商工会議所

浜松・浜名湖ツーリズムビューロー

浜松国際交流協会

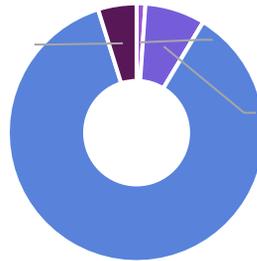
浜松まちづくり公社

収支円グラフ



収入・支出
29,897,998円

その他
5%



情報発信

<https://www.hamamatsu-artscreation.jp/>

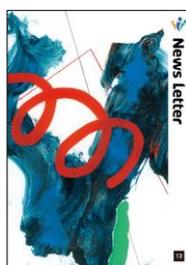
Facebook HamamatsuArtsAndCreation

Youtube 浜松アーツ&クリエイション

X @hamamatsu_a_c

Instagram @hamamatsu_a_c

News Letter Vol.1～14



組織形態

堺市 文化観光局 文化国際部 文化課内

構成員 令和5年度

プログラム・ディレクター（非常勤）

・上田 假奈代

プログラム・オフィサー（非常勤）

・大澤 寅雄

・柿塚 拓真

・川那辺 香乃

・中脇 健児

・宮浦 宜子



所在地

〒590-0078 堺市堺区南瓦町3番1号 ロゴ

連絡先

電話072-228-7143

メールアドレスbunka@city.sakai.lg.jp

担当者

楠亀裕二（堺市文化課職員）



沿革

（2020年度）

2021.1 堺アーツカウンシル設立

2021.2 第2期堺文化芸術推進計画を策定

2021.3 堺市文化芸術活動応援補助金制度の創設

（2021年度）

公募型補助金の補助対象者への伴走支援

公募型補助金の申請に係る相談対応

公募型補助金制度の運用

相談支援

勉強会・研修の実施

文化芸術・社会的課題の現状調査

情報発信

公募型補助金の全体説明会及び個別相談会

（2022~2023年度）

公募型補助金の補助対象者への伴走支援

公募型補助金の申請に係る相談対応

公募型補助金制度の運用

相談支援

勉強会・交流会・研修の実施

文化芸術・社会的課題の現状調査

情報発信

公募型補助金の全体説明会及び個別相談会

企画担当者向け実践研修事業

ミッション

専門知識を有する人材が文化芸術に携わる人たちを支援することで、文化芸術の振興を図り、文化芸術を活用して、子育て・教育・福祉・観光・都市の活性化といった様々な分野の社会的課題の解決をめざす。

- ・研究成果の発信、共有
- ・文化芸術の推進に係る講演会、シンポジウム、ワークショップ等の開催
- ・公募型補助金制度の運用

ビジョン

堺のあちこちで文化芸術を通じた出会いや場作りの営みに寄りそうアーツカウンシルに

自己紹介

【堺アーツカウンシルの機能】

文化芸術活動の支援

・関連分野との有機的な連携のためのコーディネート機能

・文化芸術活動の推進における諸問題の解決のための相談機能

・公募型補助金の対象事業の事業効果を最大化するための助言

文化芸術施策の推進

・推進計画の方向性を踏まえた本市の文化芸術施策の進捗状況の確認

・進捗状況の確認を元にした事業効果を最大化するための改善提案

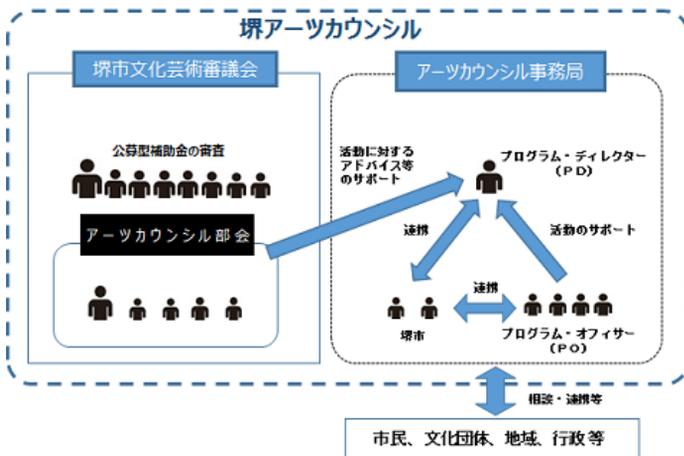
・地域における市民文化活動を下支える市内文化施設の機能向上に係る支援

調査研究・情報発信

・他市や海外の先進事例の情報収集

・優れた文化芸術活動に関する取組事例の紹介

組織図



令和5年度の回顧と展望

公募型補助金の申請件数は減少したものの、市民からACへの相談件数は増えたことからACへの認知はすこし向上したかもしれません。ただ相談の結果、事業内容が補助金の趣旨に合致していないことがわかり申請しなかったケース等もあり、申請件数だけでなく申請事業内容に着目したいと考えます。

定期的に開催した市民向けの地域とアートの勉強会・交流会の参加者数が伸び悩んでいるため、今後は市民のニーズ把握をしたうえで企画を練り直したいと考えています。

堺市文化振興財団と協働し実施した、地域文化会館の指定管理者の職員への「企画担当者のためのワークショップ実践研修」の2年目は、グループごとに子ども食堂、病院、高齢者のデイサービスでワークショップを実践しました。今後は2年間のプログラムを1年間に凝縮し、参加者を広げて声をかけていきます。

堺市社会福祉協議会と「福祉とアート」への協働の可能性をさぐり、地域に足を運び対話の機会を持ちました。既存の枠組みでは地域課題の解決が困難な時代だからこそ、地域に根ざしたACとして「つなぎ役」を担っていききたいと思えます。

助成事業

【堺市文化芸術活動応援補助金（令和3年創設）】

・助成目的

堺市文化芸術活動応援補助金は、歴史ある堺の文化を継承し、市民の文化活動の振興を図り、地域文化の創造に努め、また、文化芸術の力を活用して、子育て、教育、福祉、観光、都市の活性化等の幅広い分野における社会的課題の解決に資する事業の実施に要する経費を市が補助することにより、自由で心豊かな市民生活の実現及び都市魅力の創造に寄与することを目的としています。

・対象分野

補助対象となる分野は、自由都市堺文化芸術まちづくり条例第2条第1号に定める文化芸術です。この分野に該当する事業のうち、他分野との連携や新たな工夫を試み、創造性があること、また地域や社会の様々な課題に取り組む事業等を対象とします。

・区分

一般補助：スタートアップ支援、地域文化力向上

特別補助：市民文化活動推進、共生社会推進、舞台芸術創造発信

・採択件数

令和5年度：34件

・相談体制

堺アーツカウンシルPD,POによる申請・事業実施の個別相談会の開催



制作事業

【勉強会・交流会】

堺アーツカウンシルでは、堺市で文化芸術活動をする方、興味のある方向けに、学びと出会いの場として、月に1回程度、勉強会・交流会を開催。

・令和5年度開催実績

勉強会「地域でのアート活動を学ぶ勉強会」：4回開催

交流会「さかいとあーと井戸端かいぎ〜ゆるく話そう。地域とアート、つながりづくり〜」：3回開催

調査研究事業

相談事例の分析や勉強会のアンケート、「堺市文化芸術活動応援補助金」採択事業で実施いただいたアンケート結果等を基に、堺市における文化芸術の現状とよりよいあり方を研究。

他機関との連携

【企画担当者のためのワークショップ実践研修】

・行政機関：（公財）堺市文化振興財団

・主旨

堺アーツカウンシルのモデル事業として、（公財）堺市文化振興財団事業課の協力を得て、本市内の文化施設の企画担当者等を対象としたワークショップ実践研修を実施

情報発信

【情報発信】

・ ホームページ https://www.city.sakai.lg.jp/kanko/bunka/art_katsudoshien/sakai_artsCouncil/index.html

・ 公式SNS (X) @SAC_sakaibunka

【発行物】

・ 堺アーツカウンシルリーフレット

・ 堺アーツカウンシルニュースレターNo.8~12

・ プログラム・ディレクターのつれづれコラム（コラムは堺市ホームページ内で連載）

・ 堺アーツカウンシル活動報告書

AC
NET

団体個票

オブザーバー

組織形態

地方自治体（埼玉県）の文化行政部門

構成員

正規職員 12名
会計年度職員 1名

所在地

埼玉県さいたま市浦和区高砂3-15-1

連絡先

電話 048-830-2887
メールアドレス a2875-04@pref.saitama.lg.jp

担当者

文化振興担当 小暮 祥子

助成事業

埼玉県文化振興基金を活用した助成制度

①アマチュア文化団体等の活動成果発表等への助成
補助限度額：200千円（対象経費の1/2以内）
R5予算額：200千円×30件＝6,000千円

②伝統・郷土芸能団体が行う備品整備等への助成
補助限度額：200千円（対象経費について
200千円以内）
R5予算額：200千円×10件＝2,000千円

③子どもを対象とした文化芸術の体験事業等への助成
補助限度額：200千円（対象経費の2/3以内）
R5予算額：200千円×15件＝3,000千円

④観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、
産業など様々な分野と関わり合っている
文化芸術事業等への助成
補助限度額：300千円（対象経費の2/3以内）
R5予算額：300千円×10件＝3,000千円

ミッション

「心豊かな県民生活及び活力ある社会の実現に寄与すること」（埼玉県文化芸術振興基本条例）

ビジョン

文化芸術活動が行える基盤の整備・充実
埼玉らしい文化芸術の継承・創造と情報発信
文化芸術の担い手の育成・支援
文化芸術で地域の活性化

自己紹介

埼玉県の文化行政部門です。
助成金をはじめとする文化芸術団体の支援のほか、彩の国さいたま芸術劇場と埼玉会館の施設管理、無形民俗文化財などの伝統芸能の発信・継承支援などを行っています。

組織図

課長 — 副課長 — 総務・財団担当
文化振興担当
文化創造・発信担当

令和5年度の回顧と展望

彩の国さいたま芸術劇場が約1年半の大規模改修を終え、2024年3月1日にリニューアルオープン。

劇場の休館中は、芸術監督の近藤良平が埼玉県の各地を巡り、多彩な文化を探索するプロジェクト「埼玉回遊」を実施。約半年で埼玉県内を回遊し、中央、東部、西部、北部、秩父の各地域で計25か所を訪問して、芸術家ならではの視点で地域文化の発掘や発信を行った。

組織形態

公益財団法人三重県文化振興事業団
 ※作成時点で、地域アーツカウンシルは設立されていません。オブザーバー登録組織の情報となります。

構成員

73名

所在地

三重県津市一身田上津部田1234番地

連絡先

TEL : 059-233-1118
 FAX : 059-233-1115
 E-mail : sisetsu@center-mie.or.jp

担当者

施設利用サービスセンター
 生田 隆明



沿革

平成4年3月
 三重県文化振興事業団設立(25日)
平成6年10月
 三重県総合文化センター開館
平成16年10月
 三重県総合文化センターの管理運営に指定管理者制度が導入され、当事業団が平成19年3月31日までの2カ年半の指定管理者に指定（以降、5期目）

助成事業

※資本金の運用益による事業団独自の助成事業です

- ・助成目的
 県内における文化振興、生涯学習、男女共同参画の推進
- ・対象分野
 文化振興、生涯学習、男女共同参画の視点を持った団体・グループ
- ・内容 (2,748,014円)
- ・助成件数 7件
 芸術文化振興育成事業 2件 (1,746,000円)
 生涯学習社会づくり支援事業 3件 (473,014円)
 男女共同参画社会づくり支援事業 2件 (529,000円)

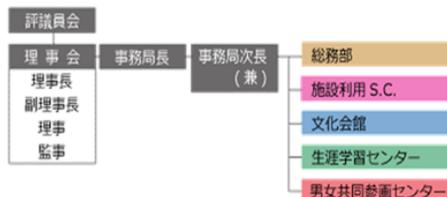
ビジョン

1. 県民・利用者の満足度を維持向上させる高品質なサービス提供
2. 安全・安心を最優先とした施設運営
3. 文化振興を担う専門人材と、みえの文化を担う次世代の育成
4. 誰もが利用しやすい施設づくりと利用者の公平性の担保
5. 公益性と収益性を両立した安定的な財政運営
6. 文化交流ゾーンによるシナジー効果を活かした魅力的な施設づくり

自己紹介

三重県の文化の振興、生涯学習社会の推進、男女共同参画社会の実現を目的に設置された事業団です。現在、指定管理者として5期目の指定を受けています。三重県では、地域アーツカウンシル機能についての公式見解や方向性は明示されていませんが、県域で文化振興を推進する事業団として、地域アーツカウンシル機能の必要性を日々、強く感じています。

組織図



令和5年度の回顧と展望

本年9月に「三重県文化振興条例」が制定されました。引き続き、具体的な指標を携えた「文化振興計画（3年）」の策定が進められています。当事業団は諮問機関である文化審議会には加わっておりませんので、詳細について推し量ることしかできかねますが、アーツカウンシル機能等の必要性については、条例・計画中の「新たな支援のあり方の検討」という項目で言及されているものと推察します。

組織形態

任意団体（2024年度中に法人化予定）

構成員**委員長** 竹内潔（ホスピテイルプロジェクト実行委員会／鳥取大学地域学部准教授／非常勤）**副委員長** 来間直樹（AIR475／クルマナオキ建築設計事務所／非常勤）**事務局長** 水田美世（非常勤）**構成団体** 県内でアーティスト・イン・レジデンスをはじめ芸術や文化プロジェクトを実施する12団体**所在地**680-8551 鳥取県鳥取市湖山町南4丁目101 鳥取大学
地域学部 竹内研究室**連絡先**

TEL. 0857-31-5087 E-mail. geiju@totto-ri.net

担当者

事務局長 水田美世

ロゴ**沿革****2016年6月**

2014・2015（平成26・27）年度に鳥取県内全域で開催されたアーティスト・イン・レジデンス・プログラム「鳥取藝住祭」がきっかけとなり結成。

2017年4月

鳥取で自らの暮らしと文化を作る人のウェブマガジン「+〇++〇（トット）」を開設。市民ライターによる広報とアーカイブの活動を中心に運営。以後、毎月公開型の編集会議を実施。

2017年9月

ライター／インタビュー講座スタート。

2018年9月

「もちよりパーティー」スタート。

2019年5月

2周年記念トークイベント、寄付キャンペーン実施。プロジェクトの現場を回る「トットツアー」スタート。編集講座スタート。

2021年6月

対話の場づくり「トットログ」スタート

「トットの美術館プロジェクト」スタート。美術館ができるまでを伝えるフリーペーパー『Pass me!』（県立博物館発行）との連携スタート

2022年9月

「鳥取クリエイティブ・プラットフォーム」構築事業スタート（2025年2月まで）

ミッション

鳥取県とアーティストリゾートとっとり芸術祭実行委員会が主催し、2014年度、2015年度に県内10カ所程度で開催したアーティスト・イン・レジデンス・フェスティバル「鳥取藝住祭」は、国内外のアーティストによる鳥取県内での滞在制作・展示活動（アーティスト・イン・レジデンス：AIR）を促進し、アーティストの活動を地域活性化につなげ、鳥取の豊かな自然に囲まれて地域住民とふれ合いながら創造活動ができる鳥取県の魅力を広く発信することを可能としてきた。そして、「鳥取藝住祭」開催地域では、空き家などの再生が進み地域住民の新たな交流拠点が生まれたり、アーティスト等の移住が促進されたりといった成果が見られるようになった。

本会は、この「鳥取藝住祭」の成果をさらに発展させ、創造活動を重視するという鳥取のイメージ形成とそれによる全国、世界への鳥取の情報発信を継続・強化することにより、鳥取の人々の創造性の涵養・発揮や鳥取への創造人材の移住・定住を促進すること（鳥取藝住の推進）を目的とする。

ビジョン

本会は、上記目的を達成するため、次の事業を行う。

- 1) 鳥取における創造活動についての鳥取県内外への情報発信に関すること
- 2) 鳥取県内で創造活動を行う個人や団体同士の連携に関すること
- 3) 創造人材の鳥取への移住・定住の促進に関すること
- 4) その他、鳥取藝住の推進に向け必要なこと

自己紹介

当会の構成団体は、過去10年ほどの間に県内外のアーティストとともに、いま、ここで、暮らすことの喜びや苦悩に向き合い、分かち合ってきました。地域社会が多くの課題に直面する中、これらの活動が、明日を生きる活力になり得ることを実感しています。この肌感覚をより多くの人と共有するため、2017年にWebマガジン「+〇++〇」を開設し、オフラインでの交流会を含め、試行錯誤を重ねてきました。私たちは今後もこれらの活動を継続・発展させ、創造的な活動の輪を広げたいと考えています。

【構成団体】※2024年1月現在

- 1 ホスピテイル・プロジェクト実行委員会
- 2 ことり舎（浜村温泉湯けむり映画塾）
- 3 NPO法人鳥の劇場
- 4 岩美現代美術展実行委員会
- 5 明倫AIR実行委員会
- 6 AIR475
- 7 こっちの大山研究所
- 8 鳥取夏至祭実行委員会
- 9 一般社団法人いなば西郷工芸の郷あまんじゃく
- 10 鹿野芸術祭実行委員会
- 11 SENRO
- 12 鳥取R29フォトキャラバン実行委員会

令和5年度の回顧と展望

本会は、2022（R4）年度より3年計画で「鳥取クリエイティブ・プラットフォーム構築事業」（全体像は4頁目にToC（Theory of Change）として掲載）に取り組んでいる。その中間年度にあたる今年度の成果は以下のとおり。

- ・トットツアー・もちよりパーティ・トットログなどの交流イベントを企画実施するコーディネーターを1名配置できた。これにより、当初予定からは多少遅れつつも、各イベントを計画的に実施でき、そこでの対話により、課題意識の共有や各団体の活動改善に向けた具体的な取り組みのアイデア（活動アーカイブの具体的なイメージ、Web上での共有プラットフォームの構想など）が生まれてきている。
- ・2022年度のリサーチチームによる基礎調査から団体による活動評価の重要な観点としてスタッフやアーティストの労働環境の問題が浮かび上がったため、このテーマに重点的に取り組むコーディネーターを配置した。7月からのヒアリング調査や、9月・11月に開催したオープンな勉強会を通じて課題が共有され、各団体の労働環境の改善のため、ガイドラインの作成を進めることになった。
- ・団体間の相互評価の仕組みの試行として、レビュアー1名を委嘱し、2団体のレビューを依頼した。レビュアー自身も活動団体の代表であり、双方にとって意義のあるレビューとなった実感があり、記事化によってその知見が他の団体にも還元されることが期待される。
- ・組織基盤整備の一環として、「アーツカウンシル・ネットワーク」の全国会議（東京+オンライン）に参加したところ、本事業の取組に注目する芸術系統括団体（日本芸能実演家団体協議会（芸団協））からの取材を受けることになった。また、全国のアーツカウンシル的組織とつながることができ、具体的な組織体制についても助言をうけられるチャンネルができた。
- ・2023年12月から第1段の寄付キャンペーンを準備しており、既存サポーターに応援メッセージを依頼したところ、改めて当団体の活動や本事業に対する共感と応援のこぼをいただくことができた。

制作事業

- ・「「アイアイ」プロジェクト報告フォーラム×トットローグー鳥取という“地方”で考える鑑賞教育ー」2023年5月10日（日）
- ・コア12団体との意見交換会 2023年6月10日（土）
- ・「トットのもちよりパーティー2023夏」2023年7月16日（日）
- ・「トットログvol.15 あなたのホット 이슈、誰かと共有しませんか？」8月21日（月）
- ・「持続可能なアート活動のためにー鳥取の個人的な芸術と労働についての話を収集するー美 術 家・岡田裕子編」2023年9月1日（金）
- ・「トットツアーvol.5 大山：アートとともにある暮らし」2023年10月1日（日）
- ・「エクアドルのアーティストに学ぶ、南米のフェミニズム・アート・アクティビズム」2023年11月18日（土）・19日（日）
- ・「トットログvol.16 “普通”ってなに？ーADHDをめぐるドキュメンタリー映像から考えるー」11月25日（土）
- ・「トットのもちよりパーティー2023冬」2023年12月16日（土）
- ・「トットログvol.17 季節とことばー鳥取暮らしをさらに豊かにするためにー」2024年1月14日（日）
- ・トットログvol.18 哲学カフェ@okudan（仮）ゲスト：松川えり 2024年3月以降



2023年7月16日（日）



2023年9月1日（金）



2023年10月1日（日）



2023年11月25日（土）



2023年11月19日（日）

調査研究事業

・「鳥取アートと暮らしのリサーチResearch on Tottori art and life」

「鳥取クリエイティブ・プラットフォーム」構築事業で最初に着手したのが本調査研究事業である。2022年の9月から2023年6月にかけて、「さっぽろ天神山アートスタジオ」のディレクターで鳥取にも縁のある小田井真美さんに、鳥取県内でAIRなどに取り組む団体（計10件）へのヒアリングを行っていただいた。ヒアリングには上海出身で東京を拠点とするアーティストのポート・チャンさん、北栄町在住のキュレーターである岡田有美子さんにも加わっていただき、多角的な視点から、鳥取県内のアーティストを迎える個々の「環境・状況」や、個別の独立した活動が紐づく地域としての鳥取とはどんな場所なのかを捉えることを目的とした。

小田井真美さんが個々の団体との対話から知り感じたこと、鳥取でのこれまでの蓄積やこれからの可能性について、レポートを寄せていただき、特設のウェブサイト「鳥取アートと暮らしのリサーチResearch on Tottori art and life」に公開する（2024年度末予定）。このウェブサイトには県内を縦横無尽に移動する中でポート・チャンさんが捉えた鳥取の姿も併せて掲載する。

・持続可能なアート活動のためにー鳥取の個人的な芸術と労働についての話を収集するー

岡田有美子さんには、より具体的に、活動を持続可能にするために必要な側面を提言をいただき、その構築の第一歩として、2023年7月より「労働編」のリサーチを実施している。

2012年に始まった「アートと暮らしとコノサキ計画」から「鳥取藝住祭」を経てtottoへと繋がる活動は10年を超え、その間に鳥取地域で活動する顔ぶれも多彩になっている。2025年には鳥取県中部の倉吉市内に県立美術館も開館するこのタイミングで、あらためて持続可能なアートと暮らしとコノサキを考えるために、団体の中心人物だけでなく、その周りで支える人（アートマネージャー、広報、ボランティア）、アーティスト、観客など様々な方から、それぞれの個人的な経験談を収集している。これまでのお話から「個人的なことは政治的なこと」であるということが改めて浮き彫りになってきており、この認識を以下に共有するかが次の課題となる。

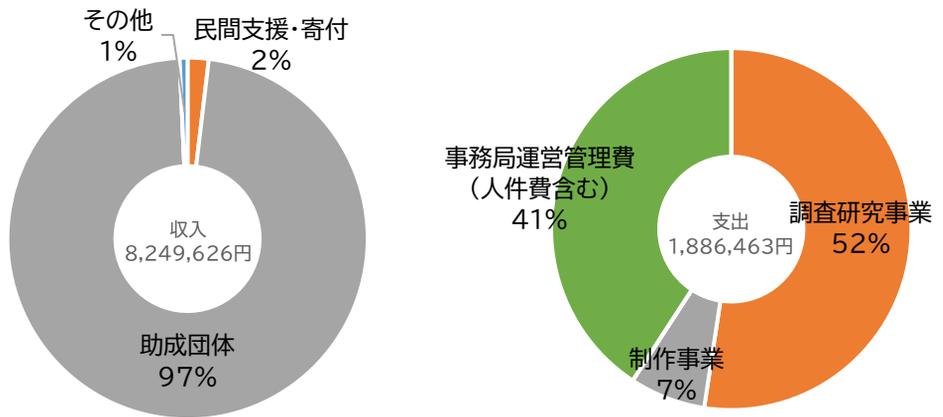
7月から毎月1回のペースで基本的に非公開で聞き取りを実施。9月・11月には、外部のアーティストを招く形で勉強会を兼ねて公開型とし、事業への理解を得たり参加者同士の交流や対話の場としても機能させている。

他機関との連携

・鳥取県立美術館（2025年3月開館予定）

「みんなで作る美術館」をコンセプトに掲げる新美術館に関し、建設から開館後の運営も担う「鳥取県立美術館パートナーズ(株)」との意見交換を始めている。AIRをはじめとする芸術文化活動に関する情報や相談の窓口の設置、開館に合わせた全県的なイベントの企画・実施における連携・協働の可能性を模索している。

収支円グラフ (2022(R4)決算)



情報発信

1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)

- ・ウェブメディア「+〇++〇」

ニュース掲載：もちよりパーティー1件、労働編リサーチ関連2件、トットログ4件、トットツアー1件

レポート掲載：トットログ2件、労働編リサーチ関連1件

2.広報制作物等

- ・「エクアドルのアーティストに学ぶ、南米のフェミニズム・アート・アクティビズム」チラシ
- ・「活動継続のための寄付金募集」チラシ
- ・ポストカード4種

【中長期アウトカム】
本事業の最終的アウトカム

- ①多くの団体・個人が相互に知見を共有しながら、創造的な活動を持続的に運営できる仕組みが整っている。
- ②多くの住民が創造的な活動に触れ、関わり、持続的・自律的に創造性を涵養・発揮する環境が整っている。
- ③①及び②が整った結果、人口減少で社会的資源が減少する状況下でも、創造性・革新性にあふれた活動が継続的・連続的に展開され、その恩恵を地域住民が持続的に享受し、他の地域と同等かそれ以上に豊かな暮らしのある地域となっている。

【短期アウトカム①】
実践活動の活性化

- 【維持】コア団体による創造的・革新的実践が継続・充実している。
- 【拡張】相互交流をきっかけに、新規の創造的・革新的実践が生まれている。
- 【定着】多様な価値観を持つ住民が対話・交流しており、住民が主体的にかかわる取組として定着している。

【短期アウトカム②】
評価を通じた連携協働体制の構築

- ・様々な実践の成果やプロセスを可視化・共有・評価する仕組みのプロトタイプが整備され、活動の質の向上に有効に作用している。
- ・評価された団体の活動を紹介するフォーマットが整っている。
- ・レビューを元にした記事を介して団体が相互に切磋琢磨している。

【短期アウトカム③】
中間支援組織の基盤整備

- ・中間支援組織(クリエイティブプラットフォーム)の安定的な組織的・財政的基盤が築かれている。

【アウトカム指標①】

- 【維持】コア団体の活動継続10団体
- 【拡張】新規のコア団体 5団体
- 【定着】ウェブマガジン「totto」へのアクセス数(年間ユニークIP)の増加 +100%(15万件)

【アウトカム指標②】

- ・レビューを元にした記事の数 4件
- ・コア団体等に対するアンケートでレビュー 80%
- ・記事化を望む団体の割合 80%

【アウトカム指標③】

- ・組織診断シートの改善達成率 80%以上
- ・事務局専門的スタッフの自主財源による有償化:200時間分
- ・継続寄付 70名85万円
- ・自主財源比率(補助金・助成金以外) 50%

【アウトプット①】

- ・東中西部でコーディネーター各1名(計3名)任命
- ・コア団体の活動維持・新規発掘等
 - ・トットツアー 6回
 - ・もちよりパーティ 12回
 - ・共有備品等リストへの参加者 10団体・個人
- ・多様な価値観を持つ住民の対話交流
 - ・トットログ 12回
 - ・編集ワークショップ 6回

【アウトプット②】

- ・リサーチチームの編成
 - ・専門家2名/調査員2名
 - ・レビュー候補者2名
- ・リサーチチームによる基礎調査 10件
- ・プロトタイプ作成のための評価実践(レビュー) 6件
- ・ライター講座 6回

【アウトプット③】

- 【組織基盤】
 - ・役員5分野から各1名 計5名参加
 - ・事務局員候補者研修 6回開催
- 【財政基盤】
 - ・寄付キャンペーン 年2回 計6回
 - ・収益事業の立ち上げ 1件

【活動①】

- 【維持・拡張】
 - ・トットツアー、もちよりパーティ実施
 - ・備品等及びその共有体制の整備
- 【定着】
 - ・トットログの実施
 - ・編集ワークショップの実施
- 【維持・拡張・定着】
 - ・地域に根差して事業を牽引するコーディネーターの設置

【活動②】

- ・専門家・調査員・レビュー候補者からなるリサーチチームの編成と調査研究
- ・相互評価の仕組みのプロトタイプ設計及びリサーチチーム:コア団体間での試験的適用とフィードバック収集
- ・評価実践の共有を目的とした記事作成のためのライター養成

【活動③】

- ・多様性のある役員構成構築(文化・まちづくり・福祉・教育・経済等)
- ・事務局員候補者の事務能力向上
- ・寄付キャンペーンの実施
- ・収益事業の立ち上げ

【本事業で解決する課題①】
地域活力のボトルネック(実践・量)

- ①既存の創造的・革新的な実践の継続を図る仕組みの不在
- ②①に追隨する新たな実践を支援する体制の不足
- ③取組の住民への浸透・定着の不足

【本事業で解決する課題②】
連携協働のボトルネック(支援・質)

- ①様々な実践の成果やプロセスを可視化・相互評価・共有し、連携しながら相互の質の向上を図る仕組みの不在
- ②評価的視点をもった人材の不足

【本事業で解決する課題③】
組織基盤強化のボトルネック

- 時間軸:他の軸と同時並行
- 課題①及び②の取り組みを安定的かつ持続的に推進していくための組織的・財政的基盤が脆弱である。

【根本的問題】

- ①他県に先行して進む地域活力の低下
 - 鳥取県は、もともと人口最少県であったところに少子高齢化・人口減少が進展し、他県に比べて社会的資源の量の不足とそれに伴う地域活力の低下が深刻である。
- ②創造的な取り組みの評価等を行う連携協働の不備
 - 限られた社会的支援を有機的に結び付け、地域活力の維持を質的に向上していくことが求められているが、既存の枠組みにとらわれない革新的で創造的な取り組みについて適切に評価し、知見の共有をはかる連携協働が十分に行われておらず、単発的・限定的な取組に終始してしているきらいがある。
- ③連携協働体制を支える中間支援の組織基盤の脆弱性
 - 地域活力の維持・向上のためには、試行錯誤が許容される(一定程度の失敗も許される)環境を醸成する必要があり、そのためには、個々の取り組みを進める主体とそれを支える支援の取組がともに安定的に持続する体制を整える必要があるが、現時点ではいずれも脆弱なままである。

組織形態

宮崎県庁内の文化振興担当課

連絡先

0985-26-7117

所在地

〒880-8501

宮崎市橘通東2丁目10番1号

担当者宮崎県 総合政策部 みやざき文化振興課
文化企画担当**アーツカウンシルとの連携状況**

アーツカウンシルみやざきを継続的に設置し、文化活動の実施に係る相談対応、先導的なパイロット事業や助成事業等もアーツカウンシルみやざきへ委託により実施することで、県内文化振興について連携して取り組んでいる。

アーツカウンシル設置の背景・目的

宮崎県で開催された国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭の開催決定を契機として、県民の文化活動の活性化に向けた体制を強化することとなった。

そこで、県内文化団体や県外とのネットワークを強化しながら、国文祭・芸文祭を契機に盛り上がった文化振興の機運を継続・発展させる要となる組織であるとともに、福祉・観光・まちづくり・産業などの施策との有機的な連携によって、地域の歴史・風土等を反映した特色ある文化芸術の発展を図り、県内で文化芸術を軸とした、経済価値によらない「新しいゆたかさ」の実現を目指すことを目的として、「アーツカウンシルみやざき」を設置するに至った。

令和5年度の回顧と展望

アーツカウンシルみやざきとの連携により、引き続き県内文化振興に取り組んでいる。

→アーツカウンシルみやざき 36ページ



AC
NET

組織形態

民間の任意団体

沿革

2021年2月 「鹿児島県立美術館設立を考える会」に併設する形で設立

構成員

会長／宮永祥子
 副会長／鹿児島デザイン協会副会長 塩津洋一
 事務局長／二科会デザイン部理事 延時秀一
 顧問／島津公保
 委員／
 鹿児島県美術協会会長 二科会鹿児島支部長 祝迫正豊
 鹿児島県写真協会会長 村上光明
 鹿児島県書道会顧問 上野一範
 鹿児島大学教育学部教授 日展監事 池川 直
 日置市美術協会会長 東條新一郎
 日本ペンクラブ会員 月野浩二
 JIA登録建築家 鯨坂 徹
 画家 きはらごう

所在地

892-0842 鹿児島市東千石町3-45 (アートホール内)

担当者

会 長 宮永祥子 090-3413-4115
 副会長 塩津洋一 090-5080-4047

ミッション

「設立準備機構」としての当面のミッションは、県にさまざまな情報提供をし、協調路線を歩みながら、本来の「アーツカウンシル鹿児島」の設置を働きかけていく。

ビジョン

文化芸術の振興発展を通して、全ての県民が潤いを感じ、暮らしやすさを実感する「文化立県・鹿児島」を目指す。

自己紹介

「アーツカウンシル鹿児島設立準備機構」は、2019年2月に発足した「鹿児島県立美術館設立を考える会」を母体に、2021年2月に設立しました。

県立美術館設置の学びや活動を重ねるにつれ、鹿児島県にも美術を含む文化芸術全般を統括し、専門性、中立性、公平性を保ちながら人や情報の流れをスムーズにする必要性を感じて本団体の設立に至ったものです。

民間の任意団体であり、助成事業等の実績は全くありませんが、全国ミーティング等に参加させていただきながら、県外の有益な情報を収集し、県当局にお知らせするというスタンスで活動を続けています。

令和5年度の回顧と展望

今年度、当会は二つの大きな行事を実施しました。

①4月 鹿児島港本港区利活用アイデア募集に応募し、7月のポスターセッションにてプレゼンを実施。まちづくりの観点からも、県立美術館設立を呼びかけました。

②10月 鹿児島での国体開催にあわせた文化プログラムの一環として、『燃ゆる感動・美のアスリート達 シン・かごしまアート展』を開催しました。オール鹿児島で絵画、彫刻、写真、インスタレーション、建築、工芸（薩摩切子、薩摩ボタン、切絵、甲冑）デザイン、イラストなどの各分野を一堂に集めました。

県の文化振興課との会合で、鹿児島県の補助事業部分における分野別予算配分は分野の違いで大きな偏りあり、それが何十年も続いていたことがわかりました。（音楽や演劇に比べ、美術分野は全体の1%／P4資料参照）
来年度は、美術教育や振興の弱体化による直接的な影響が大きい子ども達へ、ワークショップ等体験できることを進め、同時に子育て世代へもVUCA時代を生き抜くために、STEAM教育等多様で柔軟性や突破力のあるデザイン思考やアート思考の普及に努めます。

制作事業

* 『燃ゆる感動・美のアスリート達 シン・かごしまアート展』開催

9/20～10/29、かごしま国体・かごしま大会時期に合わせ、2商業施設内ギャラリー、鹿児島市立美術館、天文館観光案内所前、鹿児島空港にて作品を展示

- ・ 10/12 内覧会及びオープニングパーティを開催（スポンサー、メディア、経済、観光、アート関係者招待）
- ・ 海沿い・川沿い・都心型・丘の上など、美術館の立地提案に対するアンケート実施



マルヤガーデンズ 内覧会（メイン会場）



会場入り口（大リーグ HR甲冑）



活動パネルもPR展示



ムービーコーナー

制作事業

* 『シン・かごしまアート展』開催（前頁からの続き）



センテラス天文館ギャラリー



Neoハチ・市立美術館



鹿児島空港



センテラス天文館



塩田知事に開催挨拶



10/15・ワークショップ



TV取材（KTS）



オープニングパーティー



* 7月、本会の活動紹介冊子・改訂増刷
（A4、36ページ、800部）



その他の事業

* 7月、県による「鹿児島県港本港区エリアの利活用にかかるアイデア募集」に街づくりの観点から美術館建設を提案し、ポスターセッションに参加。



島津顧問によるプレゼン



桜島の景観に配慮した陸上の本館に加え、海上の移動型分館が魅力

他機関との連携

* 鹿児島デザイン協会主催、2月の「デザイン百覧会」にて、活動紹介パネル展示とアンケート収集(新美術館の立地について)



* 鹿児島県美術協会主催/5月の「県美展」会期中に活動紹介パネル展示



- * 7月と12月、県文化振興課との意見交換会にて
 - ・ ①分野ごとの予算資料を請求
 - ・ ②アーツカウンシルについての情報提供
- ACの働きやアート界の動向について紙資料を提出

令和5年12月20日
文化振興課

○県立美術館設立を考える会との意見交換会

文化振興課資料

1 R5年度文化振興課予算のうち、補助事業部分の分野別予算配分
(補助事業：文化の基り高いこしま形成事業 交付決定額計 13,033千円)
<分野別割合> (千円)

	音楽	演劇	伝統芸能	美術	庁内芸術	計
交付決定額	6,661	3,000	1,783	135	1,454	13,033
件数	138件	6件	4件	2件	3件	33件
割合	51.1%	23.0%	13.7%	1.0%	11.2%	100%

参考資料:

- ・フォブスの記事より「アートとビジネスの近接、「文化資本経営」がいよいよ動き出す」
<https://forbesjapan.com/articles/detail/67246>
- ・『福岡「セントラルパーク」構想、芸術文化でにぎわい作り』データで読む地域再生
https://www.city.fukuoka.lg.jp/_02/centralpark-kousou/
- ・『アートを本業の経営力向上に活用する潮流』
https://www.meti.go.jp/_art_economic/pdf/001_05_00.pdf
- ・ART news JAPANより『21世紀の健康を支えるのはアートだ!』
<https://artnewsjapan.com/article/1272>

国立アートリサーチセンターの設立
<https://bijutsutecho.com/magazine/news/headline/26891>

情報発信

- ・ ホームページ
<http://artscouncil-kagoshima.org>
- ・ フェイスブック
<https://www.facebook.com/kenbiseturitu>

「鹿児島県立美術館設立を考える会」と共有



組織形態

市民文化局 市民文化振興室内に「パラアート推進担当」及び「音楽のまち推進担当」を設置
※川崎市文化財団及び「音楽のまち・かわさき」推進協議会が実施する事業との連携部署

構成員

6名
・パラアート推進担当（課長1、係長1、職員1）
・音楽のまち推進担当（課長1、係長1、職員1）

所在地

川崎市川崎区川崎駅前本町11-2

連絡先

044-200-2280

担当者

・パラアート推進担当 酒井・其田
・音楽のまち推進担当 野並

ロゴ**沿革（関連事項も記載）****2004年**

市民団体「音楽のまち・かわさき」推進協議会 発足し、事業連携

2017年～

川崎市文化財団に「パラアート推進モデル事業」を委託

2018年～

「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局機能を川崎市文化財団に統合

2019年～

「パラアート推進事業」を川崎市文化財団へ移管し、補助金を交付

2020年～2021年

新型コロナウイルス感染症拡大に伴う「川崎市文化芸術活動応援事業（会場使用料等助成）」に係る補助金を川崎市文化財団へ交付

2024年

川崎市市制100周年

「音楽のまち・かわさき」推進協議会発足20周年

他機関との連携

川崎市文化財団や「音楽のまち・かわさき」推進協議会に対し、補助金を交付するとともに、事業実施にあたっては、連携・協力し、事業を推進している。

ミッション

パラアート推進事業では「障がいのある・なしに関わらず親しめる芸術文化活動＝パラアート」と捉え、川崎市文化財団が行うパラアートの活性化につながる中間支援の取組と連携することで、誰もが文化芸術に携わることができ、文化芸術に親しみ、楽しめる環境づくりを推進します。

ビジョン

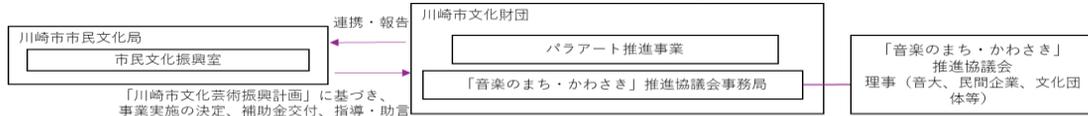
本市の掲げる「かわさきパラムーブメント※」の方針に基づき、「誰もが芸術文化活動に親しんでいるまち」に寄与することを目指します。

※「誰もが自分らしく暮らし、自己実現を図れるまち」の実現を目指す取組。

自己紹介

パラアート推進事業は、川崎市が進める多様性と社会的包摂に向けた「かわさきパラムーブメント」の一環として、公募型事業委託や他団体との連携によるパラアートの普及啓発、作品展示会の開催を行うほか、専用ホームページやSNSを活用した情報発信、交流会等の開催によるネットワークの構築、相談窓口の運営、調査研究等に取り組む川崎市文化財団と連携し、取組を進めています。

また、川崎市文化財団は「音楽のまち・かわさき」推進協議会の事務局として、団体・個人・事業者等のネットワーキングや広報、コーディネートなどの支援を通じて、多様な主体が協働して取り組む「音楽のまちづくり」のプラットフォーム機能を有しているため、音楽分野においても、川崎市文化財団、「音楽のまち・かわさき」推進協議会と連携しています。

組織図**令和5年度の回顧と展望**

パラアート推進事業においては、コロナ禍が明けて「公募型事業委託」の新規応募団体が増加しました。SDGsの機運の高まりにより企業や商業施設から、障がいのある方の絵画展示やステージ発表等についての相談も増加しています。こうした「社会包摂を目指し活動する団体や企業」と「障がいのある当事者」を効果的につなぐためにも、中間支援の役割を果たせるよう、引き続き認知度向上を目指す川崎市文化財団と連携していきます。「音楽のまち・かわさき」推進の事業では、TV、ラジオなどのマスメディア連携による情報発信やサウンドメディアによる情報提供等により市内の音楽活動を支援し、令和5年時点の音楽イベント件数はコロナ前の水準まで回復していないものの、令和6年度においては市制100周年の機運が市民の文化芸術活動に大きな後押しとなると考えられています。引き続き、市内音楽活動のプラットフォームとして情報面での支援の面でも連携していきます。

AC
NET

組織形態

公益財団法人金沢芸術創造財団事業課の事業として開始

構成員

統括ディレクター（非常勤）

黒澤伸

ディレクター（有償ボランティア）

金谷亜祐美、齋藤恵太、木埜下大祐

所在地

金沢市柿木島1番1号 金沢市役所第二本庁舎2階

連絡先

Tel. 076-223-9898

担当者

黒澤伸

ロゴ



沿革

2022年

- ・（公財）金沢芸術創造財団事業課の事業として開始
- ・文化芸術活動に関する相談やマッチングを行う相談窓口の設置
- ・文化芸術活動広報小口支援開始

2023年

- ・アーティストバンク公開
- ・アーティスト向け事業開始



ミッション

- ・文化芸術の担い手・支え手の活動に伴走・支援し、活動や新しい挑戦のしやすい環境を醸成する。
- ・文化芸術への関心を一層高めるための情報の集約や提供を行う。
- ・文化芸術活動がまちづくりや観光、福祉、教育などの分野とも連携する創造的な地域づくりに貢献する。

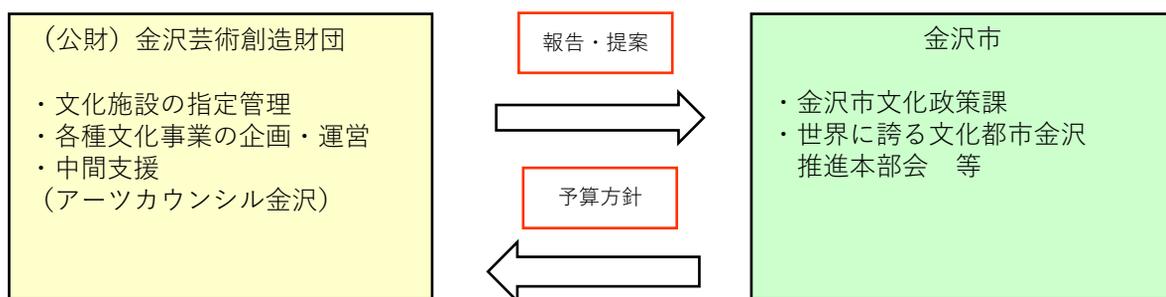
ビジョン

将来にわたって文化活動を支え、市民にとっての社会資本となる文化的価値や人的ネットワークをいかに創造していくか、多くの人に関わり、様々なアイデアや挑戦が次々と生まれる多様で寛容性の高い都市環境の創出のために何ができるか、そうした課題を起点に、地域内外の文化活動の状況を複眼的にモニター・研究しながら、中間支援プログラムとして皆さまと広く情報を共有し、また、人材育成、活動支援・伴走、コミュニケーション機会の創出などの施策を、文化活動へのリスペクトと柔軟性、そしてスピード感を持って実施していくことを目指しています。

自己紹介

アーツカウンシル金沢は、金沢市が令和3年3月に策定した金沢市文化芸術アクションプランの基本理念である「文化芸術にさらに磨きをかけ、未来へつなぐ世界の文化都市金沢」の実現に向け、多彩な文化芸術の担い手・支え手の取り組みを支援し、誰もが芸術文化に親しみ活動しやすい環境を醸成するための事業プログラムとして、公益財団法人金沢芸術創造財団が運営するものです。

組織図



令和5年度の回顧と展望

令和4年度で発足から1年半が経ち、統括ディレクターを除いて2名のディレクター（有償ボランティア）でスタートしていたカウンスル事業に音楽系1名が加わり、ディレクターが4名の体制となった。しかしながら、石川県の国民文化祭が重なったことでオフィサーがカウンスル事業に十全に関与できず、新規のパイロット事業等には手がついていない。一方で準備していた公式HPがようやくオープンした。カウンスルの目指すものや相談窓口、助成事業の紹介の他、圏域で活動するアーティストの紹介ページ（アーティストバンク）やWEBマガジンを主体とするもので、まだまだ認知度の低いカウンスル事業の存在証明となっている。制作系事業としては音楽が中心ではあるが学校や街中へのアウトリーチ活動が安定的に件数を伸ばし、アーティストの活動の場を広げている。将来的にはジャンルを拡大していきたい。年明けに大きな震災があったことから、次年度は災害からの復興に際してどのような芸術活動支援が可能か、が大きなテーマになると思われる。こうした面についても鑑みながら、特に交流人口拡大に繋がる助成金の枠組みなどを考えたい。（記：統括ディレクター）

助成事業

文化芸術活動広報小口支援

内容：金沢市における文化芸術活動の発信強化を図るため、個人・団体の広報活動に対して助成金を交付する。
助成金額：上限30,000円（広報活動に関する費用の1/2）

制作事業

①市民アンサンブルの日

公募で集まったアンサンブル団体が出演するコンサートを開催。

②まちなかコンサート

まちなかでコンサートを開催し、アーティストの活動場所の発掘と気軽に文化芸術に触れる機会を創出。

③お届けアーツプログラム

市内で活動するアーティストを小・中学校、幼稚園等の地域の施設に派遣するアウトリーチ活動を実施。

その他、音楽アーティスト向けに「音楽アウトリーチ講座」、子ども向けに身体表現や創作などのワークショッププログラムを実施する「子どもアーツプログラム」を開催。

調査研究事業

相談対応及び各種事業の参考、また必要な施策について検討・検証するために、市内外で起こる文化活動を調査。

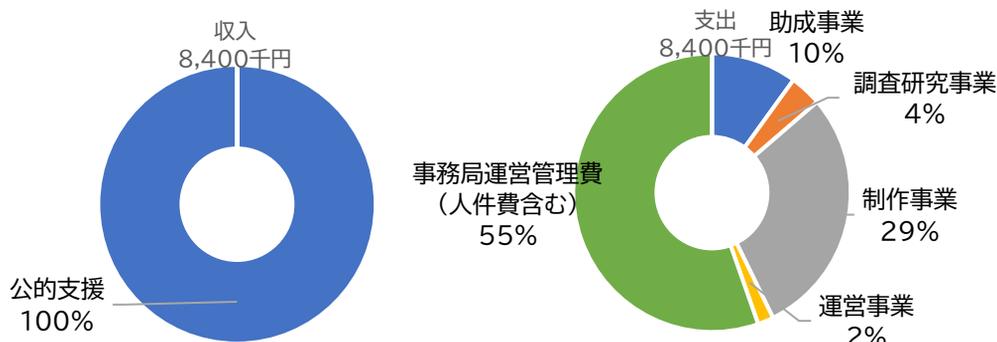
その他の事業

- ・アーツカウンスル金沢ウェブサイトでの情報発信（アーティスト紹介、WEBコラム記事の作成）
- ・アーティスト向け講座の開催（インボイス講座、確定申告講座）
- ・震災とアート～災害復興時の芸術活動支援について（レクチャーと懇談会／3月開催予定）

他機関との連携

- ・アーティスト向け講座の開催（NPO法人金沢アートグミと共同開催）

収支円グラフ



情報発信

アーツカウンスル金沢WEBサイト
<https://artscouncil-kanazawa.jp/>

金沢芸術創造財団Facebook
<https://www.facebook.com/kapadf/>

金沢芸術創造財団Instagram
https://www.instagram.com/arts_kanazawa/

組織形態

地方自治体

構成員

約70人

所在地

京都市中京区寺町通御池上る上本能寺前町488
分庁舎地下1階

連絡先

電話 075-222-3119

メールアドレス bunka@city.kyoto.lg.jp

担当者

天野

ロゴ



助成事業

京都市芸術文化特別奨励制度

事業への助成ではなく、担い手育成を目的に京都市内で活動する芸術家を奨励する制度。1個人又はグループにつき300万円を交付。

京都市 連携・協働型文化芸術支援制度補助金（通常支援型）

京都市への寄付を財源として京都市内で行われる事業を公募・採択。令和5年度は上限100万円の創造支援枠、上限10万円の活動サポート枠の2つの枠組みで補助。創造支援枠は補助金をアーティストフィーにも充当可能。

その他の事業

京都市文化芸術総合相談窓口(KACCO)

文化芸術活動全般に係るアドバイス、各種補助金の紹介等、幅広く相談に対応。

東山 アーティスト・プレースメント・サービス(HAPS)

若手アーティスト等の居住・制作・発表の場づくりを支援。

京都・文化ファンディング戦略推進事業

社会全体で文化芸術を支えるため、文化芸術に特化した寄付ポータルサイトや、寄付を財源とした補助制度「Arts Aid KYOTO」等を運用。

など

他機関との連携

外郭団体や各種文化施設等の本市関連機関のほか、京都市芸術文化協会など各種芸術関連団体と連携して取組を推進。

ビジョン

世界文化自由都市宣言（昭和53年度）

文化による世界平和の実現を希求した「世界文化自由都市宣言」をあらゆる政策の最上位の都市理念と位置付け、文化を基軸とした都市経営を推進。

京都文化芸術都市創生条例（平成18年度）

優れた京都の文化芸術を通じて市民生活やまちづくりの取組を活性化し、併せて学術や産業との連携を図ることにより、京都を新たな魅力に満ちあふれた世界的な文化芸術都市として創生することを目指した条例。

京都文化芸術都市創生計画（現行は第2期。平成28年度策定）

京都文化芸術都市創生条例に基づく取組を進めるための具体的指針として策定。

自己紹介

山紫水明と称される美しい自然を有する京都は、平安遷都以来、政治・文化・宗教の中心として発展し、悠久の歴史を歩んできました。繊細な美意識と高い精神性を伴った文化の集積を支えているのは、人々の日々の衣食住などの暮らしの文化です。永い歴史の中で培われた成熟した都市文化を基盤に新しい文化を創造し続けるまちであることを目指して、各施策に取り組んでいます。

令和5年度の回顧と展望

文化庁が京都へ全面的に移転し、大阪・関西万博の開催が間近に迫る状況の中、厳しい財政状況にあっても行財政改革と都市の成長戦略を両輪とした取組を推進。10月には京都駅近辺に京都市立芸術大学を移転。

特に、今後も少子化傾向が続く見込みであることに加えて、ライフステージの変化を契機とした市外への人口流出等、少子化・人口減少問題への対応が市政の最重要課題になっているなか、京都の強みである文化力を最大限に活かして、この都市の将来に関わる課題にアプローチする政策パッケージとして、「文化芸術による少子化・人口減少対策」等の取組を推進した。

今後も、京都文化芸術都市創生計画に掲げる方向性の下、文化芸術施策を推進していく。

AC
NET

組織形態

公益財団法人広島市文化財団に設置予定

構成員

アートカウンシル広島準備チーム
 統括責任者（常勤・市OB）
 統括副責任者（常勤・市OB）
 チームリーダー（常勤・財団OB）
 スタッフ（常勤・市派遣）

所在地

広島市中区加古町4番17号

連絡先

公益財団法人広島市文化財団
 文化事業部企画事業課
 電話：082-244-0750
 メール：bunka@cf.city.hiroshima.jp

担当者 前田苑美（スタッフ）

ロゴ 未定

沿革

2021年4月

- ・文化財団に市職員1名が派遣され、アートカウンシル機能導入に向けた調査・研究を開始

2022年4月

- ・市からの受託事業として事業内容や組織体制等を検討するためアートカウンシル広島準備チームを発足（～現在）
- ・外部有識者を運営アドバイザーに委嘱（～現在）

ミッション

検討中

ビジョン

検討中

自己紹介

広島市がまちづくりの最高目標として掲げる「国際平和文化都市」の実現を目指し、文化振興の更なる推進や文化芸術を通じた「平和文化」の普及・啓発に一層取り組んでいくため、文化財団へのアートカウンシル機能導入により、専門人材を活用した中間支援体制の構築に向けて検討を進めています。

組織図

検討中

令和5年度の回顧と展望

令和5年度は、昨年度に引き続きアーツカウンシル広島の役割や体制等について検討を進めましたが、ミッションやビジョンの整理に課題を残していることから、今後はこれまで以上に市の所管部署と連携しながら設立に向けた調整を図る必要があると考えています。

助成事業 令和5年度予算 2,879,000円 ※文化財団の既存事業（別途予算）

【目的】市民の多様な文化活動に対して財政的な支援を行い、その自主的な活動の盛り上げを図る。

【対象分野】音楽、美術、演劇、民俗芸能等

【内容】・印刷費、会場使用料、舞台・会場設営費に係る経費の合計額の2分の1以内で上限20万円
・年2回（上期、下期）公募 ※一つの団体又は個人への助成は同一年度内に1回

【助成件数】令和5年度採択件数 11件（令和5年度下期実施事業のみ）

※上記に加え、今年度中に令和6年度上期実施事業を採択予定（審査対象15件）

【助成期間】上期：4月1日～9月30日 下期：10月1日～翌年3月31日

【評価体制および相談体制】文化事業部企画事業課

制作事業 なし

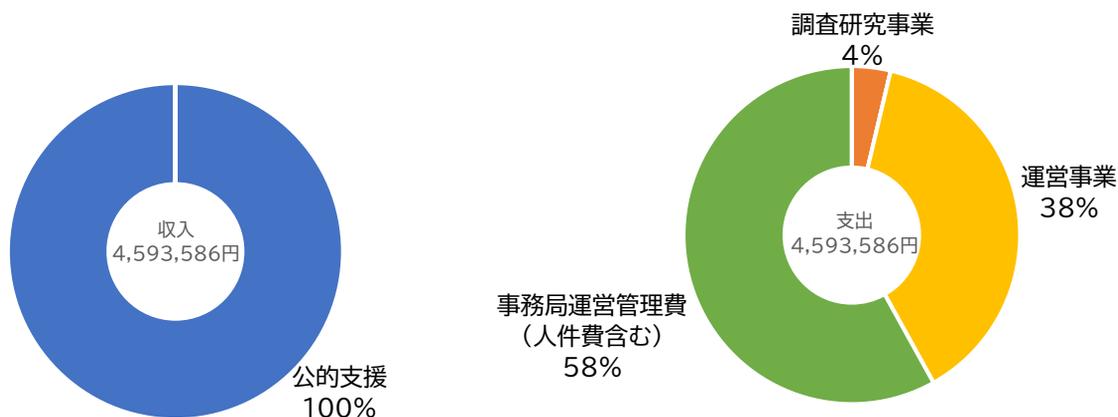
調査研究事業 なし

その他の事業 なし

他機関との連携

- 【行政機関】
- ・広島市市民局文化スポーツ部文化振興課
 - ・広島県環境県民局文化芸術課（広島県公立文化施設ネットワーク）
- 【文化芸術団体】
- ・広島市文化協会
- 【その他】
- ・エリザベト音楽大学

収支円グラフ（令和4年度決算）



情報発信

ウェブサイト <https://artscouncil-hiroshima.jp/>
Facebook <https://www.facebook.com/bunkazaidanjigyoka/>
X (旧Twitter) @bunka_jigyoku

発行物 『文化情報マガジン to you』（毎月25日発行）

2024年3月発行

アーツカウンシル・ネットワーク

編集：アーツカウンシル新潟

独立行政法人日本芸術文化振興会

令和5年度アーツカウンシル・ネットワークに関する運営業務委託事業

掲載内容の参照・転載の際には、以下までご一報くださいますようお願いいたします。

独立行政法人日本芸術文化振興会

〒102-8656 東京都千代田区隼町4-1

E-mail：chosakenkyu-nt@ntj.jac.go.jp